

2023年度
シラバス

札幌大谷大学短期大学部

2023年度 札幌大谷大学短期大学部 シラバス目次

保育科対象科目

■必修科目・保育科教養科目

初年次教育・情報リテラシー	5
日本語コミュニケーション演習(口語表現)	6
日本語コミュニケーション演習(文書表現)	7
仏教と保育	8

■必修科目・保育科専門科目

教育原理	9
保育原理	10
特別研究Ⅰ(音楽)	11
特別研究Ⅰ(美術)	12
特別研究Ⅰ(健康)	13
特別研究Ⅰ(自然)	14
特別研究Ⅰ(子育て支援・特別支援)	15
保育者論	16

■選択科目・保育科教養科目

環境科学	17
社会人基礎	18
情報処理	19
日本国憲法	20
英語(口語表現)	21
英語(文書表現)	22
体育理論	23
体育実技	24

■選択科目・保育科専門科目

社会福祉	25
子ども家庭福祉	26
社会的養護Ⅰ	27
社会的養護Ⅱ	28
乳児保育Ⅰ	29
乳児保育Ⅱ	30
保育の心理学	31
子どもの保健	32
教育課程論	33

子ども家庭支援論	34
児童文学	35
子ども家庭支援の心理学	36
教育相談の基礎	37
臨床心理学	38
子どもの理解と援助	39
保育内容総論	40
保育音楽Ⅰ	41
保育音楽Ⅱ	42
保育音楽Ⅲ	43
保育音楽Ⅳ	44
特別支援教育と保育(理論)	45
特別支援教育と保育(実践)	46
総合表現	47
保育美術	2023年度未開講
子どもの食と栄養	48
特別研究Ⅱ(音楽)	49
特別研究Ⅱ(美術)	50
特別研究Ⅱ(健康)	51
特別研究Ⅱ(自然)	52
特別研究Ⅱ(子育て支援・特別支援)	53
幼児と環境	54
幼児と健康	55
幼児と言葉	56
幼児と人間関係	57
幼児と表現	58
保育内容(言葉)	59
保育内容(健康)	60
保育内容(人間関係)	61
保育内容(環境)	62
保育内容(表現Ⅰ「音楽」)	63
保育内容(表現Ⅱ「美術」)	64
幼児教育の方法と技術	65
子どもの健康と安全	66
子育て支援	67
保育・教職実践演習(幼)	68
保育実習指導Ⅰ	69
保育実習指導Ⅱ	70
保育実習指導Ⅲ	71
保育実習ⅠA	72
保育実習ⅠB	73
保育実習Ⅱ	74
保育実習Ⅲ	75
教育実習Ⅰ	76
教育実習Ⅱ	77

専攻科保育専攻対象科目

■必修科目・専攻科保育専攻専門科目

発達心理学特論Ⅰ	78
発達心理学特論Ⅱ	79
幼児教育課程特論	80

■選択科目・専攻科保育専攻専門科目

障害児教育臨床	81
保育健康特論	82
教育相談特論	83
子育て支援特論Ⅰ	84
子育て支援特論Ⅱ	85
表現法「音楽」	86
表現法「美術」	87
子どもと自然環境	88
保育内容研究「音楽」	89
保育内容研究「美術」	90
保育内容研究「健康」	91
保育内容研究「造形」	92
保育内容研究「言葉」	93
教育原理特論	94
日本語表現法	95
保育人間関係特論Ⅰ	96
保育人間関係特論Ⅱ	97
子どもの特別支援と精神保健	98
保育環境特論	99
保育音楽特論	100
保育美術特論	101
基礎ゼミナール	102
修了研究(基礎理論系)	103
修了研究(保育内容「環境」「健康」系)	104
修了研究(保育内容「表現」系)	105
幼稚園実習	106
保育所実習	107
施設実習	108

■選択科目・専攻科保育専攻専門関連科目

仏教思想史特論Ⅰ	109
仏教思想史特論Ⅱ	110
実用英語	111
情報処理演習	112
職業論	113
仏教文化史	114

授業科目	初年次教育・情報リテラシー	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	(芸術学部音楽学科) 三山 博司、高田 由利子、河野 泰幸、鎌倉 亮太 (芸術学部美術学科) 藤本 和彦、小町谷 圭 (社会学部社会学科) 西清 功、和田 佳子、丸山 宏昌、太田 稔、山田 政樹、上戸 理恵 (短期大学部保育科) 山田 千春、田中 住幸	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	SO_CE 1011
授業概要	<p>・初年次教育: 学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身につける「7つの力(主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を 知る力、書く力、調べる力、話す力)」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたらされることを目的とする。</p> <p>・情報リテラシー: 外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、蓄えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通じ「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。</p>				
到達目標	<p>・初年次教育: ①大学で学ぶための基礎的な学習能力を身につける。②学生間の交流を通じ自己理解・他者理解・大学理解を深める。③他者との関係を築きながら自ら学ぶための基礎的態度を獲得する。</p> <p>・情報リテラシー: ①情報の読み書きについて基本概念を理解できる。②情報の受け手のみならず、情報発信に必要な技能の基礎を身に付けられる。③新たな時代の要請に答える担い手としての意識を持ち、自身の活動に情報を活用できる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的汎用的スキル: 社会において多種多様な人と協働し実践する力 2 自律性: 目標達成のために努力を重ねる力 3 課題発見・社会貢献性: 広い視野をもって、社会の課題を発見する力 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1週 情報リテラシーとは : オンライン授業 2週 情報利活用能力 : オンライン授業 3週 情報モラルに関する教育 : オンライン授業 4週 情報収集法 : オンライン授業 5週 事例紹介 : オンライン授業 6週 情報整理法 : オンライン授業 7週 情報発信 : オンライン授業 8週 初年次教育① 自分をツタエル(社会領域) : 対面授業 9週 初年次教育② 音でツタエル(音楽領域) : 対面授業 10週 初年次教育③ 体(感覚)でツタエル(保育領域) : 対面授業 11週 初年次教育④ 絵でツタエル(美術領域) : オンライン授業 12週 初年次教育⑤ 文字でツタエル(社会領域) : オンデマンド授業 13週 初年次教育⑥ 声でツタエル(保育領域) : オンライン授業 14週 初年次教育⑦ 言葉でツタエル(社会領域) : 対面授業 15週 最終振り返り(全体) 				
成績評価 方法・基準	レポート50%、平常点50%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	kqvpegt				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、システムエンジニアとしての実務経験のある教員が、実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>受講者が調べたり発表したりする学習活動をとります。授業時間外にも必要な情報を調べ、表現するための作業が生じることが予想されます。受講者の積極的な授業参加の姿勢が求められます。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業は演習を含む講義形式で行いますが、グループワークやコンピュータを利用した活動(eラーニング)を組み合わせながら、部分的にオンライン(共有フォルダやグループウェアなど)を用い、アクティブ・ラーニングとしての相互学修形式を取り入れます。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	日本語コミュニケーション演習(口語表現)	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	藪 淳一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC-LA 1205
授業概要	<p>保育者に必要な資質として、いま、コミュニケーション能力がますます求められています。職場の同僚や保護者との対話はもちろん、子どもを相手にする日々の保育そのものも、コミュニケーションです。授業では、「伝える」「聞く」というコミュニケーションの基本を学ぶとともに、特に「相手に伝わるように話す」口語表現に重点をおいた演習を行います。発声・発音の反復練習や実践的な演習を通じて、人前で話す経験を重ね、自分の思いや考えをしっかりとつ思考力と、相手にきちんと伝えるスピーチ力を身につけます。</p>				
到達目標	<p>① コミュニケーションに関する基本的な知識と技術を知り、様々な場面で応用することができる。 ② 自分の思いや考えを相手に伝わるように理路整然と話すことができる。 ③ 人前で自信をもって話ができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス、呼吸と発声 2週 他人紹介 3週 発音練習、滑舌練習、アクセント 4週 コミュニケーションの基本① 伝える・聞く 5週 コミュニケーションの基本② 非言語コミュニケーション 6週 話し合いの実践① 意見を出す、意見を聞く 7週 話し合いの実践② 合意形成 8週 保育を伝える 9週 朗読と素話 10週 プレゼンテーションの基本 11週 プレゼンテーション演習(資料をもとに原稿作成・原稿読み) 12週 動画で学ぶプロの話し方 13週 プレゼンテーション原稿作成 14週 プレゼンテーションコンテスト 15週 授業内試験(筆記)とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内での発表50%、授業内試験30%、授業への態度20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	aクラス xpiej7 bクラス vvn5cpm cクラス qodw4oe				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日々のコミュニケーションにおいても、「話す」とことと「聞く」とことへの意識を高め、実践すること。発声練習、発音練習、滑舌練習を定期的に行うこと。「考える」習慣を身につけておくこと。 1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>積極的に声を出して、授業に参加してください。また、他者の話し方を学びの参考にするとともに、多様な意見に耳を傾けるようにしてください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	日本語コミュニケーション演習(文書表現)	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	山田 千春	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC-LA 1206
授業概要	① 文書で表現することにより、大学生・社会人として求められるコミュニケーション能力を身につける。 ② 論理的な文章を読むことで自分の考えを論理的に表現する方法を知り、表現力の向上を図る。				
到達目標	① 論理的な文章を読み、要約する力を身につける。 ② 様々な文章を読み、自分の思考を深め、意見や主張を述べるができる。 ③ 一つの主題に対して、対立する複数の主張文を読み、自分の主張を論理的に文章で表現できる。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	1週 ガイダンス、「ニュースを読む」 2週 文章読解の基本 新聞記事を読んで感想を書く(提出 1) 3週 文章読解の演習 新聞記事を読んで意見文を書く(提出 2) 4週 文章要約の基本 練習問題 5週 レジюме、レポート、論文の違い 6週 課題文を読み、主張文を書く(提出 3) 7週 一つのテーマに関する異なる主張を読み、自分の主張文を書く① 8週 一つのテーマに関する異なる主張を読み、自分の主張文を書く②(提出 4) 9週 ブックトーク、ブックレポートとは何か 10週 ブックトーク① 11週 ブックトーク② グループ内発表・相互評価 12週 ブックレポート① 13週 ブックレポート② 14週 ブックレポート③ 15週 ブックレポート提出(提出 5)とまとめ				
成績評価 方法・基準	提出文書5点80%、毎回の口頭発表「ニュースを読む」10%、ブックトークの発表と授業参加態度等の相互 評価 10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	xq544qi				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	日常的に読書したり、新聞記事に目を通すようにしてください。 <div style="text-align: right;">1時間程度/週</div>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	国語辞典は常に用意して、わからない語句がある場合必ず調べる習慣を身につけるようにしてください。授業内で課題のフィードバックを行う。				

授業科目	仏教と保育	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	宮本 浩尊	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC-LA 1101
授業概要	<p>札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人(1173-1263)の仏教思想(浄土真宗)を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで生まれた宗教です。その思想は、アジア各地の文化に影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。</p> <p>この授業では、日本人の倫理観・道徳観の基礎にある仏教思想を学ぶことを通して「情操」について考えると共に、札幌大谷大学で「保育」を学ぶ意義を考えます。</p>				
到達目標	<p>① 仏教の基本的な思考法を知り、それを生活の中で活用することができる。 ② 古典に触れることで、人類の叡智を知ることができる。 ③ 「情操」についての知見を得ることができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス(授業内容、目的、計画、評価方法の確認等)</p> <p>2週 札幌大谷大学の「建学の精神」を知る</p> <p>3週 釈尊の生涯</p> <p>4週 釈尊の思想① 釈尊の思考法</p> <p>5週 釈尊の思想② 真実とは何か</p> <p>6週 釈尊の思想③ 正しい歩みについて</p> <p>7週 大乘仏教の思想 他者と共に生きるということ</p> <p>8週 大乘仏教の思想②「私」は実在するのか</p> <p>9週 親鸞聖人の生涯と思想①「私」が救われる世界を求めて</p> <p>10週 親鸞聖人の生涯と思想②「他者」と共に生きるということ</p> <p>11週 仏教の思考法① 日々の生活についての考え方</p> <p>12週 仏教の思考法② 他者との関わりについての考え方</p> <p>13週 仏教の思考法③ 心を育む考え方</p> <p>14週 まとめ</p> <p>15週 授業内試験</p>				
成績評価 方法・基準	平常点(出席・課題の提出等)50%、授業内試験50%				
教科書 ソフト等	なし。適宜、プリントやスライドで対応する。				
参考書等	なし。適宜、授業内で指示する。				
クラスコード	xraozdn				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。				

授業科目	教育原理	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	井上 大樹	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1303
授業概要	<p>様々な教育職に通底する、教育に関する基本的な知見(歴史、法制度、学問領域、現代的課題など)を得る。中でも、学習する一人ひとりの権利が様々な教育実践によって内実が深まってきた経緯に重点をおく。講義全体をとおして、具体的な教育問題や教育実践を取りあげ、理論と実践を結ぶ視点を育む。</p>				
到達目標	<p>自分が目指す教育職との関わりを認識しつつ、以下を理解する。 ・教育の基本的概念や教育の本質及び目標を理解し、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 ・教育に関する代表的な教育家の思想と理念や実際の学校との関わり ・家族と社会の教育の歴史、近代教育制度の成立と展開 ・歴史的な視点を含めた現代社会における教育課題</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション／教育(学)とは何か 2週 教育の本質と目標 3週 代表的な教育家の思想と現代の教育観 4週 家族と社会による教育の歴史 5週 家庭や子どもに関わる教育の思想 6週 近代学校の成立から普通教育の整備まで 7週 教育問題から見る現在の学校制度、学校文化 8週 学校や学習に関わる教育の思想 9週 「学力」とは何か(1): 測定方法の変遷と日本の課題 10週 「学力」とは何か(2): 「学力向上」の授業づくりの要点 11週 子どもの仲間づくりの現状と生徒指導・生活指導の原理 12週 学校における道德教育の意義 13週 学校教育と生涯学習・社会教育 14週 変容する社会と教育問題 15週 教育・保育(対人援助)職として探求すべき教育学(まとめとふりかえり)</p>				
成績評価 方法・基準	提出物55%、授業態度15%、学習のまとめ30%				
教科書 ソフト等	勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学[改訂版]』有斐閣				
参考書等	児美川 孝一郎『まず教育論から変えよう』太郎次郎社エディタス、『幼稚園教育要領総則編』(平成29年3月、文部科学省)				
クラスコード	2hlyjq4				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>(予習) Google Classroomで連絡(テキストもしくは配布資料の講読) (復習) テキスト及び配布資料、説明資料・動画のみなおし</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>教員免許状の取得を前提とする講義であるので、教員を目指す意思を持って臨むこと。 ※第1週にGoogle Classroomで、クラスコード「2hlyjq4」で登録するのを忘れずに。 この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。</p>				

授業科目	保育原理	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	大澤 亜里	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1301
授業概要	<p>保育に関する基礎的知識を習得し、これからの保育のあり方について考えます。授業では保育の思想および実践の歴史、子ども観や子どもの権利の歴史について学び、保育とは何か、保育において大事なことは何かを考えます。また現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に示されている保育の原理について学び、現在の保育のあり方や目指す方向性について考えます。さらに子ども・家族を取り巻く現在の社会状況について学び、保育の課題について考えます。</p>				
到達目標	<p>① 現在の保育や保育制度、社会の現状について説明することができる。 ② 保育の意義および目的について説明することができる。 ③ 保育の目標を達成するためにはどのような保育が行われるべきか、授業で習得した知識をもとに自分の意見を述べることができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス 保育の意義と目的 2週 保育の歴史① 諸外国における保育の思想と実践の歴史 3週 保育の歴史② 日本における保育の思想と実践の歴史 4週 保育の原理① 保育の目標 5週 保育の原理② 保育の内容と方法 6週 保育の原理③ 保育の計画と評価 7週 子ども観の歴史 8週 子どもの権利と保育① 子どもの権利の歴史 9週 子どもの権利と保育② “権利の主体”として子どもを捉える 10週 子どもの権利と保育③ 子どもの権利を保障する保育 11週 子ども理解と保育 12週 保育の現状と課題① 子ども・子育て家族を取り巻く社会の状況 13週 保育の現状と課題② 子ども・子育て支援新制度とこれからの保育 14週 保育の現状と課題③ 保育者の専門性と労働条件 15週 授業全体のまとめと授業内試験</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験40%、毎回授業後に提出するリアクションペーパーの内容60%				
教科書 ソフト等	保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	evsmgni				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業後には教科書やノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。また現在の保育に関して、新聞やニュース等ではどのような問題が取り上げられているかチェックしてください。 2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業は基本的に講義形式で進めていきますが、毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックや、リアクションペーパーの内容に関するディスカッションを行いますので、自分の考えや意見等を積極的に書いてください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	特別研究 I (音楽)	配当年次	1年	必修選択	選択必修																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	松井 亜樹	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1802																																																												
授業概要	<p>①「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえ、保育者として必要な基礎的知識、音楽理論および技能を学ぶ。 ②音楽に興味を持ち、歌うこと、演奏することによって、音楽表現の多様性を理解する。</p>																																																																
到達目標	<p>①実際の音楽活動を通し、音楽の楽しさを子どもと共有できる技術を習得することができる。 ②弾き歌いや簡単な伴奏付けができる。 ③教材研究を含めた歌唱、器楽、鑑賞の各指導法について実践的な考察を行い、保育現場で活かすことができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>音楽は何を育てるか、毎日の歌</td> <td>16週</td> <td>季節の歌(秋)① 森のくまさん、こおろぎ、まっかな秋</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>保育者に求められる音楽技術力とは</td> <td>17週</td> <td>季節の歌(秋)② やまの音楽家、どんぐりころころ</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>季節の歌(春)① 小鳥のうた、こじかのパンピ、春の風</td> <td>18週</td> <td>ミュージカル鑑賞③ 19世紀後半の作品1 前半</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>子ども向けミュージカルの鑑賞① 前半</td> <td>19週</td> <td>ミュージカル鑑賞④ 19世紀後半の作品2 後半</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>子ども向けミュージカルの鑑賞② 後半</td> <td>20週</td> <td>行進曲</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>幼児の身体的発達と音楽</td> <td>21週</td> <td>季節の歌(冬)① 北風小僧の寒太郎、コンコンクシャンのうた</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>季節の歌(春)② ありさんのおはなし、おつかいありさん</td> <td>22週</td> <td>季節の歌(冬)② 赤鼻のトナカイ、ジングルベル、もみのき</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>季節の歌(春)③ かめの遠足、めたかの学校、おたまじゃくし</td> <td>23週</td> <td>オペラ鑑賞① 第1幕、第2幕</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>年齢別の歌 かえるのうた、かたつむり、ぞうさん</td> <td>24週</td> <td>オペラ鑑賞② 第3幕、第4幕</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>ミュージカル鑑賞① 19世紀前半の作品1 前半</td> <td>25週</td> <td>季節の歌(冬)③ ともだちになるために、さよならぼくたちの保育園</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>ミュージカル鑑賞② 19世紀前半の作品2 後半</td> <td>26週</td> <td>保育者が抱える音楽指導の課題</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>季節の歌(夏)① うんどうかい、ほしるの大好き、シャボン玉</td> <td>27週</td> <td>簡易伴奏</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>季節の歌(夏)② アイスcream、とんでったバナナ、はなび</td> <td>28週</td> <td>伴奏付け</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>季節の歌(夏)③ ヤッホッホなつやすみ、はなび、にじ</td> <td>29週</td> <td>行進曲実技とまとめ</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>歌唱実技とまとめ</td> <td>30週</td> <td>歌唱実技とまとめ</td> </tr> </table>					1週	音楽は何を育てるか、毎日の歌	16週	季節の歌(秋)① 森のくまさん、こおろぎ、まっかな秋	2週	保育者に求められる音楽技術力とは	17週	季節の歌(秋)② やまの音楽家、どんぐりころころ	3週	季節の歌(春)① 小鳥のうた、こじかのパンピ、春の風	18週	ミュージカル鑑賞③ 19世紀後半の作品1 前半	4週	子ども向けミュージカルの鑑賞① 前半	19週	ミュージカル鑑賞④ 19世紀後半の作品2 後半	5週	子ども向けミュージカルの鑑賞② 後半	20週	行進曲	6週	幼児の身体的発達と音楽	21週	季節の歌(冬)① 北風小僧の寒太郎、コンコンクシャンのうた	7週	季節の歌(春)② ありさんのおはなし、おつかいありさん	22週	季節の歌(冬)② 赤鼻のトナカイ、ジングルベル、もみのき	8週	季節の歌(春)③ かめの遠足、めたかの学校、おたまじゃくし	23週	オペラ鑑賞① 第1幕、第2幕	9週	年齢別の歌 かえるのうた、かたつむり、ぞうさん	24週	オペラ鑑賞② 第3幕、第4幕	10週	ミュージカル鑑賞① 19世紀前半の作品1 前半	25週	季節の歌(冬)③ ともだちになるために、さよならぼくたちの保育園	11週	ミュージカル鑑賞② 19世紀前半の作品2 後半	26週	保育者が抱える音楽指導の課題	12週	季節の歌(夏)① うんどうかい、ほしるの大好き、シャボン玉	27週	簡易伴奏	13週	季節の歌(夏)② アイスcream、とんでったバナナ、はなび	28週	伴奏付け	14週	季節の歌(夏)③ ヤッホッホなつやすみ、はなび、にじ	29週	行進曲実技とまとめ	15週	歌唱実技とまとめ	30週	歌唱実技とまとめ
1週	音楽は何を育てるか、毎日の歌	16週	季節の歌(秋)① 森のくまさん、こおろぎ、まっかな秋																																																														
2週	保育者に求められる音楽技術力とは	17週	季節の歌(秋)② やまの音楽家、どんぐりころころ																																																														
3週	季節の歌(春)① 小鳥のうた、こじかのパンピ、春の風	18週	ミュージカル鑑賞③ 19世紀後半の作品1 前半																																																														
4週	子ども向けミュージカルの鑑賞① 前半	19週	ミュージカル鑑賞④ 19世紀後半の作品2 後半																																																														
5週	子ども向けミュージカルの鑑賞② 後半	20週	行進曲																																																														
6週	幼児の身体的発達と音楽	21週	季節の歌(冬)① 北風小僧の寒太郎、コンコンクシャンのうた																																																														
7週	季節の歌(春)② ありさんのおはなし、おつかいありさん	22週	季節の歌(冬)② 赤鼻のトナカイ、ジングルベル、もみのき																																																														
8週	季節の歌(春)③ かめの遠足、めたかの学校、おたまじゃくし	23週	オペラ鑑賞① 第1幕、第2幕																																																														
9週	年齢別の歌 かえるのうた、かたつむり、ぞうさん	24週	オペラ鑑賞② 第3幕、第4幕																																																														
10週	ミュージカル鑑賞① 19世紀前半の作品1 前半	25週	季節の歌(冬)③ ともだちになるために、さよならぼくたちの保育園																																																														
11週	ミュージカル鑑賞② 19世紀前半の作品2 後半	26週	保育者が抱える音楽指導の課題																																																														
12週	季節の歌(夏)① うんどうかい、ほしるの大好き、シャボン玉	27週	簡易伴奏																																																														
13週	季節の歌(夏)② アイスcream、とんでったバナナ、はなび	28週	伴奏付け																																																														
14週	季節の歌(夏)③ ヤッホッホなつやすみ、はなび、にじ	29週	行進曲実技とまとめ																																																														
15週	歌唱実技とまとめ	30週	歌唱実技とまとめ																																																														
成績評価 方法・基準	実技50%、提出物30%、日常の取り組み状況20%																																																																
教科書 ソフト等	『ピアノ曲&弾き歌い童謡曲~豊かな音楽表現のために』圭文社、『こどものうた200』小林美実編 チャイルド本社、『続こどものうた200』小林美実編 チャイルド本社																																																																
参考書等	『最もわかりやすい楽典入門』坪野春枝著 kmp、『幼稚園教育要領』(文部科学省)、『保育所保育指針』(厚生労働省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)																																																																
クラスコード	3bmw5du																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。																																																																
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業内で次の時間までの課題(歌唱、ピアノ)が提示されるので、練習してから受講してください。 1時間から2時間程度/週																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業内に実施した課題のフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。																																																																

授業科目	特別研究 I (美術)	配当年次	1年	必修選択	選択必修																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	加藤 雅子	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1801																																																												
授業概要	様々な材料を使ったものづくりを通し、素材の違いなど体験を通じて学び、感性を磨く。幼児の造形活動を考える上で必要な考え方や知識、技術を学ぶ。																																																																
到達目標	主に自然素材(木材、粘土、羊毛など)を使い、材料の特性を生かした制作ができるようになる。幼児の興味や遊びにふさわしい色や形や機能を考え、具現化できるようになる。																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用: 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>ガイダンス(ねらい・内容紹介)</td> <td>16週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり①テーマの設定</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>色々な自然素材について</td> <td>17週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり②アイデア</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>自然素材1を生かしたのものづくり①テーマの設定</td> <td>18週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり③ラフスケッチ</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>自然素材1を生かしたのものづくり②制作</td> <td>19週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり④制作</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>自然素材1を生かしたのものづくり③制作</td> <td>20週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり⑤制作</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>自然素材1を生かしたのものづくり④制作</td> <td>21週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり⑥制作</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>自然素材1を生かしたのものづくり⑤制作</td> <td>22週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり⑦制作</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>自然素材1を生かしたのものづくり⑥発表</td> <td>23週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり⑧制作</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり①テーマの設定</td> <td>24週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり⑨完成</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり②制作</td> <td>25週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり③制作</td> <td>26週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり④制作</td> <td>27週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり⑤制作</td> <td>28週</td> <td>自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり⑥制作</td> <td>29週</td> <td>作品展準備</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>自然素材2を生かしたのものづくり⑦発表</td> <td>30週</td> <td>作品展開催(作品公開・会場当番)</td> </tr> </table>					1週	ガイダンス(ねらい・内容紹介)	16週	自然素材3を生かしたのものづくり①テーマの設定	2週	色々な自然素材について	17週	自然素材3を生かしたのものづくり②アイデア	3週	自然素材1を生かしたのものづくり①テーマの設定	18週	自然素材3を生かしたのものづくり③ラフスケッチ	4週	自然素材1を生かしたのものづくり②制作	19週	自然素材3を生かしたのものづくり④制作	5週	自然素材1を生かしたのものづくり③制作	20週	自然素材3を生かしたのものづくり⑤制作	6週	自然素材1を生かしたのものづくり④制作	21週	自然素材3を生かしたのものづくり⑥制作	7週	自然素材1を生かしたのものづくり⑤制作	22週	自然素材3を生かしたのものづくり⑦制作	8週	自然素材1を生かしたのものづくり⑥発表	23週	自然素材3を生かしたのものづくり⑧制作	9週	自然素材2を生かしたのものづくり①テーマの設定	24週	自然素材3を生かしたのものづくり⑨完成	10週	自然素材2を生かしたのものづくり②制作	25週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成	11週	自然素材2を生かしたのものづくり③制作	26週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成	12週	自然素材2を生かしたのものづくり④制作	27週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成	13週	自然素材2を生かしたのものづくり⑤制作	28週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成	14週	自然素材2を生かしたのものづくり⑥制作	29週	作品展準備	15週	自然素材2を生かしたのものづくり⑦発表	30週	作品展開催(作品公開・会場当番)
1週	ガイダンス(ねらい・内容紹介)	16週	自然素材3を生かしたのものづくり①テーマの設定																																																														
2週	色々な自然素材について	17週	自然素材3を生かしたのものづくり②アイデア																																																														
3週	自然素材1を生かしたのものづくり①テーマの設定	18週	自然素材3を生かしたのものづくり③ラフスケッチ																																																														
4週	自然素材1を生かしたのものづくり②制作	19週	自然素材3を生かしたのものづくり④制作																																																														
5週	自然素材1を生かしたのものづくり③制作	20週	自然素材3を生かしたのものづくり⑤制作																																																														
6週	自然素材1を生かしたのものづくり④制作	21週	自然素材3を生かしたのものづくり⑥制作																																																														
7週	自然素材1を生かしたのものづくり⑤制作	22週	自然素材3を生かしたのものづくり⑦制作																																																														
8週	自然素材1を生かしたのものづくり⑥発表	23週	自然素材3を生かしたのものづくり⑧制作																																																														
9週	自然素材2を生かしたのものづくり①テーマの設定	24週	自然素材3を生かしたのものづくり⑨完成																																																														
10週	自然素材2を生かしたのものづくり②制作	25週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成																																																														
11週	自然素材2を生かしたのものづくり③制作	26週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成																																																														
12週	自然素材2を生かしたのものづくり④制作	27週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成																																																														
13週	自然素材2を生かしたのものづくり⑤制作	28週	自然素材3を生かしたのものづくり発表資料作成																																																														
14週	自然素材2を生かしたのものづくり⑥制作	29週	作品展準備																																																														
15週	自然素材2を生かしたのものづくり⑦発表	30週	作品展開催(作品公開・会場当番)																																																														
成績評価 方法・基準	完成作品70%、参加態度・提出物等30%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	wzcwlv4																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	身の回りにある自然素材に着目し、質感や形の特長などにどんな良さがあるか実物を見て確かめてください。SNS等を通していろいろなアイデアを考えてください。 1時間から2時間程度/週																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。																																																																

授業科目	特別研究 I (健康)	配当年次	1年	必修選択	選択必修																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	田中 住幸	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1804																																																												
授業概要	<p>本科目では、特に幼児期の運動発達の特徴と意義を理解した上で、体を使った様々な遊びを指導(援助)できるようになることを目標に、多くの遊びを経験する。また、経験の中から遊びの楽しさを実感すると共に、遊びを立案する中で環境構成や指導計画への理解を深め実践力を養う。</p>																																																																
到達目標	<p>①幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。 ②体を使った遊びについて、保育との結びつきを確認し、環境構成や指導計画についての理解を深める。 ③安全に留意して、遊びの指導が行えるだけの体力を身に付ける。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス</td><td>16週</td><td>サーキット遊び①(基礎)</td></tr> <tr><td>2週</td><td>からだを使った遊び①(基礎)</td><td>17週</td><td>サーキット遊び②(応用)</td></tr> <tr><td>3週</td><td>からだを使った遊び②(応用)</td><td>18週</td><td>リズム遊び①(基礎)</td></tr> <tr><td>4週</td><td>ボールを使った遊び①(基礎)</td><td>19週</td><td>リズム遊び②(応用)</td></tr> <tr><td>5週</td><td>ボールを使った遊び②(応用)</td><td>20週</td><td>遊びを創造する環境設定①(解説)</td></tr> <tr><td>6週</td><td>道具を使った遊び①(基礎)</td><td>21週</td><td>遊びを創造する環境設定②(事例紹介)</td></tr> <tr><td>7週</td><td>道具を使った遊び②(応用)</td><td>22週</td><td>遊びを考える①(計画)</td></tr> <tr><td>8週</td><td>室内での遊び①(基礎)</td><td>23週</td><td>遊びを考える②(準備)</td></tr> <tr><td>9週</td><td>室内での遊び②(応用)</td><td>24週</td><td>遊びを考える③(発表)</td></tr> <tr><td>10週</td><td>伝承遊び①(基礎)</td><td>25週</td><td>遊びの実際(事例紹介)</td></tr> <tr><td>11週</td><td>伝承遊び②(応用)</td><td>26週</td><td>遊びの環境を考える①(計画)</td></tr> <tr><td>12週</td><td>自然を使った遊び①(基礎)</td><td>27週</td><td>遊びの環境を考える②(発表)</td></tr> <tr><td>13週</td><td>自然を使った遊び②(応用)</td><td>28週</td><td>雪遊び①(基礎)</td></tr> <tr><td>14週</td><td>水遊び①(基礎)</td><td>29週</td><td>雪遊び②(応用)</td></tr> <tr><td>15週</td><td>水遊び②(応用)</td><td>30週</td><td>まとめ</td></tr> </table>					1週	ガイダンス	16週	サーキット遊び①(基礎)	2週	からだを使った遊び①(基礎)	17週	サーキット遊び②(応用)	3週	からだを使った遊び②(応用)	18週	リズム遊び①(基礎)	4週	ボールを使った遊び①(基礎)	19週	リズム遊び②(応用)	5週	ボールを使った遊び②(応用)	20週	遊びを創造する環境設定①(解説)	6週	道具を使った遊び①(基礎)	21週	遊びを創造する環境設定②(事例紹介)	7週	道具を使った遊び②(応用)	22週	遊びを考える①(計画)	8週	室内での遊び①(基礎)	23週	遊びを考える②(準備)	9週	室内での遊び②(応用)	24週	遊びを考える③(発表)	10週	伝承遊び①(基礎)	25週	遊びの実際(事例紹介)	11週	伝承遊び②(応用)	26週	遊びの環境を考える①(計画)	12週	自然を使った遊び①(基礎)	27週	遊びの環境を考える②(発表)	13週	自然を使った遊び②(応用)	28週	雪遊び①(基礎)	14週	水遊び①(基礎)	29週	雪遊び②(応用)	15週	水遊び②(応用)	30週	まとめ
1週	ガイダンス	16週	サーキット遊び①(基礎)																																																														
2週	からだを使った遊び①(基礎)	17週	サーキット遊び②(応用)																																																														
3週	からだを使った遊び②(応用)	18週	リズム遊び①(基礎)																																																														
4週	ボールを使った遊び①(基礎)	19週	リズム遊び②(応用)																																																														
5週	ボールを使った遊び②(応用)	20週	遊びを創造する環境設定①(解説)																																																														
6週	道具を使った遊び①(基礎)	21週	遊びを創造する環境設定②(事例紹介)																																																														
7週	道具を使った遊び②(応用)	22週	遊びを考える①(計画)																																																														
8週	室内での遊び①(基礎)	23週	遊びを考える②(準備)																																																														
9週	室内での遊び②(応用)	24週	遊びを考える③(発表)																																																														
10週	伝承遊び①(基礎)	25週	遊びの実際(事例紹介)																																																														
11週	伝承遊び②(応用)	26週	遊びの環境を考える①(計画)																																																														
12週	自然を使った遊び①(基礎)	27週	遊びの環境を考える②(発表)																																																														
13週	自然を使った遊び②(応用)	28週	雪遊び①(基礎)																																																														
14週	水遊び①(基礎)	29週	雪遊び②(応用)																																																														
15週	水遊び②(応用)	30週	まとめ																																																														
成績評価 方法・基準	期末レポート60%、授業毎の課題20%、平常点(主体性、意欲・関心)20%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)																																																																
クラスコード	labsolg																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	各回の授業で体験した遊びの概要や手順についてイラストなども含めながらノートに記録しておくこと。																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>運動を行う際は、屋内ではシャージ・運動靴、屋外では季節に合わせて、帽子、防寒着を準備すること。詳細については、授業内で指示する。提出された課題・レポートについては、classroom内でフィードバックを行う。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワーク及びディスカッションの要素を含む授業です。</p>																																																																

授業科目	特別研究 I (自然)	配当年次	1年	必修選択	選択必修																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	柘植 純一	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1803																																																												
授業概要	昆虫をはじめとした自然に興味を持つことを目標にする。北海道で自然と触れ合う保育を実践するために不可欠な身近な動植物について正しい知識を身につける。単に名前を覚えるのではなく、季節とのつながりに興味を持ち、声、匂い等の感覚を通して自然を感じる感性を磨くことの大切さにも気づく。1年間 屋外での観察も随時入れながら、身近な自然について学ぶ。																																																																
到達目標	①身近な昆虫・野鳥について簡単な識別できる。 ②アゲハの幼虫等に愛着をもって接することができる。 ③身近な自然との触れ合う遊びを楽しむことができる。 ④自然の中で過ごす時間を楽しいと思える。																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用: 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス</td><td>16週</td><td>夏休み中に撮影した写真の共有</td></tr> <tr><td>2週</td><td>昆虫とは</td><td>17週</td><td>膜翅目</td></tr> <tr><td>3週</td><td>昆虫の分類, 変態</td><td>18週</td><td>直翅目</td></tr> <tr><td>4週</td><td>タンポポを使った草花遊び</td><td>19週</td><td>トンボ目</td></tr> <tr><td>5週</td><td>チョウとは?</td><td>20週</td><td>昆虫の越冬</td></tr> <tr><td>6週</td><td>チョウの生態</td><td>21週</td><td>鳥類の概論</td></tr> <tr><td>7週</td><td>アゲハチョウ科</td><td>22週</td><td>身近な野鳥の声</td></tr> <tr><td>8週</td><td>シロチョウ科</td><td>23週</td><td>身近な野鳥(タカ目, キツツキ目, フクロウ目)</td></tr> <tr><td>9週</td><td>タテハチョウ科</td><td>24週</td><td>身近な野鳥(スズメ目, その他の目)</td></tr> <tr><td>10週</td><td>シジミチョウ科, セセリチョウ科</td><td>25週</td><td>大学村公園での野鳥観察</td></tr> <tr><td>11週</td><td>チョウのまとめ</td><td>26週</td><td>身近な魚類・その他の動物</td></tr> <tr><td>12週</td><td>半翅目</td><td>27週</td><td>その他の動物</td></tr> <tr><td>13週</td><td>大学村公園での昆虫観察</td><td>28週</td><td>トウモロコシの茎・葉を使った紙すき①繊維の取り出し</td></tr> <tr><td>14週</td><td>鞘翅目</td><td>29週</td><td>トウモロコシの茎・葉を使った紙すき②カードつくり</td></tr> <tr><td>15週</td><td>夏の自然観察</td><td>30週</td><td>トウモロコシの茎・葉を使った紙すき③カードつくり</td></tr> </table>					1週	ガイダンス	16週	夏休み中に撮影した写真の共有	2週	昆虫とは	17週	膜翅目	3週	昆虫の分類, 変態	18週	直翅目	4週	タンポポを使った草花遊び	19週	トンボ目	5週	チョウとは?	20週	昆虫の越冬	6週	チョウの生態	21週	鳥類の概論	7週	アゲハチョウ科	22週	身近な野鳥の声	8週	シロチョウ科	23週	身近な野鳥(タカ目, キツツキ目, フクロウ目)	9週	タテハチョウ科	24週	身近な野鳥(スズメ目, その他の目)	10週	シジミチョウ科, セセリチョウ科	25週	大学村公園での野鳥観察	11週	チョウのまとめ	26週	身近な魚類・その他の動物	12週	半翅目	27週	その他の動物	13週	大学村公園での昆虫観察	28週	トウモロコシの茎・葉を使った紙すき①繊維の取り出し	14週	鞘翅目	29週	トウモロコシの茎・葉を使った紙すき②カードつくり	15週	夏の自然観察	30週	トウモロコシの茎・葉を使った紙すき③カードつくり
1週	ガイダンス	16週	夏休み中に撮影した写真の共有																																																														
2週	昆虫とは	17週	膜翅目																																																														
3週	昆虫の分類, 変態	18週	直翅目																																																														
4週	タンポポを使った草花遊び	19週	トンボ目																																																														
5週	チョウとは?	20週	昆虫の越冬																																																														
6週	チョウの生態	21週	鳥類の概論																																																														
7週	アゲハチョウ科	22週	身近な野鳥の声																																																														
8週	シロチョウ科	23週	身近な野鳥(タカ目, キツツキ目, フクロウ目)																																																														
9週	タテハチョウ科	24週	身近な野鳥(スズメ目, その他の目)																																																														
10週	シジミチョウ科, セセリチョウ科	25週	大学村公園での野鳥観察																																																														
11週	チョウのまとめ	26週	身近な魚類・その他の動物																																																														
12週	半翅目	27週	その他の動物																																																														
13週	大学村公園での昆虫観察	28週	トウモロコシの茎・葉を使った紙すき①繊維の取り出し																																																														
14週	鞘翅目	29週	トウモロコシの茎・葉を使った紙すき②カードつくり																																																														
15週	夏の自然観察	30週	トウモロコシの茎・葉を使った紙すき③カードつくり																																																														
成績評価 方法・基準	授業内レポート50%、授業内での取り組み(平常点)50%																																																																
教科書 ソフト等	『自然図鑑』(福音館), 『小学館の図鑑 NEO POCKET -ネオぽけっと- 昆虫』(小学館), 『野鳥観察ハンディ図鑑 新山野の鳥』(日本野鳥の会)																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	jjjnur4																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業内で学習した身近な動植物を通学時など毎日の生活の中で自分でも目を向けるように心がける。そのときに見つけた自然物を写真撮影し記録に残す。 <div style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</div>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	昆虫や植物など身近な自然とのかかわりが得意な保育者になりたい人の履修を希望します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。																																																																

授業科目	特別研究 I (子育て支援・特別支援)	配当年次	1年	必修選択	選択必修																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	今西 良輔、遠山 景広	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限なし	ナンバリング																																																													
授業概要	<p>子どもを取り巻く社会に目を向け、さまざまな課題、子どもをめぐる社会問題と保育のかかわりについて理解し、多様な保育ニーズをとらえる。保育士に求められるソーシャルワークとしての子育て支援を学び、保育所・児童福祉施設などの現場で応用できる知識と技術を理解する身に付ける。自分の興味・関心を焦点化し、問題意識を抱くこと、自らの「問い」に対して、本授業では他学生との意見交換から何を知りたいのかを見出す。</p>																																																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資料や事例から子どもと家庭の多様な保育ニーズや保育者に求められるソーシャルワークをつかむことができる。 地域で展開する子育て支援・相談援助の機能を理解し、現場を観察・体験することができる。 子育てが行われている地域を知り、地域の子どもの状況と必要とされる実践技術を理解する。 主体的な力を養い、諸課題について自身に検討と集積する力を付ける。 社会を構成する一人の大人として、豊かな子どもの育ちを促す環境や大人の役割について自分の考えを明確にできる。 																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用: 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>16週</td> <td>フィールドワーク成果発表①</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>子ども家庭への福祉と支援の理解と意義</td> <td>17週</td> <td>フィールドワーク成果発表②</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>ソーシャルワークとしての子育て支援の意義と視点</td> <td>18週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(外国籍の場合)</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>ソーシャルワークとしての子育て支援の機能と方法</td> <td>19週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(DV被害の場合)</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(保育所の場合)</td> <td>20週</td> <td>文献講読と各自の関心についての話し合い①</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(地域の場合)</td> <td>21週</td> <td>文献講読と各自の関心についての話し合い②</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(障害の場合)</td> <td>22週</td> <td>文献講読と各自の関心についての話し合い③</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(虐待の場合)</td> <td>23週</td> <td>文献講読と各自の関心についての話し合い④</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>支援を要する子どもと家庭(ひとり親の場合)</td> <td>24週</td> <td>文献講読と各自の関心についての話し合い⑤</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>フィールドワーク</td> <td>25週</td> <td>各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集①</td> </tr> <tr> <td>～15週</td> <td>(子育て支援センター、児童発達支援センター、児童養護施設、児童家庭支援センター、母子生活支援施設、児童相談所、保健所など)</td> <td>26週</td> <td>各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集②</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>27週</td> <td>各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集③</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>28週</td> <td>各自テーマに関する発表とグループワーク①</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>29週</td> <td>各自テーマに関する発表とグループワーク②</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>30週</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>					1週	オリエンテーション	16週	フィールドワーク成果発表①	2週	子ども家庭への福祉と支援の理解と意義	17週	フィールドワーク成果発表②	3週	ソーシャルワークとしての子育て支援の意義と視点	18週	支援を要する子どもと家庭(外国籍の場合)	4週	ソーシャルワークとしての子育て支援の機能と方法	19週	支援を要する子どもと家庭(DV被害の場合)	5週	支援を要する子どもと家庭(保育所の場合)	20週	文献講読と各自の関心についての話し合い①	6週	支援を要する子どもと家庭(地域の場合)	21週	文献講読と各自の関心についての話し合い②	7週	支援を要する子どもと家庭(障害の場合)	22週	文献講読と各自の関心についての話し合い③	8週	支援を要する子どもと家庭(虐待の場合)	23週	文献講読と各自の関心についての話し合い④	9週	支援を要する子どもと家庭(ひとり親の場合)	24週	文献講読と各自の関心についての話し合い⑤	10週	フィールドワーク	25週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集①	～15週	(子育て支援センター、児童発達支援センター、児童養護施設、児童家庭支援センター、母子生活支援施設、児童相談所、保健所など)	26週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集②			27週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集③			28週	各自テーマに関する発表とグループワーク①			29週	各自テーマに関する発表とグループワーク②			30週	まとめ
1週	オリエンテーション	16週	フィールドワーク成果発表①																																																														
2週	子ども家庭への福祉と支援の理解と意義	17週	フィールドワーク成果発表②																																																														
3週	ソーシャルワークとしての子育て支援の意義と視点	18週	支援を要する子どもと家庭(外国籍の場合)																																																														
4週	ソーシャルワークとしての子育て支援の機能と方法	19週	支援を要する子どもと家庭(DV被害の場合)																																																														
5週	支援を要する子どもと家庭(保育所の場合)	20週	文献講読と各自の関心についての話し合い①																																																														
6週	支援を要する子どもと家庭(地域の場合)	21週	文献講読と各自の関心についての話し合い②																																																														
7週	支援を要する子どもと家庭(障害の場合)	22週	文献講読と各自の関心についての話し合い③																																																														
8週	支援を要する子どもと家庭(虐待の場合)	23週	文献講読と各自の関心についての話し合い④																																																														
9週	支援を要する子どもと家庭(ひとり親の場合)	24週	文献講読と各自の関心についての話し合い⑤																																																														
10週	フィールドワーク	25週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集①																																																														
～15週	(子育て支援センター、児童発達支援センター、児童養護施設、児童家庭支援センター、母子生活支援施設、児童相談所、保健所など)	26週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集②																																																														
		27週	各自のテーマに基づいた課題設定と情報収集③																																																														
		28週	各自テーマに関する発表とグループワーク①																																																														
		29週	各自テーマに関する発表とグループワーク②																																																														
		30週	まとめ																																																														
成績評価 方法・基準	個人レポート(まとめ)50%、フィールドワーク発表30%、授業への参加20%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	6twfjvj																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業で取り上げたテーマについて、自分の考えをまとめる。児童福祉施設等へのフィールドワークから気づきや学びをレポートにまとめる。																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	この科目は、アクティブラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。現時点での展開内容になります。受講人数やフィールドワーク先の状況に応じて変更が起こる可能性もあります。																																																																

授業科目	保育者論	配当年次	2年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	藪 淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 2302
授業概要	<p>保育者とはどのような職業なのかを改めて考えて、今までの実習経験から自身の気づきを活かし、その専門性を理解する。また社会の変化を受け止めて、子どもの成長に適切にかかわる学びや保護者とのかわり、関係機関や地域社会、同僚との連携を学び保育者の役割を理解する。</p>				
到達目標	<p>① 保育者の役割を述べることができる。 ② 保育者の専門性を述べるができる。 ③ 自己の向上、保育者としての質の向上への意欲を高める。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 実習を振り返っての気づき 2週 「保育者になる」ということは(資格・免許等も含む) 3週 保育者の仕事とは① 保育者の一日(具体的な仕事の流れや保育者のまなざし) 4週 保育者の仕事とは② 保育者の一日(具体的な仕事の流れや保育者の専門性) 5週 保育者の仕事とは③ 子どもの思いや育ちを理解する仕事 6週 保育者の倫理感と子どもの権利 7週 保育者の仕事とは④ 子どもと一緒に心と体を動かす仕事(教師の役割) 8週 保育者の仕事とは⑤ 子どもと一緒に心と体を動かす仕事(保育士・保育教諭の役割) 9週 保育者の仕事とは⑥ 豊かな文化との出会いをつなぐ仕事 10週 保育者の仕事とは⑦ 豊かな自然との出会いをつなぐ仕事 11週 保育者の仕事とは⑧ 保護者や家庭と関係機関と一緒に歩む仕事、地域における子育て支援 12週 学び合う保育者(保育の場における保育者の成長と同僚関係) 13週 保育者の役割とは何だろう レポート作成 14週 保育者の専門性とは何だろう レポート作成 15週 レポートのフィードバックとまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	レポート70%、平常点30%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	ey7oue3				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、幼稚園理事長・園長として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>ボランティア活動等を通して、実際に子どもとふれ合う機会を多く持つことを勧めます。また、教科書内で紹介されている参考書を読んだり、演習問題に取り組み理解を深めましょう。 2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業は基本的に講義形式で進めますが、意見交換の場を多く取り入れます。自分の考えを積極的に発言してください。教科書以外に幼稚園教育要領と保育所保育指針解説書を随時、使用します。各自で用意して、受講してください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	環境科学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	柘植 純一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1204
授業概要	現在の環境問題のほとんどは、環境への影響を無視して無限の経済成長を追い求め、経済効率を最優先してきたことが原因であることに気づく。現在問題になっている様々な環境問題についてその現象と背景について学習することを通して、持続可能な社会を構築するためには、環境問題は倫理の問題であることを理解し、経済成長を放棄し、経済効率優先の考えから脱却し、エネルギー効率・資源の節約を優先させる考え方に転換する必要性について考える。これらのことを通し人間にとっての本当の豊かさ・幸福について考えるきっかけにする。				
到達目標	① 身近な環境問題について科学的な視点で説明できる。 ② 経済効率ではなく、環境倫理の視点で環境問題について自分の考えを述べることができる。 ③ 持続可能な循環型社会を実現するために必要な生活スタイル、価値観等について考えを述べるができる。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	1週 ガイダンス 2週 環境とは何か? 3週 生物の進化と人間の出現 4週 大気汚染(特に酸性雨・酸性霧と光化学スモッグ) 5週 オゾン層の破壊と地球温暖化 6週 原子力発電と環境 7週 水環境と水質 8週 水質汚濁 9週 合成有機塩素化合物による汚染 10週 外因性内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン) 11週 伝達性スポンジ状脳症 12週 日本の食料生産の現状と将来の農業 13週 第二次世界大戦後の日本の軌跡を自然保護の視点から見る 14週 持続可能な循環型社会を目指す 15週 映画「幸せの経済学」鑑賞				
成績評価 方法・基準	学期末試験70%、授業内小テスト20%、平常点10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	D.H.メドウス D.L.メドウス、Y.ラーダス著、枝廣洋子訳『成長の限界、人類の選択』、ダイヤモンド社。福岡伸一著『動的平衡』木楽社。R.カーソン著、青樹梁一訳『沈黙の春』新潮社				
クラスコード	ykv3dvv				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	受講前に、簡単な予備知識をつけておく。受講後は、毎回配付するプリントおよびノートを読み直して復習しておく。 <div style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</div>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	環境問題について関心のある人の受講を希望する。毎回、質問・感想・課題などをリアクションペーパーに記入する。提出したリアクションペーパーはコメントを記入して次の授業で返却する。				

授業科目	社会人基礎	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	藪 淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1208
授業概要	<p>「基礎学力」や「専門知識」を活かすためには、「社会人基礎力」を身につけることが求められます。保育は、決められたマニュアル作業を一人でやるものではなく、職場の同僚とコミュニケーションをとりながら進めていく創造的で協同的な仕事です。社会人として適切なマナー・言葉遣い・人間性などを身につけるとともに、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を磨き上げ、「保育社会人」としての意識と実践力を高めることを目的とします。</p>				
到達目標	<p>① 自己理解を深め、学生のうちに身につけておくべきことが何かを知り、目標を設定して行動できる。 ② 意欲をもち、思考力を深め、協同的に課題に取り組むことができる。 ③ 社会人としてあるべき基本的なふるまいができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス・社会人基礎力 2週 自己理解を深める 3週 現代社会のキーワード(少子化・ワークライフバランス) 4週 マナー 5週 正しい日本語・美しい日本語 6週 敬語 7週 文章力(おたより作成) 8週 社会人の先輩に学ぶ 9週 キャリアデザイン 10週 社会人基礎力の向上① 11週 社会人基礎力の向上② 12週 社会人基礎力の向上③ 13週 人間性 14週 絵本から学ぶ社会人基礎 15週 授業内試験(筆記)とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験40%、授業内の課題40%、授業への態度20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	46cbukr				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、幼稚園理事・園長として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>各種メディアを通じて世の中の動きを理解し、自分なりの考えをもつこと。人とのコミュニケーションを図る機会や社会経験を積む機会を積極的に作ること。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	社会人としてあるべき姿勢で、授業に臨むようにしてください。授業内で実施する小テストや課題は随時フィードバックを行います。				

授業科目	情報処理	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	常見 裕子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1203
授業概要	<p>現代社会ではパソコンは使えて当たり前と言っても過言ではないが、スマートフォンなどの普及なども一因、パソコン操作に不慣れ、また不安を持つ学生が多くなっているのが現状である。 現代社会に必要な情報リテラシー能力を修得するため、コンピュータの基本操作、活用技術、マナーなどの基礎知識を学びながら、ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、多様な文書作成のスキルを習得する。 授業終了後、学内で実施する「文書デザイン検定試験」を受験することができる。</p>				
到達目標	<p>① 幼稚園の園だより、案内文書などを考えながら作成することができる。 ② 電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。 ③ コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス(授業内容説明とパソコン使用状況に関するアンケート) タイピングの基本 2週 Windows基本操作 Google Driveの使用方法 タイピング練習(ブラインドタッチ) 3週 MS-IMEと文字入力 長文練習と文字の訂正 4週 文書の編集とページ設定 セキュリティと情報モラル 5週 表の作成 6週 表の作成の応用 ※園だよりの作成① 7週 図形機能と画像の挿入 ※園だよりの作成② 8週 パソコンメールのマナーと形式 PDFファイル変換など ※園だよりの作成③ 9週 レポート・論文などで必要な様々な機能(ページ番号挿入、セクション区切りなど)著作権と引用 10週 これまでの復習とまとめ ※園だよりの作成④ 11週 文書デザイン検定試験問題を使用して応用練習① 12週 文書デザイン検定試験問題を使用して応用練習② 13週 文書デザイン検定試験問題を使用して応用練習③ 14週 文書デザイン検定試験問題を使用して応用練習④ 15週 文書デザイン検定試験問題を使用して応用練習⑤</p>				
成績評価 方法・基準	<p>課題提出70%、平常点30% 課題の提出・返却に、Classroomを使用する。課題の評価結果は、Classroomにより知らせる。</p>				
教科書 ソフト等	<p>日本情報処理検定協会発行「文書デザイン検定試験 模擬問題集」 ※授業開始後、レベルにあわせ級を決定後問題集購入</p>				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	a:6ettipy b:24l2q4q c:7g2flye				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	会社内でのPC業務など実務経験有り、幼稚園教諭対象のPCセミナー等担当経験有り				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。入力速度向上のため、タイピング練習(ブラインドタッチ)を継続練習する。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>特に予備知識を必要としません。 遅刻、欠席をしないこと。</p>				

授業科目	日本国憲法(短大)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	加藤 信行	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1207
授業概要	日本国憲法の基本原則や内容について、基礎的な知識を習得する。おもに、基本的人権、国民主権、平和主義の分野を中心として、具体的な裁判例などを取り上げながら、憲法学上の考察を加える。基本的に教科書の流れに沿って授業を進めるが、教科書に入る前に、まずはじめに法学の基礎や近代憲法の歴史などを学ぶ。また、必要に応じて、民法、刑法、国際法などの関連法分野にも触れる。				
到達目標	①国の基本法である憲法の意義と内容を、具体的な問題と関連付けて理解することができる。 ②現実のさまざまな社会問題を憲法の観点から考えることができる。 ③法律学的な思考方法に触れ、社会人として不可欠な法的常識やものの考え方を身に着けることができる。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	1週 ガイダンス、法学の基礎 2週 憲法の意味、憲法の歴史、日本国憲法の基本原則と基本構造 3週 基本的人権総論、子どもの人権 4週 国籍、外国人の人権 5週 幸福追求権 6週 法の下での平等 7週 信教の自由、表現の自由の意義 8週 表現の規制、経済的自由 9週 生存権、教育権 10週 適正手続きの保障・死刑制度 11週 象徴天皇制と国民主権 12週 平和主義: 戦争の放棄 13週 国会と内閣 14週 裁判所: 司法制度 15週 まとめ				
成績評価 方法・基準	授業内試験(毎回の授業で実施) 100%				
教科書 ソフト等	初宿正典ほか著『いちばんやさしい憲法入門(第6版)』(有斐閣)				
参考書等	初宿正典ほか編著『目で見える憲法(第5版)』(有斐閣)、中村睦男編著『はじめての憲法学(第3版)』(三省堂)				
クラスコード	sktoqg6				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	1. 日頃から新聞等を目を通し、憲法問題と関わりがありそうな記事に留意すること。 2. 予習: 事前に配信される講義レジュメを参照しつつ教科書の関連部分を読み、授業でいかなる問題が取り上げられるかを考えるときに、分からない言葉や論理について調べておくこと。 3. 復習: 授業内容を思い出し、なにが問題か、なにが重要か、なにが分からないか、を整理してメモを作成する。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	講義レジュメや音声(または映像)資料の配布、フィードバックなどはすべてGoogle Classroom上で行います。 オンデマンド授業となりますが、毎週コンスタントに勉強するようにしてください。とくに、毎回の授業で示される簡単な課題または小テストをその日のうちに提出しなければ欠席扱いとなりますので、注意してください。 授業計画の第13週～第15週の内容は、それまでの授業の進行具合に応じて変更されるかもしれません。この科目は、オンライン・オンデマンド方式で実施します。				

授業科目	英語(口語表現)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1201
授業概要	この授業では教科書を通じて保育園や幼稚園などの教育現場で児童と交わす英語の会話表現を学び、さらに英語特有の音を聞き取り、英文を理解するディクテーションなども行う。また、平易な英文を用いた自己紹介や読み聞かせなど発表形式の活動も行う。これにより、保育士に求められる英語を話す、聞く、理解するという総合的な運用力を身につけることを目標とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 英文を正確に発音する力を高める。 ② 簡単な英文を聞き取りその意味を理解する。 ③ 簡単な英文を聞いて書き取ることができる。 ④ 簡単な語彙を用いて、他者と英語でコミュニケーションを図ることができる。 ⑤ 他者と協力して英語を使ったプロジェクトに取り組む姿勢を養うことができる。 				
学科のディプロマポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	1週 オリエンテーション 2週 ディクテーション、教科書(Hello, English Unit 1:ALT's First Visit) 3週 ディクテーション、教科書(保育英語Hello, English Unit 1:ALT's First Visit) 4週 ディクテーション、英語でCVを作成しよう！ 5週 ディクテーション、英語で自己紹介をしよう！準備1回目(Show & Tellとは？英文原稿の準備) 6週 ディクテーション、英語で自己紹介をしよう！準備2回目(自己紹介の英文暗記、リハーサル) 7週 英語で自己紹介をしよう！Show&Tellの発表1回目 8週 英語で自己紹介をしよう！Show&Tellの発表2回目 9週 英語で自己紹介をしよう！Show&Tellの発表3回目と講評、ディクテーション 10週 ダイレクト・メソッド 11週 Story Telling 準備1回目(Story Telling/Act outの概説と目的、資料配布、小道具づくり) 12週 Story Telling 準備2回目(暗記・発表練習＋ネイティブのモデル読み聞かせ) 13週 Story Telling 発表1回目 14週 Story Telling 発表2回目 15週 ディクテーション＋前期のまとめ				
成績評価方法・基準	毎回の授業におけるレスポンスシート20%、Show & Tellの発表40%、Story tellingの発表40%				
教科書ソフト等					
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	rulegrf				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	この授業では予習は求めないが、扱った教材は授業終了後になんども自分で練習し、暗唱できるくらいまでしておくこと。また、Show&Tellなどのグループ発表の際は、授業時間内での準備だけでは足りないと思われるので、各自で時間を見つけて準備をする必要がある。 2時間程度/週				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業中の使用言語については、教員の指示に従うこととする。ただし、どのように表現していいのかわからない場合は、積極的に質問すること。また、将来、保育者となって英語を使用する場面もあることを想定し、在学中に英語を学ぶことの意味をしっかりと理解して授業に臨むこと。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。				

授業科目	英語(文書表現)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1202
授業概要	<p>保育園や幼稚園における外国語活動のなかで、音声指導として大切な英語唄やフォニックスを取り上げてその理論と実践を学ぶ。児童が楽しみながら英語に慣れるような活動方法を検討し、その研究成果を発表してもらう。これにより、児童英語教育の実践方法とその基礎知識を身につけることを狙いとする。</p>				
到達目標	<p>① 児童英語教育の指導方法の基礎知識を習得し、他者に説明できる。 ② 児童英語教育の理論に基づいて、実際の授業計画を立て実践することができる。 ③ 他者と協力してより効果的な指導方法を研究し実践することができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション 2週 ディクテーション、教科書(Hello, English Unit 5: The First English Class) 3週 ディクテーション、教科書(Hello, English Unit 5: The First English Class) 4週 ディクテーション、English Songs for Kids 準備1回目(TPRとは? Where is Thumbkin?/Twinkle twinkle little star) 5週 ディクテーション、English Songs for Kids 準備2回目(指導案[課題説明]、楽譜配布、道具づくり) 6週 English songs for kids リハーサルと発表1回目 7週 English songs for kids 発表2回目と講評 8週 ダイレクトメソッド 9週 ディクテーション、マイクロティーチングについて、フォニックス1回目“A” 10週 ディクテーション、フォニックス2回目: “BとP/FとV”/“MとN” 11週 ディクテーション、フォニックス3回目: “LとR/DとT”/“SとZ”、マイクロティーチングの課題説明 12週 ディクテーション、マイクロティーチング リハーサルと発表1回目 13週 ディクテーション、マイクロティーチング 発表2回目 14週 マイクロティーチング 発表3回目と講評、ディクテーション 15週 ディクテーション 一年間のまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	毎回の授業のレスポンスシート20%、English Songs for Kidsの発表40%、マイクロティーチング発表40%				
教科書 ソフト等					
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	ucmshxh				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>本授業では特に予習は求めないが、授業終了後に授業で扱った学習内容を復習し、理解を深めること。また、マイクロティーチングや児童英語実習では、グループでの調査・研 討議といった活動が中心となる。授業以外で準備の時間を確保する必要性が生じる場合もあることを理解し、積極的に活動に参加すること。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>英語を使って活動することに前向きに取り組むこと。わからない表現や語彙などがあった場合は、必ず教員に質問すること。グループ活動には積極的な姿勢で臨むこと。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、プレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	体育理論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	田口 夏美	単位数	1	授業回数	8
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1211
授業概要	<p>健康や体力の維持・増進、運動・スポーツを楽しむ環境整備とその価値を理解することは、生活を豊かに送る上でとても大切です。</p> <p>① 体力の維持・増進 ② 身体を動かすこと(運動・スポーツ)の意味、および社会に与える影響の理解 ③ 発育発達とスポーツの関係の考察 を目的とし、さまざまな視点から運動・スポーツについて考えていく。</p>				
到達目標	<p>① 健康を維持・増進するとはどういうことかを理解できる。 ② 日々の生活の中における運動・スポーツ場面を考え、その意味や価値について考察し、自分なりの考えを持てるようになる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性: 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探求する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス 授業内容、方針、評価の説明など</p> <p>2週 運動・スポーツと自分・社会・価値について考えよう</p> <p>3週 運動・スポーツと健康・安全①</p> <p>4週 運動・スポーツと健康・安全②</p> <p>5週 運動・スポーツの歴史</p> <p>6週 運動・スポーツと心理</p> <p>7週 運動・スポーツができるようになる過程を考える</p> <p>8週 運動・スポーツとコーチング</p>				
成績評価 方法・基準	自己評価カード50%、レポート25%、意欲・リーダーシップ25%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	y3phcvg				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業以外の時間でも積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をしてください(授業内で発表)。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	毎回の講義でその日のまとめのレポート提出を求めます。				

授業科目	体育実技	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実技
担当教員	田口 夏美	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC-LA 1210
授業概要	身体活動の意味を理解し、健康維持や体力向上のための基礎知識を得ることを目標とする。有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチ、ボール運動、様々なスポーツなどをバランスよく組み込み、スポーツ活動や日常生活で求められる安全で効率のよい身体活動を身につける。				
到達目標	① 日常生活における身体の使い方や姿勢に気づき運動によって心と身体の調子を整える。 ② さまざまな運動の楽しみや喜び、合理的な運動のこころよさを体感する。 ③ 日常的に運動に親しみ、健康を守るための素地を作る。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性：建学の精神に基づいた豊かな人間性と、真理を探究する姿勢を持ち、社会人としての基礎的教養を身につけている。				
授業計画	1週 オリエンテーション 2週 レクリエーションゲーム(いろいろな運動)① 3週 レクリエーションゲーム(いろいろな運動)② 4週 ボールを使った運動(バルシューレ)① 5週 ボールを使った運動(バルシューレ)② 6週 ストレッチ・筋カトレーニング① 7週 ストレッチ・筋カトレーニング② 8週 バドミントン① 9週 バドミントン② 10週 ドッチボール① 11週 ドッチボール② 12週 バレーボール① 13週 バレーボール② 14週 バスケットボール① 15週 バスケットボール②				
成績評価 方法・基準	各週毎に記録する自己記録表の提出30%、全授業終了後に提出する課題レポート20%、個別課題への対応姿勢および集団課題における責任感と貢献度50%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	Aクラス:ouyi34o Bクラス:dfzmqvd				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、運動指導員として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業以外の時間でも、積極的に身体を動かす意欲を持ち、新聞・TV・インターネットなど、社会の中での運動、スポーツの情報を取り入れる努力をする。 1時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	実技にふさわしい服装で参加(上靴・ジャージ)。実技を伴う教科なので前日の体調管理には十分気をつけ、規則正しい日常生活を心がけて欲しい。				

授業科目	社会福祉	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	遠山 景広	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1502
授業概要	<p>人間の幸せを実現する社会福祉の基礎的な知識を獲得することを目的として、社会福祉の理念や社会福祉の歴史、社会福祉制度と福祉サービスの内容、並びに社会福祉実践方法としての援助技術等について学習する。</p> <p>① 社会福祉の理念、意義、歴史について学ぶ。 ② 社会福祉の制度とその体系について学ぶ。 ③ 社会福祉における相談援助について学ぶ。 ④ 社会福祉援助技術及び社会福祉従事者について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。③社会福祉における相談援助について理解する。④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。⑤社会福祉の動向と課題について理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション、社会福祉の理念と概念</p> <p>2週 社会福祉の歴史の変遷</p> <p>3週 子ども家庭支援と社会福祉</p> <p>4週 社会福祉の制度と法体系</p> <p>5週 社会福祉行財政と実施機関</p> <p>6週 社会福祉施設の種類と役割</p> <p>7週 社会福祉の専門職</p> <p>8週 相談援助の理論</p> <p>9週 相談援助の意義と機能</p> <p>10週 相談援助の対象と過程</p> <p>11週 相談援助の方法と技術</p> <p>12週 社会福祉における利用者保護</p> <p>13週 今後の社会福祉と子育て支援</p> <p>14週 諸外国の動向</p> <p>15週 授業内試験とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	期末課題60%、授業内課題・授業に臨む姿勢40%(各回の授業内容に関するコメントを含む)				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	松原康雄・坪 洋一・金子 充『新 基本保育シリーズ4 社会福祉』中央法規 2019(その他初回授業でも紹介します)				
クラスコード	uozd4d2				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>テキストの指定はしませんが、予習・復習用に1冊用意することをお勧めします。次回の内容について、教科書の該当部分を読んでおくこと授業内容の理解がスムーズです。また、日頃からの新聞やインターネット等で情報収集してみる、集めた情報を元に自分の考えを整理するなど、社会福祉の様々な分野に関心を持ってください。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業中、コメントや課題へのフィードバックを行います。				

授業科目	子ども家庭福祉	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	今西 良輔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1501
授業概要	<p>子どもの福祉において、発達、権利、地域の関係性を踏まえ、その理念とこれからの課題について理解する。そして、これからどのように子どもの福祉が展開されるのか、子どもとその子どもの家庭の変遷について学習する。専門職者(保育士、幼稚園教諭、保育教諭など)が子どもに関連する法制度とその役割についての知識を深める。</p>				
到達目標	<p>① 子どもの福祉の理念と意義の理解、関連法制度などの習得します。 ② 子どもと家庭の歴史の変遷の理解、その課題について理解する。 ③ これからの子ども家庭福祉について、自分自身の考えを持てるようになることを目指します。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 子ども家庭福祉を学ぶこと 2週 子どもの福祉と子どもの権利 3週 子どもを取り巻く環境と問題 4週 子ども家庭福祉の歴史 5週 子ども家庭福祉に関する法体系 6週 子ども家庭福祉の機関と施設 7週 子どもの健全育成 8週 子どもの貧困と母子保健 9週 社会的養護の動向と課題 10週 少年非行の現状と対応 11週 障害児福祉サービス 12週 ひとり親家庭の現状と課題 13週 子ども虐待と児童虐待防止法 14週 子ども家庭福祉におけるソーシャルワークと関係機関の役割 15週 授業内試験とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験50%、レポート30%、授業参加度20%				
教科書 ソフト等	中坪史典・山下文一ら(2021)「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」ミネルヴァ書房				
参考書等	伊藤嘉余子・渋谷昌史(2017)『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房 庄司順一・鈴木カ・宮島清編(2011)『子ども家庭支援とソーシャルワーク』福村出版				
クラスコード	ynhtsuv				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業前に指示のあったテキストや資料をよく読んで予習してください。 授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。 1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>基本的には講義中心になります。教室外でも学修を自ら進めておいてください。 また、わからないことがあればオフィスアワーもしくはメール等で質問をしてください。</p>				

授業科目	社会的養護 I	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	渡邊 洋平	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1503
授業概要	現代社会の変化により家族形態や養育機能に課題の発生から、家庭で養育できない子どもを支えるために社会的養護という役割が大きくなってきています。その理解を深めるために、これまでの児童養護のあり方を理解し、現在社会に起きている子どもの諸問題と結びつけて考える必要があります。本授業では、社会的養護の基本原則・役割、社会的養護に関する法体系を学び、地域で生活する社会的養護におかれている子どもの権利と生活の拠点となる施設養護・家庭的養護について理解します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ② 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ④ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ⑤ 社会的養護の現状と課題について理解する。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 オリエンテーション・社会的養護の理念と概念 2週 社会的養護の歴史的変遷 3週 子どもの人権擁護と社会的養護 4週 社会的養護の基本原則 5週 社会的養護における保育者の倫理と責務 6週 社会的養護の制度と法体系 7週 社会的養護の仕組みと実施体系 8週 社会的養護の対象 9週 家庭養護と施設養護 10週 社会的養護に関わる専門職 11週 社会的養護に関する社会的状況 12週 施設等の運営管理 13週 被措置児童等の虐待防止 14週 社会的養護と地域福祉 15週 授業内試験とまとめ				
成績評価 方法・基準	授業内試験80%、平常点20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	相澤 仁、林 浩康(2019)『基本保育シリーズ 社会的養護6』中央法規、中坪 史典他編(2021)『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房				
クラスコード	6v7qvkd				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業前は、指示のあった資料や参考書等をよく読んで予習してください。授業後は、講義内容及び子どもの福祉に関わる諸問題と結びつけて復習してください。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	基本的には講義中心になります。教室外での学修を自ら進めておいてください。 また、わからないことがあればオフィスアワーもしくはメール等で質問をしてください。				

授業科目	社会的養護Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	今西 良輔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2504
授業概要	<p>児童福祉施設における児童の生活や援助者による援助内容を理解するとともに、児童の望ましい発達や自立を支援するために必要な知識や技能を習得する。</p> <p>① 児童福祉施設での日常生活における具体的な援助方法を理解する。 ② 虐待を受けた児童に対する心理的援助の方法や家庭への支援のあり方を学ぶ。 ③ 事例を通じてケースの理解や問題の把握及び援助の仕方を考える。 ④ 児童福祉施設における援助の知識や技術について学ぶ。 ⑤ 社会的養護における家庭的養護の推進と小規模化の実際について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>① 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ② 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ③ 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ④ 社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。 ⑤ 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 ⑥ 施設の小規模化における保育者のあり方と役割について理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス、授業の目的及び内容、授業計画、事例研究、グループ討議の学び方</p> <p>2週 社会的養護における子どもの権利擁護</p> <p>3週 社会的養護における子どもの理解</p> <p>4週 基本的日常生活支援</p> <p>5週 入所から退所後に至る自立支援</p> <p>6週 児童養護の体系と児童福祉施設の概要、児童養護施設の生活特性及び実際</p> <p>7週 母子生活支援施設と乳児院の生活特性及び実際</p> <p>8週 児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設の生活特性及び実際</p> <p>9週 家庭養護の生活特性及び実際</p> <p>10週 社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価</p> <p>11週 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践</p> <p>12週 社会的養護に関わる援助の知識・技術とその実践</p> <p>13週 虐待への対応と虐待された子どもへの支援</p> <p>14週 子どもと家族への支援(虐待した家族への支援)</p> <p>15週 社会的養護の課題と展望、全体の総括</p>				
成績評価 方法・基準	レポート80%、平常点20%				
教科書 ソフト等	倉石哲也(2018)「保育現場の子ども虐待対応マニュアル 予防から発見・通告・支援のシステムづくり」中央法規				
参考書等	中坪史典・山下文一ら(2021)「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」ミネルヴァ書房				
クラスコード	oe7io42				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員が担当します。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業前は、教科書の各回の講義内容に該当する箇所をよく読んでおいてください。授業後は、配付された資料等を参考に講義内容をまとめておいてください。</p> <p style="text-align: right;">2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業の中で演習課題について小レポートを提出、又はグループ討議を行います。期末にレポート提出していただきます。				

授業科目	乳児保育 I	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	片岡 卓久	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1406
授業概要	<p>本授業の目的は、おおむね0～3歳の発達の特徴を理解し、その健やかな成長発達をうながす乳児保育の基本的な知識と技術を学ぶことである。具体的には、以下の内容を授業の柱とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児保育の意義・目的、歴史、役割を学ぶ。 2) 保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を学ぶ。 3) 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育内容、環境構成、運営体制について学ぶ。 4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関連機関との連携、子育て支援について学ぶ。 				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児保育の基本的な考え方やしくみを説明できる。 2) 3歳未満児の発達の道すじについて説明できる。 3) 乳児期の発達過程に合わせた生活習慣や環境について準備できる。 4) 乳児保育として必要な子育て支援の基本について述べるができる。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1週 ガイダンス(本講の概要や方法、および成績評価について) 2週 乳児保育のあゆみと役割 3週 保育所以外での乳児保育(乳児院、家庭的保育、地域子育て支援等) 4週 乳児期の発達の特徴と保育(1) おおむね生後6か月未満までの発達、はいはい前の赤ちゃんの世界 5週 乳児期の発達の特徴と保育(2) おおむね生後6か月から1歳3か月未満までの発達、はいはい・つかまり立ち・おすわり・たっち・あんよの世界 6週 乳児期の発達の特徴と保育(3) 1歳児の発達、かみつき・ひっかきへの理解と対応 7週 乳児期の発達の特徴と保育(4) 2歳児の発達、保育指針における0歳児と1-2歳児の記述の相違点 8週 乳児保育の内容と方法(1) 保育所の1日と子どもの生活時間、職員間の連携・協働 9週 乳児保育の内容と方法(2) 生活環境と安全、だっことおんぶ、食事の関わりと環境構成 10週 乳児保育の内容と方法(3) 排泄の関わりと環境構成、清潔を保つ関わりと環境構成、保育所等における睡眠、健康観察 11週 乳児保育の内容と方法(4) 保育の実施に関わる「配慮事項」、特別な配慮が必要な子ども、アレルギー、感染症 12週 乳児保育の内容と方法(5) あそびにおける保育士の役割(大人とともに、モノとともに、友だちとともに) 13週 乳児保育の内容と方法(6) 全身を使ったあそび、絵本との出会い 14週 職員間の連携・協働(複数担任制のよさとむずかしさ、ゆるやかな育児担当制、地域や他機関との連携・協働) 15週 保護者を支える乳児保育(保護者支援・子育て支援、アタッチメント(愛着関係)、保育の質、現代における乳児保育の課題) 				
成績評価 方法・基準	授業中の課題や宿題の提出と内容(70%)、授業中の作業や討議への参加度(30%)				
教科書 ソフト等	乳児保育研究会編(2018)資料でわかる乳児の保育新時代(改訂5版)、ひとなる書房				
参考書等	松本峰雄監修(2019)乳児保育演習ブック(第2版)、ミネルヴァ書房 厚生労働省(平成29年告示)保育所保育指針				
クラスコード	ykip2gy				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	現役保育士への乳児保育研修講師および地域子育て支援拠点を運営するNPO法人において9年間の研修担当理事としての職務から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえて、子育て支援に携わる保育士等の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行います。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業外での課題作成や授業内容の復習。 3時間/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	人生の原点である0、1、2、3歳の成長過程を学び、子どもたちを健やかに育てる配慮や工夫について考え、保護者に寄り添った保育となるための視点をつかんでいきましょう。 提出した課題については、授業中および返却時の書き込みによりフィードバックします。				

授業科目	乳児保育Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	岡田 由子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1407
授業概要	乳児保育の基本、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際、乳児保育における配慮の実際、計画の実際について学び、保育者としての実践力を高めます。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考えについて理解する。 ② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解する。 ③ 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。 ④ 上記の事項を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 子どもと保育者と身近な大人との関わりの重要性 2週 一人ひとりの子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 3週 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 4週 子どもの体験と学びの芽生え 5週 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 6週 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 7週 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 8週 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 9週 子ども同士の関わりとその援助の実際 10週 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 11週 集団での生活における配慮 12週 環境の変化や3歳以上の保育への移行に対する配慮 13週 乳児保育における計画の実際① 長期的な指導計画と短期的な指導計画 14週 乳児保育における計画の実際② 個別的な指導計画と集団の指導計画 15週 授業内試験とまとめ				
成績評価 方法・基準	授業内試験60%、授業内課題20%、平常点20%				
教科書 ソフト等	『やさしい乳児保育』伊藤輝子・天野珠路編著 青踏社、『保育所保育指針解説』				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	aクラス qc5eqcc bクラス s6qznum				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、保育園の園長として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業後は、教科書及び配付プリントの復習をしてください。また、ボランティア活動などを通して、実際に子どもとふれあう機会を多くもつことを勧めます。 1時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	子どもの命を育むために必要な知識ですので、暗記にとどまらないように学習してください。				

授業科目	保育の心理学	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	星 信子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1402
授業概要	<p>この授業の目的は、子どもの発達や学習に関わる様々な理論を学び、子どもの発達や学習の過程についての基本的な知識を習得することにより、保育中での子どもとの関わりに活かすことができるようになることである。</p> <p>授業概要は次のとおりである。</p> <p>① 子どもの発達を捉える視点について学ぶ。 ② 子どもの発達の諸過程について学ぶ。 ③ 子どもの学習の過程と保育の関わりについて学ぶ。</p>				
到達目標	<p>① 子どもの発達や学習に関する基本的な理論を理解し、説明できる。 ② 子どもの発達や学習の過程、その特性についての基本的な知識を習得している。 ③ 保育中での人との関わりや体験・環境の意義について自分なりに考え、説明できる。 ④ 発達や学習に関する知識を各自の子ども理解に活かすことができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション: 保育における発達理解の意義</p> <p>2週 発達の理論: 子どもの発達と環境</p> <p>3週 子どもの発達の過程① 身体・運動及び知覚の発達</p> <p>4週 子どもの発達の過程② 乳児期の知的発達</p> <p>5週 子どもの発達の過程③ 幼児期の知的発達</p> <p>6週 子どもの発達の過程④ 児童期以降の知的発達</p> <p>7週 子どもの発達の過程⑤ 愛着の理論</p> <p>8週 子どもの発達の過程⑥ 親子関係の発達</p> <p>9週 子どもの発達の過程⑦ 対人関係の発達</p> <p>10週 子どもの発達の過程⑧ 感情の発達</p> <p>11週 子どもの発達の過程⑨ 話し言葉の発達</p> <p>12週 子どもの発達の過程⑩ 書き言葉の発達</p> <p>13週 子どもの発達の過程⑪ パーソナリティの発達</p> <p>14週 学習の理論</p> <p>15週 授業内試験とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験80%、平常点(課題の取り組みなど)20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	「よくわかる乳幼児心理学」内田伸子編・ミネルヴァ書房、「子どもの育ちを支える発達心理学」高櫻綾子・講川滋大編著・朝倉書店、「やさしい教育心理学」鎌原雅彦・竹綱誠一郎著・有斐閣アルマ				
クラスコード	mk6sx7v				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業の後はノートや資料を見なおして内容を確認しましょう。 参考書を活用するなどして専門用語を自分なりに説明できるように心がけましょう。 2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	毎回記入するコメントシートなどを主体的に活用し、不明な点などを解消するように努めましょう。				

授業科目	子どもの保健	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	加藤 静恵	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナバリング	EC_MS 1403
授業概要	①胎児期から小児の身体生理・発育・発達・よく見られる小児の病気・母子保健の施策について学ぶ。②小児の健康な時の子育てだけでなく、疾病罹患時や何らかの心身の発達に偏りのある子どもの姿を理解し、それに応じた適切な子育ての実践の基礎となる事項を学ぶ。③子どもを取り巻く環境の変化と、健康に及ぼす影響や問題点を考察する。④病気の予防と健康増進を目的とした保健指導とそれを支える小児保健行政についても講義する。⑤胎児期からの神経系(脳機能)の発達と心身の発育・発達との関連を基盤に、こころの発達の偏り・不適応のある子どもの理解、適切な支援を実践のための理解を深める。⑥精神保健活動に必要な精神保健福祉行政のシステムを学習し、子育て支援者として母子の健全な心身の発達を支援するための基礎知識を習得する。⑦保育の現場(単に保育所に限定せず、乳幼児、児童が生活する場所;子育て支援や学童保育、児童福祉施設など)で健康で安全な保育の基礎となる、健康の保持増進を支援できる保育活動の理論と実践を習得する。				
到達目標	① 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ② 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ④ 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 オリエンテーション子どもの保健とは; 保育者の身体作り(教科書 I-1健康の概念と健康指標) 2週 生命の保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的(I-2子どもの健康を脅かすもの 他 3週 健康の概念と健康指標 母子保健対策の保育(教科書I-4 我が国の小児保健水準 1-5 母子保健 4週 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題(教科書 1-6育児環境と精神保健 1-7母親のメンタルヘルス) 5週 地域における保健活動と子ども虐待防止(教科書 I-8虐待 1-9子どものトラウマとその対応 1-10地域精神保健活動 他 6週 身体発育及び運動機能の発達と保健(教科書II、 III :原始反射・DCD・感覚統合含む 7週 生理機能の発達と保健(教科書IV 自律神経・体温・水分代謝と発熱・循環・呼吸心拍血圧・消化吸収・排泄・睡眠・感覚器官・免疫) 8週 精神機能の発達と保健(教科書V: 心の育ち・言語の発達・社会性の発達(ASD含む)・情緒の発達・発達に影響する要因 9週 心身の健康状態とその把握(教科書VI 健康状態の観察ポイント 頭頸部 胸・腹部 四肢皮膚) 10週 心身の不調等の早期発見(教科書VI 子どもの心身の健康 心身症生活習慣や行動上の問題 他) 11週 発育・発達の把握と健康診断(教科書VI 発達を評価する 乳幼児健康診査保護者との情報共有 他) 12週 主な疾病の特徴①(教科書VII 子どもの疾病の特徴) 13週 主な疾病の特徴②(教科書第VII 子どもの病気の特徴) 14週 子どもの疾病の予防と適切な対応(教科書VII 新生児マスキング・予防接種・疾病異常と支援体制 他職種間の連携協働) 15週 習得度確認テスト				
成績評価 方法・基準	受講確認課題60%, 学期末習得度確認テスト40%				
教科書 ソフト等	新版よくわかる子どもの保健(ミネルヴァ書房)				
参考書等	人間発達学(MEDICAL VIEW) /ハイリスク児のフォローアップマニュアル(MEDICAL VIEW) 子どもの保健テキスト(診断と治療社)子どもの精神保健テキスト(診断と治療社)子どもの病気の地図帳(社) 子どもの保健(中央法規)保育を学ぶ人のための子どもの保健(建帛社)正常発達(三輪書店)小児看護技術アドバンス(インターメディカ)				
クラスコード	woaysv3				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、医師として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業前に教科書の該当ページを目を通し事前学習に取り組みください。講義資料はクラスルームにアップロードします。リアクションペーパーの提出と受講確認課題(復習として講義に関するトピックスなどの資料を提示しますので考察して理解を深める)の提出で出席とします。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	講義形式は原則対面で開催します。状況によってはリモート(Meet・オンデマンド等)で行います。教科書に沿って進めますが、ワークや身体活動も取り入れていきます。講義に関する質問や相談をメールで個別に受け付けます。人間の身体機能やご自身やご家族など周囲の方の健康についても関心を持ち、子どもの家族の健康面も管理や支援方法を学びます。あなたの講義で耳にした知識が誰かの命を救い、人生を変えるかもしれないという意識をもって講義を受けてください。				

授業科目	教育課程論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	大澤 亜里	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2301
授業概要	<p>子どもの個性を尊重し、発達を支える教育課程・全体的な計画および指導計画のあり方について考え、実践の中で生かすことができる知識やスキルを身につけます。授業では教育課程・全体的な計画、指導計画とは何か、どのような意義があるのか、これらを作成する際にどのようなことを考慮しなければいけないのかについて学びます。また計画に基づいて実践した自らの保育を記録し省察、評価する意義について学びます。その上で、子どもの姿を想像しながら実際に指導計画を作成します。</p>				
到達目標	<p>① 教育課程・全体的な計画および指導計画の意義について説明することができる。 ② 記録および省察、評価の意義を理解し、記録の取り方を工夫することができる。 ③ 子どもの視点に立って指導計画を作成することができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス、教育課程論では何を学ぶか 2週 保育における計画の意義 3週 幼稚園教育要領および保育所保育指針の変遷 4週 教育課程・全体的な計画の意義と編成 5週 指導計画の基本① 長期の指導計 6週 指導計画の基本② 短期の指導計画 7週 指導計画の基本③ 0、1、2歳児保育の指導計画 8週 指導計画の基本④ 3、4、5歳児保育の指導計画 9週 保育の記録 10週 保育の評価 11週 指導計画の作成① 子どもの姿とねらい・内容 12週 指導計画の作成② 絵本の読み聞かせの部分指導案 13週 指導計画の作成③ 製作活動の部分指導案 14週 指導計画の作成④ 日案の書き方 15週 学外実習に向けて、夏・秋の指導計画</p>				
成績評価 方法・基準	期末レポート30%、毎回授業後に提出するリアクションペーパーの内容50%、指導計画作成への取り組み20%				
教科書 ソフト等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	森上史朗監修・大豆生田啓友・三谷大紀編(2022)『最新保育資料集2022』ミネルヴァ書房				
クラスコード	ql6abqc				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業前には教科書の関連する箇所をよく読んでおいてください。授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。 2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業は基本的に講義形式で進めていきますが、グループで考えたり議論したりする機会や自ら指導計画を作成する機会がありますので積極的に参加してください。また毎回の授業の最初リアクションペーパーのフィードバックやリアクションペーパーの内容に関する意見交換を行いますので、自分の考えや意見等を書いてください。</p>				

授業科目	子ども家庭支援論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期・後期	講義形態	講義
担当教員	遠山 景広	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2501
授業概要	子育て家庭支援の必要性、目的と支援の方向性及び具体的な方法等を理解し、自分自身の見解と見通しが持てるような基礎力を養うことを目的とする。社会と価値観が多様化に伴い、家族のあり方や子育ての環境も大きく変化している。子ども・子育て家庭への支援に関する基本的な理念と具体的な方法に触れながら、「社会が保育者に求める家庭支援」とは何かを考え、保育者として必要となる「家庭における日常生活としての子育て」を支援するための理論や方法を学ぶ。				
到達目標	① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 オリエンテーション、子ども家庭支援の意義と必要性 2週 子ども家庭支援の目的と機能 3週 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4週 保育者に求められる基本的態度 5週 保育におけるソーシャルワークの意義 6週 子どもの育ちの喜びの共有 7週 様々な家庭の状況に応じた支援 8週 保護者・地域の実践力の向上を支える支援 9週 要保護児童と家庭支援 10週 子どもへの虐待と現状 11週 子ども家庭支援にかかわる制度 12週 子ども家庭支援にかかわる専門機関 13週 現代社会の課題と貧困の問題 14週 子ども家庭支援に関する現状と課題 15週 授業内試験とまとめ				
成績評価 方法・基準	授業内試験60%、授業態度(コメント含む)や実習への取り組み40%				
教科書 ソフト等	倉石哲也・大竹智『子ども家庭支援』ミネルヴァ書房 2020				
参考書等	石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範『保育と子ども家庭福祉論』みらい 2020				
クラスコード	前期(aクラス):hgbnrbp 後期(bクラス):7rguqhq				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	テキストなどを用いて、次回の内容に関連する内容を確認してください。また、日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事などに関心を持ち、自分の考えや根拠をまとめておきましょう。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	「んぐまーま」の実習前に見学やボランティアに積極的に参加してください。実習のリアクションペーパーのフィードバックを授業中に行います。ClassRoomが前期後期で分かれていますので、登録時は注意してください。				

授業科目	児童文学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	山田 千春	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2701
授業概要	<p>① 子どもの心の豊かさを育てる上で大きな意味を持つ「児童文学」について、児童観の変遷などもまじえながらその歴史を学ぶ。 ② 絵本の歴史、種類、受容について知り、絵本の選定、読み聞かせなど幼児教育に携わる中で必要な基礎的知識を身につける。</p>				
到達目標	<p>① 「児童文学」とは何か、児童文学史を通してその意義と特徴を説明できる。 ② 「絵本」とは何かを理解し、さまざまな絵本の種類を学ぶことで、子どもの言葉の発達や心の豊かさを支えていくことができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス、「児童文学」とは何か、近代以前の「児童文学」 2週 「絵本」の歴史・概観、多様化する現在 3週 戦前の絵本、戦後の絵本 4週 いろいろな絵本① 赤ちゃん絵本 5週 いろいろな絵本② 民話絵本 6週 いろいろな絵本③ 絵本の受容 7週 いろいろな絵本④ 画家の違い、作家の話を知る 8週 「お伽噺」と「創作児童文学」 グリム童話とアンデルセン童話 9週 「巖谷小波」と「小川未明」 10週 「赤い鳥」 11週 「宮沢賢治」① 12週 「宮沢賢治」② 13週 児童文学冬の時代、民主主義児童文学 14週 「童話伝統批判」と現代児童文学の成立 15週 授業内試験とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験50%、毎時間の小テスト、提出物40%、参加態度10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	『はじめて学ぶ 日本児童文学史』鳥越 信 編著(ミネルヴァ書房)、『はじめて学ぶ 日本の絵本史Ⅰ-Ⅲ』鳥越 信 編 (ミネルヴァ書房)				
クラスコード	zp5blyk				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日常的に、図書館などで絵本を読んでください。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	第2回から読書記録を提出してもらいます。授業後半に小テストを実施します。授業では集中して取り組み、メモをとるようにしましょう。				

授業科目	子ども家庭支援の心理学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	星 信子、遠山 景広	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2404
授業概要	<p>子どもや家族を支援するためには、心理学的な視点から子どもや家族を取り巻く様々な問題を捉えていくことが重要です。本講義では、子どもや家族に関わる以下の①～④の現代の諸問題について、心理学的な視点から学びます。</p> <p>① 生涯発達の視点と初期経験の重要性 ② 家族・家庭の意義及び家族関係 ③ 子育て家庭の社会的状況と課題 ④ 子どもの精神保健</p>				
到達目標	<p>① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④ 子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 生涯発達の視点と初期発達の重要性〔星〕</p> <p>2週 乳幼児期から学童期にかけての発達〔星〕</p> <p>3週 青年期の発達〔星〕</p> <p>4週 成人期の発達〔星〕</p> <p>5週 老年期の発達〔星〕</p> <p>6週 家族・家庭の意義と機能〔遠山〕</p> <p>7週 親子関係・家族関係の理解〔遠山〕</p> <p>8週 子育ての経験と親としての育ち〔遠山〕</p> <p>9週 子育てを取り巻く社会的状況〔遠山〕</p> <p>10週 ライフコースと仕事・子育て〔遠山〕</p> <p>11週 多様な家庭とその理解〔遠山〕</p> <p>12週 特別な配慮を要する家庭〔遠山〕</p> <p>13週 子どもの生活と生育環境〔星〕</p> <p>14週 子どもの心の健康〔星〕</p> <p>15週 授業内試験とまとめ〔星・遠山〕</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験80%、平常点(授業への取り組みなど)20%				
教科書 ソフト等	白川佳子・福丸由佳編『子ども家庭支援の心理学』中央法規				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	zkjloh6				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>教科書・配布資料やノートを読み返し、授業の内容を確認しましょう。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業は基本的に講義形式で進めますので、自分なりに工夫してノートを取る、不明な点をそのままにしないで調べたり質問したりするなどして、内容の理解に努めましょう。また、意見交換や課題を行う際には、主体的に参加するようにしましょう。</p>				

授業科目	教育相談の基礎	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	新川 貴紀	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2503
授業概要	<p>教育職員免許法で幼稚園教諭に必須とされる、カウンセリングに関する知識を学ぶ科目である。幼児は自発的に相談する能力を有しないため、個別相談的な関わりが必要な幼児に対しては、保育者が必要を看取して対応する事が求められる。その基礎としての幼児理解を学ぶ。また、幼児が健康に育って行くためには、良好な家庭環境が必須であり、保護者のニーズに保育者が相談的に対応することで、その維持、改善に寄与する事もできる。相談援助の基礎としてのカウンセリングの理論と技法を学び、現場で必要となる保護者対応の基本も学ぶ。</p>				
到達目標	<p>① 個別相談的な関わりが必要な幼児への視点を獲得する。 ② 相談の基礎となるカウンセリングの基本的考え方を理解する。 ③ 保護者の相談を受ける際の基本的構えを獲得する。</p>				
学科のディプロマポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス 保育における相談の意味とカウンセリング 2週 相談対象者の理解① 心の問題の形成 3週 相談対象者の理解② 心の問題のあらわれ 4週 相談技法の基礎① 精神分析 5週 相談技法の基礎② 来談者中心療法 6週 相談技法の実際① C. ロジャーズの面接ビデオ視聴 7週 相談技法の基礎③ 行動療法 8週 相談技法の基礎④ 論理療法と認知行動療法 9週 相談技法の基礎⑤ ブリーフ・セラピー 10週 相談技法の基礎⑥ ソリューション フォーカスト アプローチ 11週 相談技法の実際② SFA面接ビデオの視聴1「意志のない相手との面接」 12週 相談技法の実際③ SFA面接ビデオの視聴2「子どもは私の生きがい」 13週 相談技法の実際④ カウンセリングの効果、特に共感について 14週 相談技法の実際⑤ 保護者対応 相談を受けるということ 15週 まとめ(教育相談の意義と課題)</p>				
成績評価方法・基準	リアクションペーパーの記載等の講義への参加度75% 最終レポート25%				
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	ufba3iw				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	小中高校スクールカウンセラーとしてカウンセリング実務を経験				
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	<p>予告された内容について文献、インターネット等で各回のテーマを事前学習 2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	授業はグループワークを取り入れた講義形式で行います。				

授業科目	臨床心理学	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	竹森 未知	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2406
授業概要	この講義では、心的病理や様々な不適応行動について、臨床心理学を通じて理解をしていくことを目的とする。また、臨床心理学についての基本的知識や理論、事例なども扱っていく。さらに、日常生活や保育の場を通じて理解を深めていく。				
到達目標	① 日常生活を中心に臨床心理学の基礎を学ぶ。 ② 心理アセスメントや心理療法の知識を持ち、どのように活かしていくかを考える。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 オリエンテーション 2週 心理学の歴史と臨床心理学 3週 臨床心理学の扱う問題 4週 臨床心理学の理論と方法 5週 子どもの精神発達の道筋 6週 発達障害① 7週 発達障害② 8週 乳児期・幼児期前半の臨床的課題 9週 発達の<遅れ>や<困り>をどう見るか① 10週 幼児期後半の臨床的課題 11週 発達の<遅れ>や<困り>をどう見るか② 12週 児童期・思春期の臨床的課題 13週 家庭支援・親支援 14週 地域支援・多職種連携 15週 授業内試験とまとめ				
成績評価 方法・基準	授業内試験60%、授業参加の度合い30%、小レポートの評価10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	qwng6yd				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	毎回講義後に講義内容を踏まえた小課題を出します。資料を見返しながら取り組んでください。講義内でお伝えする問題の見方や支援方法について、自分なりの考察をしてください。 1時間から2時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	講義の進み具合等により、計画が変更される場合があります。講義中、レポートのフィードバックを行います。本講義はフルオンデマンドで実施予定です。				

授業科目	子どもの理解と援助	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	星 信子、早坂 聡子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1404
授業概要	<p>子どもの理解に必要な知識、考え方や基本的態度について理解を深めると同時に、発達を援助する具体的な方法を考える力を身につける。また、幼児の生活や遊びの様子、幼児理解の実際と援助等に関する現場の実践例を学び、幼児理解の意義や方法について理解を深める。</p>				
到達目標	<p>① 幼児教育の基本となる子ども理解の意義を理解する。 ② 幼児の生活や遊びの中での発達や学び、つまずきとその要因を理解する。 ③ 子ども理解における保育者の姿勢、及び幼稚園教育・保育所保育の特徴を学ぶ。 ④ 子ども理解の方法及びそれに基づく具体的な援助の方法を理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション: 子どもの理解と意義[星] 2週 子どもを見るということ[星] 3週 子ども理解における保育者の姿勢[星] 4週 生活・遊びと保育環境[早坂] 5週 幼稚園教育・保育所保育の特徴と子どもの理解[星] 6週 子ども理解の実際① 保育所(乳児)[星] 7週 子ども理解の実際② 幼稚園(年少児)[星] 8週 子ども理解の実際③ 幼稚園[早坂] 9週 集団の理解[星] 10週 就学への支援[星] 11週 子ども理解の方法[星] 12週 子ども理解の実際④ 記録の工夫[星] 13週 特別な支援を必要とする子ども[星] 14週 子ども理解の実際⑤ 施設[星] 15週 授業内試験とまとめ[星]</p>				
成績評価 方法・基準	筆記試験60%、演習課題20%、授業への参加態度・意欲等の平常点20%				
教科書 ソフト等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	授業内で資料を配布します				
クラスコード	aクラス:vz5l3lh bクラス:r5yjfz				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	指示のあったテキストや資料をよく読みましょう。演習課題に主体的に取り組むとともに、講義の中で考えたことを実習などの実践の中で試し、改善していきましょう。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	演習課題の発表を積極的に行いましょう。演習では、自分なりに考える習慣を大切にしましょう。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。				

授業科目	保育内容総論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	大澤 亜里	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1302
授業概要	<p>子どもの個性を尊重し、発達を支える保育内容のあり方について考える上で必要な基礎的知識を習得するとともに、子どもの視点に立って考える態度を身につけます。授業ではまず現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に基づきながら保育の基本と保育のねらい及び内容について学ぶとともに、保育内容の歴史的変遷を学び、現在の保育内容についての理解を深めます。また乳幼児期の発達過程や子どもの権利理念を理解し、それらを踏まえた保育内容について考えます。さらに子ども・家族を取り巻く現在の社会状況を踏まえながら、多様化する保育ニーズとその現状および課題について学びます。</p>				
到達目標	<p>① 保育の全体構造について説明することができる。 ② 保育内容が歴史的にどのように変遷し、今日の保育内容に至っているのか説明することができる。 ③ 子どもの発達や権利、保育の基本的な考え方を理解した上で、保育内容のあり方について考え、自分の意見を述べるすることができる。 ④ 現在の多様な保育ニーズを理解し、保育の現状と課題について説明することができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス 保育内容総論では何を学ぶか 2週 保育の基本と保育内容 3週 保育内容と領域 4週 保育内容の歴史的変遷① 戦前の保育内容 5週 保育内容の歴史的変遷② 戦後の保育内容 6週 子どもの発達と保育内容① おおむね3歳までの発達過程と保育内容 7週 子どもの発達と保育内容② おおむね3歳以降の発達過程と保育内容 8週 子どもの発達と保育内容③ 個と集団の育ちと保育内容 9週 子どもの権利と保育内容① 子どもの最善の利益とは 10週 子どもの権利と保育内容② 子どもの権利を保障する保育内容 11週 保育における観察と記録 12週 保育の基本を踏まえた保育内容の展開 13週 子ども・家族を取り巻く社会状況と保育の現状 14週 多様なニーズと保育の展開 15週 授業全体のまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	期末レポート40%、毎回授業後に提出するリアクションペーパーの内容60%				
教科書 ソフト等	森上史朗監修・大豆生田啓友・三谷大紀編(2023)『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	c4e2wjn				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業前には教科書の関連する箇所をよく読んでおいてください。授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>考えたり議論したりする機会を取り入れながら授業を進めていきますので積極的に取り組んでください。また毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックやリアクションペーパーの内容に関するディスカッションを行いますので自分の考えや意見等を書いてください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育音楽 I	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹、浅沼 恵輔、澤田 一枝、住友 奈苗、鈴木 飛鳥、西谷 麻里子、石橋 克史、万仲 有里恵、國谷 聖香	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1702
授業概要	<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶ。 ② 子どもの心身の発達や保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験を捉え、実践的に知識・技術を学びます。 ③ 各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充ち、残りの時間はその練習準備時間、聴講、楽典とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りをを行います。</p>				
到達目標	<p>子どもが豊かな生活や遊びを通して感性を養うことが出来るよう、保育の展開に必要な知識や技術を習得する。 また、保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。 バイエル60番まで完了することを目標とし、バイエル60番以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る 2週 進度にあった課題を読譜する① 楽典(音符) 3週 進度にあった課題を読譜する② 楽典(休符) 4週 進度にあった課題を読譜する③ 楽典(拍子) 5週 進度にあった課題を読譜する④ 楽典(発想記号) 6週 進度にあった課題を読譜する⑤ 楽典(長短音程) 7週 課題曲を読譜する①楽典(完全音程) 8週 課題曲を読譜する② 楽典(音程の転回) 9週 課題曲を読譜する③ 楽典(長音階) 10週 課題曲を仕上げる① 楽典(短音階) 11週 課題曲を仕上げる② 楽典(移調) 12週 課題曲を仕上げる③ 楽典(転調) 13週 学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 14週 習得した曲から課題曲発表とリハーサル 15週 習得した曲から課題曲発表とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)80%、提出物10%、日常の取り組み状況10%				
教科書 ソフト等	ピアノ曲&弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために(圭文社)、最もわかりやすい楽典入門(kmp)、バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	『全訳ハンソピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、その他到達に合ったテキスト、こどものうた200(チャイルド本社)				
クラスコード	全体 5to6tlp 各担当の先生のクラスコードは、初回のレッスンでお知らせします。				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。また、楽典では次回までの課題(プリント)が提示されるので、それらを準備してから授業に参加してください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。 なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カード、プリントのフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育音楽Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹、浅沼 恵輔、澤田 一枝、住友 奈苗、鈴木 飛鳥、西谷 麻里子、石橋 克史、万仲 有里恵、國谷 聖香	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 2704
授業概要	<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通して、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽的実践力を身につけます。</p> <p>② 子ども達の心身の発達や保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される保育の内容を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける体験を捉え、実践的に知識・技術を学びます。</p> <p>③ 「保育音楽Ⅰ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講、楽典とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>				
到達目標	<p>子どもが豊かな生活や遊びを通して感性を養うことが出来るよう、保育の展開に必要な知識や技術を習得し、人前で余裕を持って演奏できる。また、保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。バイエル100番以上完了することを目標とし、バイエル100～106番もしくはブルグミュラー25番練習曲以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術(弾き歌い、手遊びなど)を実践的に習得する。</p>				
学科のディプロマ・ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る</p> <p>2週 進度にあった課題を読譜する① 楽典(長短音程)</p> <p>3週 進度にあった課題を読譜する② 楽典(完全音程)</p> <p>4週 数曲を読譜する① 楽典(音程の増減)</p> <p>5週 数曲を読譜する② 楽典(三和音)</p> <p>6週 数曲を読譜する③ 楽典(主要三和音)</p> <p>7週 課題曲を読譜する① 楽典(属七の和音)</p> <p>8週 課題曲を読譜する② 楽典(転回和音)</p> <p>9週 課題曲を読譜する③ 楽典(終止形)</p> <p>10週 課題曲を仕上げる① 楽典(分散和音)</p> <p>11週 課題曲を仕上げる② 楽典(コード)</p> <p>12週 課題曲を仕上げる③ ミュージカル観賞</p> <p>13週 課題曲の完成に向け、総合的にレベルアップを目指す</p> <p>14週 習得した曲から課題曲発表とリハーサル</p> <p>15週 習得した曲から課題曲発表とまとめ</p>				
成績評価方法・基準	実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)80%、提出物10%、日常の取り組み状況10%				
教科書ソフト等	ピアノ曲&弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために(主文社)、最もわかりやすい楽典入門(kmp)、バイエルピアノ教則本、ブルグミュラー25の練習曲、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼稚園教育要領解説(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	『全訳ハンパンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、その他到達度に合ったテキスト、こどものうた200(チャイルド本社)				
クラスコード	全体 rci3dm				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。また、楽典では次回までの課題(プリント)が提示されるので、それらを準備してから授業に参加してください。				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カード、プリントのフィードバックを行います。				

授業科目	保育音楽Ⅲ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹、浅沼 恵輔、藤田 裕佳子、小杉 恵 國谷 聖香、木村 悠子、小山 雪絵、三上 絵里香、 中島 幸治、江田 ゆかり、澤田 千鶴子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	—
授業概要	<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通して、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 「保育音楽Ⅱ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>				
到達目標	<p>① 子どもがのびのびと表現活動を行えるよう、人前で余裕を持って演奏できる。</p> <p>② 保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>ブルグミュラー25の練習曲を完了することを目標とし、ソナチネ以上の課題曲を1曲選択し、演奏できる。</p> <p>また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術(弾き歌い、手遊びなど)を実践的に習得する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 進度にあった課題を選曲し、次週からの学習計画を練る</p> <p>2週 課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える①</p> <p>3週 課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える②</p> <p>4週 弾き歌い、手遊びなどに親しむ(生活の歌)</p> <p>5週 曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 実践</p> <p>6週 曲の構成や背景を知り、演奏表現につなげる 応用</p> <p>7週 弾き歌い、手遊びに親しむ(季節の歌)</p> <p>8週 和声の響きを感じながら、表現できるようにする 実践</p> <p>9週 和声の響きを感じながら、表現できるようにする 応用</p> <p>10週 課題曲を仕上げ、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 実践</p> <p>11週 課題曲を仕上げ、表現力の幅を広げながら、技術の向上を目指す 応用</p> <p>12週 学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 実践</p> <p>13週 学習内容が演奏表現につながっているか、自己評価を身につける 応用</p> <p>14週 習得した曲から課題曲発表とリハーサル</p> <p>15週 習得した曲から課題曲発表とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)80%、日常の取り組み状況20%				
教科書 ソフト等	『保育者・小学校教諭をめざす人のためのピアノ曲&弾き歌い童謡 ~豊かな音楽表現のために~』圭文社、『ソナチネアルバム』、『ソナタアルバム』、『ブルグミュラー25の練習曲』『こどもの歌200』				
参考書等	『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、到達度に合ったテキスト				
クラスコード	全体 pu756rb 各担当の先生のクラスコードは、初回のレッスンでお知らせします。				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。 なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カードのフィードバックを行います。				

授業科目	保育音楽Ⅳ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹、浅沼 恵輔、藤田 裕佳子、小杉 恵 國谷 聖香、木村 悠子、小山 雪絵、三上 絵里香、 中島 幸治、江田 ゆかり、澤田 千鶴子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	—
授業概要	<p>① ピアノの基礎的な演奏技術と表現方法を学ぶことを通して、子どもの生活と遊びを豊かにするために必要とされる音楽性、音楽の実践力を身につけます。</p> <p>② 「保育音楽Ⅲ」をふまえて、各自の進度に合わせた個人レッスン(少人数のグループに1名の講師を配当)で授業を行います。90分の内、約15分程度を個人レッスンに充当し、残りの時間はその練習準備時間、聴講とします。聴講の際、ピアノ学習記録カードを記入し、自らの演奏と練習に対して振り返りを行います。</p>				
到達目標	<p>① 子どもがのびのびと表現活動を行えるよう、人前で余裕を持って演奏できる。</p> <p>② 保育における教材等の活用と保育の具体的展開のための技術を実践的に習得し、各自の進度に合った課題曲を演奏できる。また、子どもの生活と遊びにおける体験に必要な技術(弾き歌い、手遊びなど)を実践的に習得する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 保育音楽Ⅲで学んだ奏法、練習方法のおさらい 実践</p> <p>2週 保育音楽Ⅲで学んだ奏法、練習方法のおさらい 応用</p> <p>3週 様々な様式、フレーズ等古典様式の特徴を理解し、留意点を考察する 実践</p> <p>4週 様々な様式、フレーズ等古典様式の特徴を理解し、留意点を考察する 応用</p> <p>5週 課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える①</p> <p>6週 課題曲の読譜、次習までの目標、取組みを考える②</p> <p>7週 鑑賞</p> <p>8週 様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる 実践</p> <p>9週 様々な演奏を聴くことにより、自分の表現の幅を広げる 応用</p> <p>10週 聴いた音楽を振り返り、自分の演奏表現につなげる 実践</p> <p>11週 聴いた音楽を振り返り、自分の演奏表現につなげる 応用</p> <p>12週 課題曲の完成に向け、総合的にレベルアップを目指す 実践</p> <p>13週 課題曲の完成に向け、総合的にレベルアップを目指す 応用</p> <p>14週 習得した曲から課題曲発表とリハーサル</p> <p>15週 習得した曲から課題曲発表とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	実技試験(演奏の正確さ、技術の達成度、音楽性)80%、日常の取り組み状況20%				
教科書 ソフト等	『保育者・小学校教諭をめざす人のためのピアノ曲&弾き歌い童謡 ～豊かな音楽表現のために～』圭文社、『ソナチネアルバム』、『ソナタアルバム』、『ブルグミュラー25の練習曲』『こどもの歌200』				
参考書等	『全訳ハノンピアノ教本』、『ツェルニー100番練習曲』、『ツェルニー30番練習曲』、『ギロック こどものためのアルバム』、到達度に合ったテキスト				
クラスコード	全体 rqlsxiu				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、演奏家として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	次の授業までの一週間で与えられた曲を自分で個人練習をして、弾けるようになったものを教員の前で演奏します。短い時間でも毎日練習する習慣をつけ、授業に臨んでください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	毎時、次の授業までの課題が出るので、各自練習の上個人レッスンに臨んでください。 なお、毎回授業内に実施したピアノ学習記録カードのフィードバックを行います。				

授業科目	特別支援教育と保育(理論)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	今西 良輔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1408
授業概要	<p>特別な支援を必要とする子どもへの教育と保育をする際、障害についてしっかりと理解することが求められます。また、障害のある子どもへ個別的な対応が必要ともなります。本授業では、様々な障害の理解と基礎的な知識の習得を目的としています。そのために、特別支援の教育と障害児保育の歴史を学び、様々な障害の種別に対して発達のニーズの把握から必要な支援について理解します。</p>				
到達目標	<p>① 障害の基礎知識を理解する。 ② 障害の特性や対応について理解する。 ③ 特別な支援を必要とする子どもへの教育と保育について理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 障害の理解 2週 障害と発達の見方 3週 障害児の歴史(特別支援教育と保育) 4週 障害のある子どもと保護者の理解 5週 知的障害児の理解と支援 6週 肢体不自由児の理解と支援 7週 視覚障害の理解と支援 8週 聴覚障害の理解と支援 9週 発達障害の理解と支援① 自閉症スペクトラム障害 10週 発達障害の理解と支援② 注意欠如・多動性障害 11週 発達障害の理解と支援③ 学習障害 12週 言語障害・情緒障害の理解と支援 13週 先天性疾患と重複障害の理解と支援 14週 合理的配慮を必要とする子どもの理解と支援 15週 まとめ</p>				
成績評価 方法・基準	学期末試験50%、レポート30%、授業への参加態度・意欲等の平常点20%				
教科書 ソフト等	西村重稀・水田俊郎編(2019)『基本保育シリーズ17 障害児保育』中央法規				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	a2ounh3				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業前は、指示のあったテキストや資料をよく読んでおいてください。授業後は各自で振り返りを行ってください。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>演習には積極的に参加すること。授業外でも学修を自ら進めておいてください。わからないことがあればオフィスアワーもしくはメール等で質問をしてください。</p>				

授業科目	特別支援教育と保育(実践)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	今西 良輔、渡邊 洋平	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2407
授業概要	<p>本授業では、特別支援教育と保育(理論)で学習した知識をより具体的な実践へと近づけていきます。特別な支援を必要とする子どもへの教育と保育実践において、個別および集団に応じた支援が必要となります。そのために、事例検討やロールプレイなどを通して具体的支援方法から学習を行います。保護者への相談技術、関係機関との連携の学びから、保育者としての力を養生させ、特別な支援を必要とする子どもへの実践理解を深化させます。</p>				
到達目標	<p>① 特別な支援を必要とする子どもに関連する機関との連携について理解する。 ② 事例検討を通して、実践的な理解をする。 ③ 指導計画作成に当たって、総合的な視点を理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 特別支援教育と障害児保育について[今西・渡邊] 2週 特別支援教育の現状と保育所・幼稚園における子どもの状況[渡邊] 3週 障害児の遊びと集団の活用[渡邊] 4週 障害児の保護者支援・きょうだい支援[渡邊] 5週 子どもの記録と子どもの評価するための留意点[渡邊] 6週 障害児の生活スキル獲得と支援[渡邊] 7週 保育所・幼稚園における職員間の連携[渡邊] 8週 保健医療、福祉の専門職者との連携[渡邊] 9週 地域における社会資源と当事者活動[渡邊] 10週 学校との連携と支援(通級および特別支援学級へのつなぎ)[渡邊] 11週 障害児の保育から教育、自立に向けて[渡邊] 12週 保育所における個別支援計画の理解[渡邊] 13週 幼稚園における個別支援計画の理解[渡邊] 14週 保育所・幼稚園における個別支援計画の作成と立案[渡邊] 15週 まとめ[今西・渡邊]</p>				
成績評価 方法・基準	学期末試験80%、平常点(出席、授業後の小レポートなど含め)20%				
教科書 ソフト等	なし。特別支援教育と保育(理論)にて使用した教科書を使用します。				
参考書等	西村重稀・水田俊郎編(2019)『基本保育シリーズ17 障害児保育』中央法規				
クラスコード	a: utbedqd b: g6ejamb				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員が担当します。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業前は、指示のあったテキストや資料をよく読んでおいてください。授業後は各自で振り返りを行ってください。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>演習には積極的に参加すること。授業外でも学修を自ら進めておいてください。 わからないことがあればオフィスアワーもしくはメール等で質問をしてください。</p>				

授業科目	総合表現	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹、田中 住幸、 山田 千春、浅沼 恵輔	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC.MS 1704 EC.MS 2702
授業概要	<p>子どものためのミュージカルをグループで創作し、音楽を活かした表現方法を学ぶと共に、共同制作における役割分担や全体の連携の重要性について認識を深める。今まで学習してきた学びを、舞台芸術表現へ発展させ、保育者に必要となる非認知能力を高めていく。脚本に基づき、表現に適した大道具、小道具、衣装、器楽曲、歌唱曲、効果音、照明計画などを制作し、セリフや動作、振り付け、場面転換の練習をする。</p>				
到達目標	<p>① ミュージカルという総合芸術に含まれる様々な要素を理解する。 ② 5領域との関連性を踏まえながら、子どもにとってどのような表現がわかりやすく、また楽しめる物を客観的に想定できるようになる。 ③ 共同制作という活動における、意見交換や役割分担の重要性を理解し自主的に行動できる。 ④ 歌や器楽曲演奏、セリフや身体表現などにより、子どもに物語の展開や登場人物の気持ちなどを伝えられるようになる。 ⑤ 保育者自身が豊かな感性と表現力を持つことの重要性について理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。				
授業計画	<p>1週(2コマ) ガイダンス、幼児に向けた表現としてふさわしい演目を決定、制作を開始する</p> <p>2週(2コマ) 作品鑑賞に基づき、劇に必要な要素を分析し脚本に盛り込む。仮脚本を読み、修正案をあげる。</p> <p>3週(2コマ) ミュージカル制作の全体責任者・演出係を決める。役割分担(大道具・小道具・衣装・作曲)決定。脚本完成。</p> <p>4週(2コマ) 演出係から絵コンテの説明、絵コンテに基づき脚本調整。全キャスト決定、キャストによる読み合わせ</p> <p>5週(2コマ) 脚本に沿った大・小道具・衣装・作曲の制作計画を立案、音響・照明係など決定</p> <p>6週(2コマ) 大道具・小道具・衣装・作曲、各部門内で役割分担し、制作物の詳細検討</p> <p>7週(2コマ) 回す読み合わせ、動く読み合わせ</p> <p>8週(2コマ) 半立ち稽古、発声練習</p> <p>9週(2コマ) 本立ち稽古、歌唱練習</p> <p>10週(2コマ) 道具を使った部分稽古</p> <p>11週(2コマ) 道具を使った通し稽古</p> <p>12週(2コマ) 照明・音響の準備、大道具類の設置</p> <p>13週(2コマ) 場当たり、道具の転換確認</p> <p>14週(2コマ) リハーサル</p> <p>15週(2コマ) 本番、完成作品のフィードバック</p>				
成績評価 方法・基準	共同制作に対する取り組み状況40%、本番での成果30%、課題の提出30%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	『古典童話シリーズ』(福音館)、『グリム童話集』(福音館)、『アンデルセン童話集』(岩波文庫)、『日本の昔話』(福音館)				
クラスコード	aクラス bcte74n bクラス ohnz72b				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は実務の経験を有する教員が実践的指導を行います。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	絵本・童話など子どものための文学作品を幅広く読んでください。映画や舞台劇などの物語作品を観る際に、制作する立場からの視点を持ってください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	積極的な授業参加を希望します。責任者や担当者との連絡を密にして一人一人が意欲的に取り組むことを期待します。				

授業科目	子どもの食と栄養	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	飯田 久美子	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1405																																																												
授業概要	<p>①子どもの食と栄養は、豊かな人間性を育て生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。②保育者をはじめ、子どもに関わるものとして、子どもの食生活や栄養についての正しい知識とスキルを習得し、学んだ知識を実際の保育の現場で実践し、発展させることができる力を身に付ける。③栄養に関する基本的知識を習得して、乳児期、幼児期、学童期のそれぞれの子どもの成長段階に応じた健全な発育、発達を促すための必要な事柄を栄養、食生活面から学ぶ。④子どもへの健康、成長に大きく関わる食の実際を調理・試食することで身につける。⑤子どもへのアプローチだけでなく、保護者への支援対応についても考える。⑥理論を実際に保育の現場において実践できるように演習として、教材作成・発表を体験する。</p>																																																																
到達目標	<p>① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。②子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。③養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容等について、地域社会・文化との関わりの中で理解する。④家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。⑤「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」及び「保育所における食事の提供ガイドライン」や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。⑥子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、保育との関連の中で保育者として対応できる知識と技術を身につける。⑦食育、栄養教育に関する基礎を理解し、保育の実践化への道筋をつかむ。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>子どもの心身の健康と食生活の意義</td> <td>16週</td> <td>後期授業オリエンテーション・前期復習</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>子どもの心身の健康と食生活の意義</td> <td>17週～</td> <td>特別な配慮を要する子どもの食と栄養</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>栄養・食品に関する基本的知識</td> <td>18週</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>栄養・食品に関する基本的知識</td> <td>19週～</td> <td>幼児のお弁当づくり計画・食育媒体づくり</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>栄養・食品に関する基本的知識</td> <td>20週</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>子どもの発育・発達と栄養生理</td> <td>21週～</td> <td>幼児のお弁当づくり計画・食育媒体づくり</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>子どもの発育・発達と栄養生理</td> <td>22週</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>子どもの発育・発達と栄養生理</td> <td>23週～</td> <td>お弁当を使った食育発表</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>子どもの発育・発達と食生活</td> <td>24週</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>子どもの発育・発達と食生活</td> <td>25週～</td> <td>離乳食実習</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>子どもの発育・発達と食生活</td> <td>26週</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>食育の基本と内容</td> <td>27週～</td> <td>離乳食実習</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>食育の基本と内容</td> <td>28週</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>家庭や児童福祉施設における食事と栄養</td> <td>29週～</td> <td>幼児食実習</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>家庭や児童福祉施設における食事と栄養</td> <td>30週</td> <td></td> </tr> </table>					1週	子どもの心身の健康と食生活の意義	16週	後期授業オリエンテーション・前期復習	2週	子どもの心身の健康と食生活の意義	17週～	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	3週	栄養・食品に関する基本的知識	18週		4週	栄養・食品に関する基本的知識	19週～	幼児のお弁当づくり計画・食育媒体づくり	5週	栄養・食品に関する基本的知識	20週		6週	子どもの発育・発達と栄養生理	21週～	幼児のお弁当づくり計画・食育媒体づくり	7週	子どもの発育・発達と栄養生理	22週		8週	子どもの発育・発達と栄養生理	23週～	お弁当を使った食育発表	9週	子どもの発育・発達と食生活	24週		10週	子どもの発育・発達と食生活	25週～	離乳食実習	11週	子どもの発育・発達と食生活	26週		12週	食育の基本と内容	27週～	離乳食実習	13週	食育の基本と内容	28週		14週	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	29週～	幼児食実習	15週	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	30週	
1週	子どもの心身の健康と食生活の意義	16週	後期授業オリエンテーション・前期復習																																																														
2週	子どもの心身の健康と食生活の意義	17週～	特別な配慮を要する子どもの食と栄養																																																														
3週	栄養・食品に関する基本的知識	18週																																																															
4週	栄養・食品に関する基本的知識	19週～	幼児のお弁当づくり計画・食育媒体づくり																																																														
5週	栄養・食品に関する基本的知識	20週																																																															
6週	子どもの発育・発達と栄養生理	21週～	幼児のお弁当づくり計画・食育媒体づくり																																																														
7週	子どもの発育・発達と栄養生理	22週																																																															
8週	子どもの発育・発達と栄養生理	23週～	お弁当を使った食育発表																																																														
9週	子どもの発育・発達と食生活	24週																																																															
10週	子どもの発育・発達と食生活	25週～	離乳食実習																																																														
11週	子どもの発育・発達と食生活	26週																																																															
12週	食育の基本と内容	27週～	離乳食実習																																																														
13週	食育の基本と内容	28週																																																															
14週	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	29週～	幼児食実習																																																														
15週	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	30週																																																															
成績評価 方法・基準	<p>前期授業) 授業内アクションペーパーによる出席と授業内容への取り組み姿勢 50%、まとめの提出課題による理解度の評価 50% 後期授業) グループワークにおける授業への参加姿勢 50%、課題提出 50% <感染症の影響を受ける状況下では、随時変更の可能性あり></p>																																																																
教科書 ソフト等	『子どもの食と栄養演習 第6版』 建帛社																																																																
参考書等	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2022年改訂版)																																																																
クラスコード	mjszzya																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、栄養をアドバイスする会社の代表で管理栄養士として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。																																																																
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>食事は保育活動の重要な柱として位置づけられています。保育士を目指す学生の養育の一つとして、日ごろから食に興味を持ち、自らの生活の中で望ましい食生活の実践を心がけ、安定した体調管理に努めてください。また、自身の身の回りで起こる、乳幼児の飲食風景に関心をはらい、傾向や課題についても授業内での学習と比較する習慣をつけてください。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業時間中はテキストの解説のみで終わることはありません。解説事項に関連した、現場での応用や補足を併せて理解することが大切になりますので、各自が自分の言葉で確認、補足することが求められます。後期はほぼすべての授業が「グループワーク」となります。チームとしての実習・学習に支障が出ないよう遅刻・欠席は極力避けるよう、各自自健康管理に努めてください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。</p>																																																																

授業科目	特別研究Ⅱ(音楽)	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	松井 亜樹、國谷 聖香	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2802																																																												
授業概要	<p>① 「特別研究Ⅰ(音楽)」で学んだことを踏まえ、保育者として必要な基礎的知識、音楽理論および技能をより深く学ぶ。</p> <p>② 音楽に興味を持ち、歌い、演奏することによって、音楽表現の多様性を理解する。</p>																																																																
到達目標	<p>① 実際の音楽活動を通し、音楽の楽しさを子どもと共有できる技術を身につけることができる。</p> <p>② 子どものためのコンサートの制作を通し、幼児用楽器の特徴を知り、奏法を習得できる。</p> <p>③ 教材研究を含めた歌唱、器楽、鑑賞の各指導法について実践的な考察を行い、保育現場で活かすことができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>生活の歌弾き歌い① 実践</td><td>16週</td><td>演奏会鑑賞</td></tr> <tr><td>2週</td><td>生活の歌弾き歌い② 応用</td><td>17週</td><td>その他の弾き歌い実践① 動物</td></tr> <tr><td>3週</td><td>春の歌弾き歌い① 実践</td><td>18週</td><td>その他の弾き歌い実践② 植物</td></tr> <tr><td>4週</td><td>春の歌弾き歌い② 応用</td><td>19週</td><td>その他の弾き歌い実践③ 食べ物</td></tr> <tr><td>5週</td><td>ミュージカル鑑賞① 20世紀の作品前半</td><td>20週</td><td>コンサート制作① 選曲① 合奏</td></tr> <tr><td>6週</td><td>ミュージカル鑑賞② 20世紀の作品後半</td><td>21週</td><td>コンサート制作② 選曲② 歌唱、トーンチャイム</td></tr> <tr><td>7週</td><td>夏の歌弾き歌い① 実践</td><td>22週</td><td>コンサート制作③ 構成① 立案</td></tr> <tr><td>8週</td><td>夏の歌弾き歌い② 応用</td><td>23週</td><td>コンサート制作④ 構成② 実践</td></tr> <tr><td>9週</td><td>手作り楽器制作① レインスティック</td><td>24週</td><td>コンサート制作⑤ 演出① 立案</td></tr> <tr><td>10週</td><td>手作り楽器制作② チャフチャス</td><td>25週</td><td>コンサート制作⑥ 演出② 実践</td></tr> <tr><td>11週</td><td>秋の歌弾き歌い① 実践</td><td>26週</td><td>コンサート制作⑦ 演出③ 応用</td></tr> <tr><td>12週</td><td>秋の歌弾き歌い② 応用</td><td>27週</td><td>コンサート制作⑧ 場当たり</td></tr> <tr><td>13週</td><td>冬の歌弾き歌い① 実践</td><td>28週</td><td>コンサート制作⑨ 転換稽古</td></tr> <tr><td>14週</td><td>冬の歌弾き歌い② 応用</td><td>29週</td><td>子どものためのコンサート① ゲネプロ</td></tr> <tr><td>15週</td><td>前期のまとめとフィードバック</td><td>30週</td><td>子どものためのコンサート② 本番</td></tr> </table>					1週	生活の歌弾き歌い① 実践	16週	演奏会鑑賞	2週	生活の歌弾き歌い② 応用	17週	その他の弾き歌い実践① 動物	3週	春の歌弾き歌い① 実践	18週	その他の弾き歌い実践② 植物	4週	春の歌弾き歌い② 応用	19週	その他の弾き歌い実践③ 食べ物	5週	ミュージカル鑑賞① 20世紀の作品前半	20週	コンサート制作① 選曲① 合奏	6週	ミュージカル鑑賞② 20世紀の作品後半	21週	コンサート制作② 選曲② 歌唱、トーンチャイム	7週	夏の歌弾き歌い① 実践	22週	コンサート制作③ 構成① 立案	8週	夏の歌弾き歌い② 応用	23週	コンサート制作④ 構成② 実践	9週	手作り楽器制作① レインスティック	24週	コンサート制作⑤ 演出① 立案	10週	手作り楽器制作② チャフチャス	25週	コンサート制作⑥ 演出② 実践	11週	秋の歌弾き歌い① 実践	26週	コンサート制作⑦ 演出③ 応用	12週	秋の歌弾き歌い② 応用	27週	コンサート制作⑧ 場当たり	13週	冬の歌弾き歌い① 実践	28週	コンサート制作⑨ 転換稽古	14週	冬の歌弾き歌い② 応用	29週	子どものためのコンサート① ゲネプロ	15週	前期のまとめとフィードバック	30週	子どものためのコンサート② 本番
1週	生活の歌弾き歌い① 実践	16週	演奏会鑑賞																																																														
2週	生活の歌弾き歌い② 応用	17週	その他の弾き歌い実践① 動物																																																														
3週	春の歌弾き歌い① 実践	18週	その他の弾き歌い実践② 植物																																																														
4週	春の歌弾き歌い② 応用	19週	その他の弾き歌い実践③ 食べ物																																																														
5週	ミュージカル鑑賞① 20世紀の作品前半	20週	コンサート制作① 選曲① 合奏																																																														
6週	ミュージカル鑑賞② 20世紀の作品後半	21週	コンサート制作② 選曲② 歌唱、トーンチャイム																																																														
7週	夏の歌弾き歌い① 実践	22週	コンサート制作③ 構成① 立案																																																														
8週	夏の歌弾き歌い② 応用	23週	コンサート制作④ 構成② 実践																																																														
9週	手作り楽器制作① レインスティック	24週	コンサート制作⑤ 演出① 立案																																																														
10週	手作り楽器制作② チャフチャス	25週	コンサート制作⑥ 演出② 実践																																																														
11週	秋の歌弾き歌い① 実践	26週	コンサート制作⑦ 演出③ 応用																																																														
12週	秋の歌弾き歌い② 応用	27週	コンサート制作⑧ 場当たり																																																														
13週	冬の歌弾き歌い① 実践	28週	コンサート制作⑨ 転換稽古																																																														
14週	冬の歌弾き歌い② 応用	29週	子どものためのコンサート① ゲネプロ																																																														
15週	前期のまとめとフィードバック	30週	子どものためのコンサート② 本番																																																														
成績評価 方法・基準	弾き歌いの実践50%、提出物30%、日常の取り組み状況20%																																																																
教科書 ソフト等	『保育者・小学校教諭をめざす人のためのピアノ曲&弾き歌い童謡曲~豊かな音楽表現のために』圭文社、『こどものうた200』小林美実編チャイルド本社、『続こどものうた200』小林美実編チャイルド本社																																																																
参考書等	『最もわかりやすい楽典入門』坪野春枝著																																																																
クラスコード	b75wb3p																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。																																																																
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業内で次の時間までの課題(弾き歌い)が提示されるので、準備、練習してから受講してください。 1時間から2時間程度/週																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業内に実施した課題のフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。																																																																

授業科目	特別研究Ⅱ(美術)	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	加藤 雅子	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2801																																																												
授業概要	<p>「特別研究Ⅰ(美術)」で学んだことをふまえ、様々な材料を使った制作のなかでさらに自分の個性を表現する方法を学ぶ。木材を使ったおもちゃ、陶器やガラス、金属等の音響特性を生かした作品、羊毛の感触を生かしたおもちゃなどを制作する。</p>																																																																
到達目標	<p>木材、粘土、羊毛、石などの自然素材を使った制作と平面表現のなかで、その特徴を生かし、さらに自分の感性を生かしながら表現できるようになる。石の採取、風揚げ、雪像など野外活動を通して、造形活動の特長をより深く理解する。共同制作を行い、お互いの考えや独自性を生かした作品作りができるようになる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス(ねらい・内容紹介)</td><td>16週</td><td>凧制作 構想・スケッチ、作品展準備①</td></tr> <tr><td>2週</td><td>おもちゃ制作① 検討</td><td>17週</td><td>凧制作 構想・スケッチ、作品展準備②</td></tr> <tr><td>3週</td><td>おもちゃ制作② スケッチ</td><td>18週</td><td>凧制作 ①</td></tr> <tr><td>4週</td><td>おもちゃ制作③</td><td>19週</td><td>凧制作 ②</td></tr> <tr><td>5週</td><td>おもちゃ制作④</td><td>20週</td><td>凧制作 ③</td></tr> <tr><td>6週</td><td>おもちゃ制作⑤</td><td>21週</td><td>凧制作 ④</td></tr> <tr><td>7週</td><td>おもちゃ制作⑤</td><td>22週</td><td>雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備①</td></tr> <tr><td>8週</td><td>おもちゃ制作⑥ 発表</td><td>23週</td><td>雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備②</td></tr> <tr><td>9週</td><td>版画によるカレンダー制作① 検討</td><td>24週</td><td>雪像制作 荒削り①</td></tr> <tr><td>10週</td><td>版画によるカレンダー制作② 版づくり</td><td>25週</td><td>雪像制作 荒削り②</td></tr> <tr><td>11週</td><td>版画によるカレンダー制作③ 版づくり</td><td>26週</td><td>雪像制作 仕上げ削り①</td></tr> <tr><td>12週</td><td>版画によるカレンダー制作④ 印刷</td><td>27週</td><td>雪像制作 仕上げ削り②</td></tr> <tr><td>13週</td><td>版画によるカレンダー制作③ 印刷</td><td>28週</td><td>雪像制作 仕上げ削り③</td></tr> <tr><td>14週</td><td>アート鑑賞</td><td>29週</td><td>雪像制作 表面仕上げ</td></tr> <tr><td>15週</td><td>アート鑑賞</td><td>30週</td><td>雪像制作 完成</td></tr> </table>					1週	ガイダンス(ねらい・内容紹介)	16週	凧制作 構想・スケッチ、作品展準備①	2週	おもちゃ制作① 検討	17週	凧制作 構想・スケッチ、作品展準備②	3週	おもちゃ制作② スケッチ	18週	凧制作 ①	4週	おもちゃ制作③	19週	凧制作 ②	5週	おもちゃ制作④	20週	凧制作 ③	6週	おもちゃ制作⑤	21週	凧制作 ④	7週	おもちゃ制作⑤	22週	雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備①	8週	おもちゃ制作⑥ 発表	23週	雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備②	9週	版画によるカレンダー制作① 検討	24週	雪像制作 荒削り①	10週	版画によるカレンダー制作② 版づくり	25週	雪像制作 荒削り②	11週	版画によるカレンダー制作③ 版づくり	26週	雪像制作 仕上げ削り①	12週	版画によるカレンダー制作④ 印刷	27週	雪像制作 仕上げ削り②	13週	版画によるカレンダー制作③ 印刷	28週	雪像制作 仕上げ削り③	14週	アート鑑賞	29週	雪像制作 表面仕上げ	15週	アート鑑賞	30週	雪像制作 完成
1週	ガイダンス(ねらい・内容紹介)	16週	凧制作 構想・スケッチ、作品展準備①																																																														
2週	おもちゃ制作① 検討	17週	凧制作 構想・スケッチ、作品展準備②																																																														
3週	おもちゃ制作② スケッチ	18週	凧制作 ①																																																														
4週	おもちゃ制作③	19週	凧制作 ②																																																														
5週	おもちゃ制作④	20週	凧制作 ③																																																														
6週	おもちゃ制作⑤	21週	凧制作 ④																																																														
7週	おもちゃ制作⑤	22週	雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備①																																																														
8週	おもちゃ制作⑥ 発表	23週	雪像制作 構想・スケッチ、作品展準備②																																																														
9週	版画によるカレンダー制作① 検討	24週	雪像制作 荒削り①																																																														
10週	版画によるカレンダー制作② 版づくり	25週	雪像制作 荒削り②																																																														
11週	版画によるカレンダー制作③ 版づくり	26週	雪像制作 仕上げ削り①																																																														
12週	版画によるカレンダー制作④ 印刷	27週	雪像制作 仕上げ削り②																																																														
13週	版画によるカレンダー制作③ 印刷	28週	雪像制作 仕上げ削り③																																																														
14週	アート鑑賞	29週	雪像制作 表面仕上げ																																																														
15週	アート鑑賞	30週	雪像制作 完成																																																														
成績評価 方法・基準	作品70%、レポート等の提出物20%、受講態度等10%。																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	jhl5fthf																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>子どものおもちゃや実用品の、素材やデザインを意識して積極的に見るようにしてください。良いと思った物は記録して自身の制作に活かしてください。SNS等も活用してください。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>																																																																

授業科目	特別研究Ⅱ(健康)	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	田中 住幸	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 2804																																																												
授業概要	<p>領域「健康」のねらいとして、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。」の3点があげられているが、本授業では特にこれらを実現するための一つの保育方法としての運動遊びや園外保育に着目し、その意義や計画方法の理解を深め、実際の保育現場を想定した運動遊びや園外保育実習に取り組む中から、運動遊びや園外保育についての高い実践力を養うことを目指す。</p>																																																																
到達目標	<p>①園外保育の意義や計画方法について理解している。 ②公園などの地域資源を保育に活用することができる。 ③安全に園外保育を実施することができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス</td><td>16週</td><td>運動遊び指導実習③(下見)</td></tr> <tr><td>2週</td><td>バルシューレ体験①(基礎)</td><td>17週</td><td>運動遊び指導実習④(実践)</td></tr> <tr><td>3週</td><td>バルシューレ体験②(応用)</td><td>18週</td><td>運動遊び指導実習⑤(振り返り)</td></tr> <tr><td>4週</td><td>キンボール①(基礎)</td><td>19週</td><td>園外保育指導実習①(計画)</td></tr> <tr><td>5週</td><td>キンボール②(応用)</td><td>20週</td><td>園外保育指導実習②(準備)</td></tr> <tr><td>6週</td><td>カーリンコン①(基礎)</td><td>21週</td><td>園外保育指導実習③(下見)</td></tr> <tr><td>7週</td><td>カーリンコン②(応用)</td><td>22週</td><td>園外保育指導実習④(実践)</td></tr> <tr><td>8週</td><td>フロアボール①(基礎)</td><td>23週</td><td>園外保育指導実習⑤(振り返り)</td></tr> <tr><td>9週</td><td>フロアボール②(応用)</td><td>24週</td><td>動きを導き出す園庭環境①(解説)</td></tr> <tr><td>10週</td><td>サッカー①(基礎)</td><td>25週</td><td>動きを導き出す園庭環境②(見学)</td></tr> <tr><td>11週</td><td>サッカー②(応用)</td><td>26週</td><td>スケート①(基礎)</td></tr> <tr><td>12週</td><td>タグラグビー①(基礎)</td><td>27週</td><td>スケート②(応用)</td></tr> <tr><td>13週</td><td>タグラグビー②(応用)</td><td>28週</td><td>雪遊び(イグルーブくり)①(基礎)</td></tr> <tr><td>14週</td><td>運動遊び指導実習①(計画)</td><td>29週</td><td>雪遊び(イグルーブくり)②(応用)</td></tr> <tr><td>15週</td><td>運動遊び指導実習②(準備)</td><td>30週</td><td>まとめ</td></tr> </table>					1週	ガイダンス	16週	運動遊び指導実習③(下見)	2週	バルシューレ体験①(基礎)	17週	運動遊び指導実習④(実践)	3週	バルシューレ体験②(応用)	18週	運動遊び指導実習⑤(振り返り)	4週	キンボール①(基礎)	19週	園外保育指導実習①(計画)	5週	キンボール②(応用)	20週	園外保育指導実習②(準備)	6週	カーリンコン①(基礎)	21週	園外保育指導実習③(下見)	7週	カーリンコン②(応用)	22週	園外保育指導実習④(実践)	8週	フロアボール①(基礎)	23週	園外保育指導実習⑤(振り返り)	9週	フロアボール②(応用)	24週	動きを導き出す園庭環境①(解説)	10週	サッカー①(基礎)	25週	動きを導き出す園庭環境②(見学)	11週	サッカー②(応用)	26週	スケート①(基礎)	12週	タグラグビー①(基礎)	27週	スケート②(応用)	13週	タグラグビー②(応用)	28週	雪遊び(イグルーブくり)①(基礎)	14週	運動遊び指導実習①(計画)	29週	雪遊び(イグルーブくり)②(応用)	15週	運動遊び指導実習②(準備)	30週	まとめ
1週	ガイダンス	16週	運動遊び指導実習③(下見)																																																														
2週	バルシューレ体験①(基礎)	17週	運動遊び指導実習④(実践)																																																														
3週	バルシューレ体験②(応用)	18週	運動遊び指導実習⑤(振り返り)																																																														
4週	キンボール①(基礎)	19週	園外保育指導実習①(計画)																																																														
5週	キンボール②(応用)	20週	園外保育指導実習②(準備)																																																														
6週	カーリンコン①(基礎)	21週	園外保育指導実習③(下見)																																																														
7週	カーリンコン②(応用)	22週	園外保育指導実習④(実践)																																																														
8週	フロアボール①(基礎)	23週	園外保育指導実習⑤(振り返り)																																																														
9週	フロアボール②(応用)	24週	動きを導き出す園庭環境①(解説)																																																														
10週	サッカー①(基礎)	25週	動きを導き出す園庭環境②(見学)																																																														
11週	サッカー②(応用)	26週	スケート①(基礎)																																																														
12週	タグラグビー①(基礎)	27週	スケート②(応用)																																																														
13週	タグラグビー②(応用)	28週	雪遊び(イグルーブくり)①(基礎)																																																														
14週	運動遊び指導実習①(計画)	29週	雪遊び(イグルーブくり)②(応用)																																																														
15週	運動遊び指導実習②(準備)	30週	まとめ																																																														
成績評価 方法・基準	期末レポート60%、授業毎の課題20%、平常点(主体性、意欲・関心)20%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)																																																																
クラスコード	ybwbv4k																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>各回の授業で体験した遊びの概要や手順についてイラストなども含めながらノートに記録しておくこと。</p> <p style="text-align: right;">2時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>屋外での活動が多くなる。動きやすい服装で、暑さ、寒さ対策をしっかりと行うこと。また、各回の持ち物等の詳細については授業内で説明する。提出された課題・レポートについては、classroom内でフィードバックを行う。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワーク及びディスカッションの要素を含む授業です。</p>																																																																

授業科目	特別研究Ⅱ(自然)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	柘植 純一	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2803
授業概要	<p>「特別研究Ⅰ(自然)」で習得した身近な生物についての知識を基礎にして、子どもたちに自然と触れ合うことの楽しさを伝えるために実際に野外で自然に触れる体験をするとともに、四季を通して森林内で活動することにより、自然の美しさや生物の多様性に対する感性を磨く。また、自分たちで実際に野菜(大豆、小豆、人参等)の栽培を行い、収穫物を加工し味わう体験を通して、食べ物はすべて自然の恵みであることを自覚し、食べ物を大切に作る気持ちを新たにします。</p>				
到達目標	<p>①視覚以外の感覚も充分働かせて季節を感じることができる。 ②自然の中で過ごす時間を楽しむことができる。 ③野菜の栽培に必要な基本的事項について説明できる。 ④人間も自然によって生かされていることについて自分の実感を述べることができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。				
授業計画	<p>1～2週 春の森観察(野幌森林公園) 3～4週 農園実習1(大豆、小豆、トウモロコシ、水菜、小松菜、サニーレタス等の種蒔き) 5～6週 農園実習2(除草、補植) 7～8週 農園実習3(除草、補植、間引き、土寄せ、人参、カブの種蒔き) 9～10週 夏の森観察(野幌森林公園) 11～12週 農園実習4(除草、間引き、土寄せ、水菜、小松菜、アスパラ菜の収穫等) 13～14週 農園実習5(大豆、小豆の収穫) 15～16週 農園実習6(トウモロコシ、ダイコン、ニンジンの収穫) 17～18週 秋の森観察(野幌森林公園) 19～20週 大豆および小豆の鞘はずしと選別 21～22週 収穫した大豆で豆腐作り 23～24週 収穫した大豆で納豆作り、ポップコーン作り 25～26週 冬の自然観察(野幌森林公園) 27～28週 収穫した小豆で餡作り 29～30週 饅頭づくり</p>				
成績評価 方法・基準	レポート50%、平常点50%				
教科書 ソフト等	特別研究Ⅰで使用した『小学館の図鑑 NEO POCKET -ネオぼけっと- 昆虫』(小学館)、 『野鳥観察ハンディ図鑑 新山野の鳥』(日本野鳥の会)				
参考書等	なし。授業で指示します。				
クラスコード	ehtf3pv				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>野外観察後に気に入った自然物を必ず自分で調べる。毎回の授業での体験内容をレポートとして提出する。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>積極的に自然観察・農園での実習に積極的に取り組む意欲のある学生の履修を希望します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	特別研究Ⅱ(子育て支援・特別支援)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	今西 良輔、遠山 景広	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	
授業概要	<p>特別研究Ⅰで学んだ多様なニーズを抱える子どもと家庭、ソーシャルワークに対し、社会福祉専門職である保育士として必要な子どもへの支援を自ら考え、知識と技術を習得します。知識習得や見学だけではなく、自ら調べ、検討し、他学生と議論することを通して、共有や自分の考えを深化させる過程を重視しています。</p> <p>主にテーマとしては「子育て支援・特別支援」となりますが、あくまでもテーマとなります。グループを中心に情報収集、他者の視点を学び、相互理解を深め、最終的には子どもを取り巻く問題や環境について個人の考えを再検討します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実践からの多様な保育ニーズをつかむことができる。 ・知識や情報を読み解き、自身の考えを整理することができる。 ・得た情報や自身の考えを他者に伝え、他学生との意見交換により視野を広げることができる。 ・自身の考えを再検討することができる。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。				
授業計画	<p>自ら問題や課題について考え、他学生と共通するものの共有を行う。議論を通して、自分自身の考えを深める。グループ毎でテーマ設定し、各自情報を持ち寄りながら、ディスカッションを行い、フィールドワークを実施する。主な内容としては、保育・子どもの領域に関するものによる。</p> <p>1～10週 フィールドでの調査実施計画(グループ毎)調査方法・計画の準備、倫理的配慮の理解</p> <p>11～15週 フィールド調査</p> <p>16～20週 調査結果のまとめ</p> <p>21～24週 中間発表 他グループとのディスカッション</p> <p>25～28週 最終成果発表に向けたプレゼンテーション準備</p> <p>29～30週 最終成果発表会</p>				
成績評価 方法・基準	最終成果発表を踏まえた個人レポート40%、グループのプレゼンテーション30%、授業への参加30%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	xdwayvo				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業内で学修した社会的な視点で、子ども・子育てに関する情報に関心をもつよう心がけてください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	この科目は、アクティブラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。現時点での展開内容になります。受講人数やグループワークの進捗状況に応じて変更が起こる可能性もあります。				

授業科目	幼児と環境	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	柘植純一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	
授業概要	<p>保育者が領域「環境」に記載されている子どもにとっての身近な環境について、また身近な環境とのかかわり方について、保育者が実際に子どもを指導する上で必要となる専門的な事項について学習する。特に現代の子ども達が家庭等の日常生活では触れ合う機会の少ない自然に関する事象に重点を置いて、知識や技能を身につけるだけではなく、興味・関心をもち豊かな感性を磨くことを目指す。</p>				
到達目標	<p>① 幼児を取り巻く環境への興味・関心、探求心の発達について説明できる。 ② 幼児教育における環境教育、持続可能な発展のための教育(ESD)の意義について説明できる。 ③ 身近な植物や小動物について自然のものと自然でないものについて説明できる。 ④ 飼育・栽培の教材となる小動物・植物の生態、飼育・栽培方法について説明できる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション, 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」 2週 日常的な保育でかかわる身近な自然 3週 身近な小動物の飼育 4週 植物の栽培 5週 身近な環境における「自然のもの」と「自然ではないもの」 6週 幼児と環境第6回(大学周辺の「自然のもの」「自然ではないもの」) 7週 大学周辺の自然環境地図 8週 身近な自然物を使った遊び 9週 幼児教育における環境教育・ESD 10週 環境教育の視点で見た日常的な保育 11週 身近な自然と触れ合える環境, ビオトープ, バタフライガーデン 12週 日常的な保育の場における危険と対処 13週 大学周辺の身近な環境で見られる文字・標識 14週 物の性質を活かした遊びの工夫 15週 まとめと授業内試験</p>				
成績評価 方法・基準	試験50%、平常点30%、授業内での課題20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	aクラス fcfdh16 bクラス 2je7mli				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」を熟読してください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	幼児が日常的に触れ合う身近な環境について興味をもち科学的に探究する姿勢を大切にしてください。				

授業科目	幼児と健康	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	田中 住幸、早坂 聡子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1902
授業概要	<p>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の基盤となる知識を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。 2. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。 4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス、現代社会と保育内容「健康」(田中)</p> <p>2週 乳幼児期の発育・発達と健康(田中)</p> <p>3週 乳幼児期の生活習慣(田中)</p> <p>4週 乳幼児期の安全(田中)</p> <p>5週 乳幼児期の運動発達(田中)</p> <p>6週 領域「健康」の指導における保育者の役割(田中)</p> <p>7週 生活習慣に関わる指導①—解説—(田中)</p> <p>8週 生活習慣に関わる指導②—事例紹介—(田中)</p> <p>9週 安全教育・救急対応(田中)</p> <p>10週 食育に関わる指導(田中)</p> <p>11週 運動遊びに関わる指導(田中)</p> <p>12週 日常生活における身体活動(田中)※ゲストスピーカーによる講義</p> <p>13週 保健だよりの作成①(早坂)</p> <p>14週 保健だよりの作成②(早坂)</p> <p>15週 領域「健康」と小学校教育のつながり、まとめ(田中)</p>				
成績評価 方法・基準	期末レポート60%、授業毎の課題20%、平常点(主体性、意欲・関心)20%				
教科書 ソフト等	吉田 伊津美 他(著)、『保育内容 健康』、光生館、2018				
参考書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	aクラス/kynb7oh bクラス/hkfpudz				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日常的な生活習慣を通して「健康」への興味・関心・実践を心掛けること。授業で学んだことを整理して、ノートにまとめておくこと。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業内容に応じて、各自の意見を述べたり議論する場を設けるため、主体的に受講すること。提出された課題・レポートについては、classroom内でフィードバックを行う。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	幼児と言葉	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山田 千春	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1903
授業概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児期の言葉の発達過程について学び、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的知識を学びます。保育内容としての「ことば」の歴史を知ることから、現行の幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」について学びます。				
到達目標	①保育内容としての「言葉」の歴史を知り、人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。②言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践について基礎的な知識を身に付ける。③幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 ガイダンス 言葉のもつ意義と機能 2週 保育内容「言葉」の歴史① 戦前の保育内容 3週 保育内容「言葉」の歴史② 戦後の保育内容 4週 領域「言葉」のねらいと内容 ①乳幼児における社会的発達に関する視点 5週 領域「言葉」のねらいと内容 ②1歳以上3歳未満児保育における言葉 6週 領域「言葉」のねらいと内容 ③3歳以上児保育における言葉 7週 言葉に対する感覚を豊かにする① 言葉の楽しさや美しさに気づく実践 言葉遊び「なぞなぞ」「しりとり」 8週 言葉に対する感覚を豊かにする② 言葉の楽しさや美しさに気づく実践 「かるたあそび」「ことばあつめ」 9週 言葉を育て、想像する楽しさを広げる① 児童文化財とは何か・児童文化財の意義 10週 言葉を育て、想像する楽しさを広げる② 「おはなし(素話)」発表のためのお話を選んで練習する 11週 言葉を育て、想像する楽しさを広げる③「おはなし(素話)」グループ内での発表 12週 言葉を育て、想像する楽しさを広げる④「絵本」(言葉に特化したものを中心とする)「紙芝居」 13週 言葉を育て、想像する楽しさを広げる⑤「絵本」の読み聞かせが「紙芝居」の上演をする(グループ内での発表) 14週 小学校教育との接続、小学校教育指導要領の内容 15週 まとめ・レポート課題の設定(各自、学んだ中から課題を設定する・例題提示)と取り組み				
成績評価 方法・基準	レポート50%、毎回授業後に提出するリアクションペーパーの内容30%、各発表20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	『新保育内容シリーズ 新訂 子どもと言葉』(朝文書林)、『ことばと表現力を育む 児童文化』(朝文書林)『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)『保育所保育指針解説』(厚生労働省)『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省)				
クラスコード	bgvlwfn				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	日常的に「こどもと言葉」に関する絵本、テレビ番組等に注意するよう心がけましょう。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業では「おはなし」の実践や、「絵本」の読み聞かせなど、グループ内で発表をする内容があります。積極的に取り組むようにしましょう。				

授業科目	幼児と人間関係	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	星 信子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1904
授業概要	<p>人との関わり、すなわち人間関係は、子どもが生きていく上で欠くことができない重要なものである。子どもの発達はその多くが人との関わりの中で培われる。この講義では、幼児期の人との関わりとその発達に関する基本的な知識を身につけることを目的としている。授業の概要は次のとおりである。</p> <p>① 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的な課題について学ぶ。 ② 子どもの生活する様々な場(家庭・地域・園)での人との関わりやその発達について学ぶ。 ③ 自立心・規範意識など、人との関わりの中で育まれる発達の様々な側面について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>① 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的な課題の背景を理解している。 ② 子どもの生活する様々な場(家庭・地域・園)での人との関わりやその発達について自分なりに説明できる。 ③ 自立心・規範意識など、人との関わりの中で育まれる発達の様々な側面について自分なりに説明できる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション: 人間関係とは</p> <p>2週 現代社会における人との関わり</p> <p>3週 子どもの人間関係の発達(グループ討論)</p> <p>4週 子どもの人間関係の発達(発表)</p> <p>5週 家庭生活における人との関わり</p> <p>6週 家庭生活における人との関わりの実際(討論と発表)</p> <p>7週 地域社会における人との関わり</p> <p>8週 地域社会における人との関わりの実際(討論と発表)</p> <p>9週 園生活における人との関わり</p> <p>10週 園生活における人との関わりの実際(討論と発表)</p> <p>11週 園の行事と人間関係</p> <p>12週 自立心の発達と支援</p> <p>13週 道徳性・規範意識の発達と支援</p> <p>14週 人間関係の発達にかかわる今日的課題</p> <p>15週 まとめと試験</p>				
成績評価 方法・基準	筆記試験: 50% グループ討論と発表の内容: 40% 平常点10%				
教科書 ソフト等	岩立京子編『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』(萌文書林)				
参考書等	幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、保育所保育指針(厚生労働省)				
クラスコード	aクラス: npqbdjt bクラス: 45anukr				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	講義に関連する部分について教科書の事例を読み理解を深めるよう努めましょう。グループでの発表の準備をしっかりと行いましょう。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	グループでの活動や演習課題に主体的に取り組ましましょう。この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。				

授業科目	幼児と表現	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	加藤 雅子、浅沼 恵輔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	EC_MS 1905
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リトミックを体験する中で、保育に必要な音楽表現の基礎を学ぶ。 ・保育現場での音楽活動に必要な楽典の知識を身につける。 ・身近なものに目を向け、幼児造形の素材についての知識・技能を身につける。 ・音楽、美術、身体など、子どものための総合的な表現の基礎となる資質を学び、表現力を身に付ける。 ・共同制作を通して対話の大切さや他者の尊重について考える。 				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①音楽、造形の基本的な知識や技能を習得する。 ②身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 ③表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 ④協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現に繋げていくことができる。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 オリエンテーション 担当:加藤 2週 身近な素材について保育所保育指針解説及び幼稚園教育要領解説等から学ぶ 担当:加藤 3週 身近な素材を生活環境から考える 担当:加藤 4週 身近な素材を活用し制作する①素材からイメージを膨らませる 担当:加藤 5週 身近な素材を活用し制作する②試作 担当:加藤 6週 身近な素材を活用し制作する・完成 担当:加藤 7週 リトミック①リトミックの基礎とリトミック活動の鑑賞 担当:浅沼 8週 リトミック②リトミック活動の体験 担当:浅沼 9週 リズムでの表現① カスタネットと鈴を使用した表現を考える 担当:浅沼 10週 リズムでの表現② カップスを使用した表現を考える 担当:浅沼 11週 リズムでの表現③ ボディパーカッションでの表現を考える 担当:浅沼 12週 図形楽譜を書く 担当:浅沼 13週 てづくりオーケストラ① 説明・図形楽譜をつくる(グループワーク) 担当:加藤、浅沼 14週 てづくりオーケストラ② 図形楽譜をつくる(グループワーク) 担当:加藤、浅沼 15週 てづくりオーケストラ③ 発表 担当:加藤、浅沼				
成績評価 方法・基準	授業態度60%、発表20%、制作物10%、授業内レポート10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
クラスコード	beyrmng				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	てづくりオーケストラについては、都度提示します。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	てづくりオーケストラは、基本的にグループ作業です。制作時は必要に応じエプロン・ジャージ等で衣類の防汚対策をしてください。				

授業科目	保育内容(言葉)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	大澤 亜里	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1401
授業概要	乳幼児の言葉の発達を支えるために必要な知識を習得するとともに、言葉を通して子どもの経験や考えを理解しようとする態度、また子どもの言葉を豊かにするための実践的な技能を身につけます。授業では現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に示されている保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容について学びます。また乳幼児期の言葉の発達過程について学ぶと同時に、子どもの言葉を通して子どもが経験していることや思いを捉え、援助のあり方について考察します。さらに子どもの言葉を豊かにする児童文化財について学んだ上で、パネルシアターを作成します。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について理解した上で、指導上の留意点について説明できる。 ② 乳幼児期の言葉の発達過程を理解した上で、子どもの実態に応じた援助のあり方について考え、自分の意見を述べるができる。 ③ 子どもの言葉を豊かにする児童文化財の内、パネルシアターの特性を踏まえた上で、内容について考え、工夫し作成することができる。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 ガイダンス 言葉の機能 2週 保育内容の領域「言葉」 3週 乳幼児期の言葉の発達① 乳児期の言葉と保育者の援助 4週 乳幼児期の言葉の発達② 幼児期前期の言葉と保育者の援助 5週 乳幼児期の言葉の発達③ 幼児期後期の言葉と保育者の援助 6週 児童文化財と保育① うた、絵本、紙芝居の魅力と保育現場での活用 7週 児童文化財と保育② 劇、物語の魅力と保育現場での活用 8週 子どもの言葉を通して子どもを理解する① 観察記録の整理と考察 9週 子どもの言葉を通して子どもを理解する② グループディスカッション 10週 子どもの言葉を通して子どもを理解する③ 全体交流 11週 子どもの言葉を豊かにする保育① パネルシアターについて 12週 子どもの言葉を豊かにする保育② 計画の立案 13週 子どもの言葉を豊かにする保育③ パネルシアターの作成 14週 子どもの言葉を豊かにする保育④ 作成と発表の練習 15週 子どもの言葉を豊かにする保育⑤ 発表とまとめ				
成績評価 方法・基準	期末レポート30%、毎回授業後に提出するリアクションペーパーの内容40%、子どもの言葉と理解のワークシート10%、パネルシアター作成への取り組み20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で指示します。				
参考書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説書(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	i24msuo				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業後にはレジュメやノートの見直しをするとともに、配付資料や参考文献をよく読み、理解を深めてください。 1時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業では考えたり議論したりする機会があります。積極的に取り組んでください。また毎回の授業の最初にリアクションペーパーのフィードバックやリアクションペーパーの内容に関するディスカッションを行いますので自分の考えや意見等を書いてください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。				

授業科目	保育内容(健康)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
		単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2402
担当教員	田中 住幸・田口 夏美				

授業概要	現代の子どもたちは活発に体を動かす機会が減り、体力・運動能力や人と関わる力などが育ちにくくなってきていると指摘されている。本科目では、子どもの身体機能の発達について今日的な問題も交えながら理解を深め、子どもが健やかに成長するための保育者の役割や実践的な方法を確認する。同時に安全に保育を展開していく上で必要不可欠となる応急手当の知識・技術の習得も目指す。
------	---

到達目標	1.体力・運動能力の低下など健康に関わる今日的な問題について関心を持ち、各自が課題意識を持つことができる。 2.運動遊びを幼児保育の場面で実践するイメージ、心構えを作り上げる。 3.安全指導を行うための基礎的な技術・知識を身につける。
------	---

学科のディプロマ・ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。
---------------	---

授業計画	1週 オリエンテーション(田中・田口) 2週 体を使った遊び(田中・田口) 3週 ボールを使った遊び(田中・田口) 4週 マットや跳び箱を使った遊び(田中・田口) 5週 鉄棒を使った遊び(田中・田口) 6週 屋外での遊び(田中・田口) 7週 運動遊び指導①一計画一(田中・田口) 8週 運動遊び指導②一実践一(田中・田口) 9週 運動遊び指導③一振り返り一(田中・田口) 10週 応急手当の実際①一小児応急手当の基本一(田中) 11週 応急手当の実際②一心肺蘇生法I一(田中) 12週 応急手当の実際③一心肺蘇生法II一(田中) 13週 応急手当の実際④一怪我の応急手当一(田中) 14週 応急手当の実際⑤一突発的な病気の警告兆候一(田中) 15週 まとめ(田中・田口)
------	---

成績評価方法・基準	期末レポート60%、授業毎の課題レポート20%、平常点(主体性、意欲・関心)20%
-----------	---

教科書ソフト等	メディックファーストエイド『チャイルドケアプラス受講生ハンドブック』(授業内で販売/2,000円)
---------	---

参考書等	幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)
------	--

クラスコード	aクラス/3m7wu2r bクラス/y34v3t7
--------	---------------------------

授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	
--------------------------	--

予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	各回の授業で体験した遊びの概要や手順についてイラストなども含めながらノートに記録しておくこと。 1時間程度/週
-----------------------	--

受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	運動を行う際は、屋内ではシャージ・運動靴、屋外では季節に合わせて、帽子、防寒着を準備すること。詳細については、授業内で指示する。提出された課題・レポートについては、classroom内でフィードバックを行う。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワーク及びディスカッションの要素を含む授業です。
------------------------	--

授業科目	保育内容(人間関係)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	星 信子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2403
授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領に示された保育内容の領域「人間関係」のねらい及び内容を理解した上で、保育内容(人間関係)の指導法を学ぶことが主な内容である。乳幼児期の人間関係の発達特性、現代社会の状況を踏まえ、人とのかかわる力を育てる援助・指導方法を具体的に学ぶとともに、保育の中でのさまざまな人との関わりについて理解を深める。また、模擬保育の計画と実践、振り返りを通し、保育を構想し改善する力を身につける。				
到達目標	① 保育内容の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ② 子どもの人間関係の発達と保育者の援助について理解し、自分なりの考えを持つ。 ③ 模擬保育の取り組みを通して、保育の計画を立案・実践し、省察する力を身につける。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	オリエンテーション: 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構成 1週 2週 領域「人間関係」のねらいと内容 3週 子どもの人間関係の発達と保育者の援助: グループ討論 4週 子どもの人間関係の発達と保育者の援助: 発表 5週 遊びの中の人とのかかわり 6週 人とのかかわりを育てる保育者の役割 7週 保育者との出会いとかかわりの実際 8週 個と集団の育ち 9週 子どもを取り巻く人間関係 10週 中間のまとめと試験 11週 援助の実際: ゲームを取り入れた保育計画の立案 12週 援助の実際: 教材の準備・模擬保育の練習 13週 援助の実際: 模擬保育 14週 援助の実際: 模擬保育 15週 援助の実際: 模擬保育の省察 保育計画の修正とまとめ				
成績評価 方法・基準	筆記試験(到達目標の①と②)50% グループ討論と保育計画の発表内容(到達目標の①と③)40% 平常点(到達目標の③)10%				
教科書 ソフト等	岩立京子編『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』(萌文書林)				
参考書等	幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	aクラス:46g3b5q bクラス:bepwe27				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	講義に関連する部分について教科書の事例を読み理解を深めるよう努めましょう。 グループでの発表の準備をしっかりと行いましょう。 1時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	グループでの活動や演習課題に主体的に取り組ましましょう。 中間の試験のフィードバックは授業内で行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。				

授業科目	保育内容(環境)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	柘植 純一	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2401
授業概要	<p>領域「環境」の対象となっている身近な環境について、幼児の発達と環境認識について学習する。保育者が保育現場で幼児を指導する際には保育者が「教える」という姿勢ではなく、保育者自身が幼児とともに「感じ」、「興奮」、「発見する」喜びを共有することの重要性を理解する。特に身近な自然との触れ合いを指導する際に求められる保育者の姿勢について深く考える。子どもの目線に立ち、子どもの成長を見通した保育環境整備の重要性について理解する。日常の保育で接する身近な自然物に気づく感性を磨く努力をする。</p>				
到達目標	<p>① 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる。 ② 授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる。 ③ 子どもの目線に立った保育環境の整備について説明できる。 ④ 身近な自然との触れ合いを指導する上での留意点について説明できる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス、現代の幼児の特徴 2週 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」 3週 幼児にとって自然とは何か？ 4週 「環境」指導に求められる保育者の姿勢 5週 乳幼児の発達と環境 6週 身近な小動物との触れ合いの指導 7週 植物との触れ合いの指導法 8週 「生物との触れ合い」の実践現場での問題点 9週 数量・図形・文字の指導 10週 物とのかかわりの指導 11週 情報・施設とのかかわりの指導 12週 幼稚園・保育所における環境整備 13週 指導計画 14週 身近な自然と豊かに触れ合うための指導計画の立案 15週 授業内試験とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験50%、平常点30%、授業内での課題20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で指示します。				
参考書等	幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	aクラス 5zrtid3、bクラス 76derqo				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」を熟読しておく。授業内で毎回紹介する身近な自然物(主に植物)について登下校時などに自分で見つけて観察する。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>子どもの視点での保育について常に考える。授業の開始時に自然に対する感性、観察力を働かせる課題を出すので、感じたこと、気づいたことを必ずリアクションペーパーに記入する。</p>				

授業科目	保育内容(表現Ⅰ「音楽」)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2703
授業概要	<p>① 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域『表現』を踏まえ、保育者として必要な基礎的な音楽理論や知識及び技能を学ぶ。</p> <p>② 子どもたちの豊かな感性を伸ばし、創造性を豊かにするような声かけ、実践的指導法を探求する。</p> <p>③ 他領域と関連させながら、豊かな表現活動が展開できるよう幅広い視野を養い保育現場での実践につなげる。</p>				
到達目標	<p>① 領域『表現』の構成要素を理解し、指導案作成と模擬授業を通して実践力を身につけることができる。</p> <p>② 様々な表現活動を通して子どもの表現力を伸ばすための技術や教材を作成する力を養うことができる。</p> <p>③ グループワークにより子どもの発達にふさわしい表現活動の在り方を考察できる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション、保育内容領域「表現」が目指すもの</p> <p>2週 歌唱表現活動(生活の歌)、領域「表現」の位置付け、構成要素</p> <p>3週 歌唱表現活動(春の歌)、乳幼児期の身体的発達と音楽表現</p> <p>4週 歌唱表現活動(行事の歌)、保育者に求められる実践的指導法</p> <p>5週 歌唱表現活動(夏の歌)、乳幼児の言語的表現活動(わらべうたについて)</p> <p>6週 手遊びの発表(出席番号1～10番)、幼児の音楽表現活動(環境と音・音楽)</p> <p>7週 手遊びの発表(出席番号11～20番)、幼児の音楽表現活動(身近なものをういたリズム遊び・手作り楽器制作)</p> <p>8週 手遊びの発表(出席番号21～30番)、歌唱表現活動(秋の歌)、幼児の音楽表現活動(ボディパーカッション)</p> <p>9週 手遊びの発表(出席番号31番～40番)、歌唱表現活動(冬の歌)、幼児の音楽表現活動(うた絵本)</p> <p>10週 手遊びの発表(出席番号41番～最後)、音楽表現の展開について(指導案立案)</p> <p>11週 小学校音楽への連携、音楽表現の展開について(指導案作成)</p> <p>12週 鑑賞、模擬授業発表・教師の役割、援助方法</p> <p>13週 コレオグラフィ(表現活動)立案、模擬授業発表・授業検討</p> <p>14週 コレオグラフィ(表現活動)実践、模擬授業発表・意見交換</p> <p>15週 コレオグラフィ発表、これまでの学びと振り返り、まとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内の発表40%、提出物40%、日常の取り組み状況20%				
教科書 ソフト等	『幼稚園教育要領』(文部科学省)、『保育所保育指針』(厚生労働省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、『こどものうた200』(小林美実編 チャイルド本社)、『最もわかりやすい楽典入門』(坪野春枝著)				
参考書等	保育者・小学校教諭をめざす人のためのピアノ曲&弾き歌い童謡 ～豊かな音楽表現のために～ 圭文社				
クラスコード	aクラス keaqnz bクラス g3r7c7q				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	次回までの課題(プリントや手遊び等)が提示されるので、それらを準備(練習)してから授業に参加してください。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業前に配布資料をよく読んでおいてください。 なお、授業内に実施したプリントのフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。				

授業科目	保育内容(表現Ⅱ「美術」)	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	加藤 雅子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1701
授業概要	<p>① 領域「表現」のねらいとなっている幼児の豊かな感性・表現力・創造性を高める事を目的とした簡単な工作や絵画制作などの次のことを学ぶ。</p> <p>② 幼児の造形表現における材料や技法について実践的に学ぶ。</p> <p>③ 「自己表現」「創る楽しさ」「遊びの要素」「見せる対象の意識」など造形表現に含まれる要素について考える。</p> <p>④ 子どもの年齢・性別や個性によって感覚が異なる事を理解し、子どもの豊かな造形表現のための保育者の役割を考える。</p>				
到達目標	<p>① 何かを表現し、新しい物を創造することの価値を理解し、自ら楽しめるようになる。</p> <p>② 様々な造形的表現の知識・技術を身につけ、美的な感性を高める。</p> <p>③ 保育におけるこどもの造形活動の意味を理解する。</p> <p>④ こどもの年齢に応じた造形指導、およびそのための教材研究・指導立案ができるようになる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解: 幼児教育・保育に関わる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション(授業のねらいと内容、道具の準備、受講の留意点)、領域「表現」のねらいと内容</p> <p>2週 幼児の造形的表現活動の特性と保育者の役割</p> <p>3週 幼児を取り巻く造形的要素への着目と分類、絵本やその他メディア・おもちゃなど</p> <p>4週 幼児に取り組みさせる造形① 紙を使ったごく簡単な物</p> <p>5週 幼児に取り組みさせる造形② 着色・描画を伴った物</p> <p>6週 幼児に取り組みさせる造形③ 紙にその他の身近な材料を組み合わせたもの</p> <p>7週 幼児に取り組みさせる造形④ 紙以外の身近な材料を組み合わせたもの</p> <p>8週 幼児と保育者が共に取り組む造形① 仕掛けを伴った紙の工作</p> <p>9週 幼児と保育者が共に取り組む造形② 下準備を行い子どもが楽しむもの 紙が中心</p> <p>10週 幼児と保育者が共に取り組む造形③ 下準備を行い子どもが楽しむもの 科学的な課題</p> <p>11週 2次的な表現遊びをする造形① 仕掛けのある人形</p> <p>12週 2次的な表現遊びをする造形② 表現「美術」の指導計画立案</p> <p>13週 保育者が幼児に見せて楽しませる造形、仕掛け紙芝居</p> <p>14週 保育者・幼児が共に相手に見せて楽しませる造形、お面の制作</p> <p>15週 振り返りレポート、取り組んだ課題と反省、他学年造形作品鑑賞と感想</p>				
成績評価 方法・基準	授業毎に提出する作品の内容・提出状況90%、受講態度等10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で指示します。				
参考書等	『幼稚園教育要領』(文部科学省)、『保育所保育指針』(厚生労働省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	6d4xyhf				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>保育現場での観察や実習の際に、子どもの制作している物に目を向けて、授業で学んだ材料や制作方法・課題のねらいなどを整理し、自身の保育に生かせるように復習をしてください。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	初回到説明する文房具類を準備してください。				

授業科目	幼児教育の方法と技術	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	森川 由衣	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2607
授業概要	教育課程及び指導法に関する科目の教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)科目である。内容の中心に附属幼稚園におけるグループによる実習(2回)をおき、グループ単位(5名～6名)で指導実習の計画をたて、教材研究をすすめ、実習し、振り返りを行う。実習の際に観察生によるビデオ機器操作を組み込み、反省と幼児の活動評価時に活用し指導法の発見、保育観・子ども観を形成していくことをねらいとしている。				
到達目標	①保育は環境を通して行うものであることを理解する。②指導実習体験を通して、子どもを受容するとはどういうことかを実際に子どもとの関わりの中から気づけるようになる。子どもの意欲を引き出す表情や言葉かけを身につける。③子どもが主体的に活動できることの重要性を認識し子どもの気持ちを汲み取り計画実践する。④グループで行う実習から保育における保育者間のチームワークの重要性を理解する。⑤指導実習体験を通して「保育とは」「保育者とは」のイメージ形成・自分なりの課題の発見につなげる。⑥保育の反省と幼児の活動評価の重要性を体験的に理解する。				
学科のディプロマポリシー	3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	1週 ガイダンス 授業内容、目的、計画 2週 教育方法の理論と実践 指導実習に向けて 3週 教育方法の理論と実践 指導実習に向けて 4週 指導実習実践1の計画案作成と環境構成の検討 5週 指導実習実践1の計画案作成と環境構成の検討 6週 指導実習実践1の計画案に基づく模擬実習からの教育方法の検討 7週 指導実習実践1 教育方法の検討・教育の記録 8週 指導実習実践1の反省と幼児の活動評価 9週 指導実習実践2の計画案作成と環境構成の検討 10週 指導実習実践2の計画案作成と環境構成の検討 11週 指導実習実践2の計画案に基づく模擬実習からの教育方法の検討 12週 指導実習実践2 教育方法の検討・教育の記録 13週 指導実習実践2の反省と幼児の活動評価 14週 指導実習1,2を踏まえての教育方法・環境構成の検討及び反省と幼児の活動評価 15週 指導実習1,2を踏まえての教育方法・環境構成の検討及び反省と幼児の活動評価				
成績評価方法・基準	計画・実践・振り返りの状況60%、レポート40%				
教科書ソフト等	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省)、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
参考書等	なし。授業内で指示します。担当者作成の日案事例集等を配付します。				
クラスコード	zfji2h				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、幼稚園教諭の経験を有する教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	事前に提示される実習内容を個人・グループでイメージしておいて下さい。実習後にレポートを提出して下さい。個人実習では各自で実習のねらいを考え、実習後は日誌を提出して下さい。 1時間から2時間程度/週				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	実習するグループと観察するグループに分かれ、保育計画、保育の実際、実習後の振り返りで成り立っている。個人実習は附属幼稚園の各クラスに一人がローテーションで入り午前中実習する。				

授業科目	子どもの健康と安全	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	山崎 寛子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2405
授業概要	<p>子どもの健やかな成長・発達を理解し、心身ともに健康な子どもを養育するための基礎的な知識・技術・態度を学び修得(演習)する。小児の健康状態の観察方法や、小児の成長発達の指標と評価、発達過程に応じた関わり方、病児に対する対応、養育環境における安全性の確保、救急処置の方法などを学修する。一つの命の誕生から、幼児期までの劇的な成長・発達をする子どもと環境に関心を持ち、積極的な姿勢で学修してほしい。</p>				
到達目標	<p>①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する ②保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する ③子どもの体調不良に対する適切な対応について具体的に理解する ④保育における感染症対策について具体的に理解する ⑤保育における保健的対応の基本的な考えを踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する ⑥子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 子どもの健康と保育の環境 (教科書第1章子どもの健康と安全) 2週 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 3週 保育における健康及び安全の管理① 衛生管理 (教科書第2章) 4週 保育における健康及び安全の管理② 事故防止及び安全対策 (教科書第2章) 5週 保育における健康及び安全の管理③ 危機管理・災害への備え (教科書第2章) 6週 体調不良や障害が発生した場合の対応 (第3章 ①) 7週 応急処置、救急処置及び救急蘇生法 (第3章 ② 心肺蘇生の実習についてはコロナ感染の状況により) 8週 感染症の予防と感染症発生時と罹患後の対応 (第4章 ①感染症の集団発生の予防 ②感染症発生時と罹患後の対応) 9週 保育における保健的対応① 基本的な考え方(教科書 第5章①) ②3歳未満児への対応に (教科書 第5章②) 10週 沐浴実習 11週 沐浴実習 12週 保育における保健的対応③ 個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応 (教科書第5章③④) 13週 健康及び安全の管理の実施体制① 保育における保健活動の計画及び評価 14週 健康及び安全の管理の実施体制② 職員間の連携・協働と関連専門機関、地域の関係機関、自治体との連携 15週 まとめと習得度確認テスト</p>				
成績評価 方法・基準	受講確認課題の提出60%、習得度確認テスト40%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	子どもの健康と安全演習ノート				
クラスコード	cfhv6lr				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、看護師としてNICU・小児科等の経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>配布資料に目を通し、復習と関心を持った箇所を自分で深掘りし学習に取り組んでください。事前に予習が必要な場合、講義内で伝達します。終了後受講確認課題の提出で出席(期限後の提出は減点扱い)とします。確認課題は講義に関連したトピックスなど資料等についてレポートの提出です。質問には個別にclassroomメールで対応します。</p> <p style="text-align: right;">1～2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>感染症等の流行状況を勘案し、基本的に対面講義ですが、特段の理由によりリモートが希望の場合は対応します。必ず事前に連絡してください。教科書に沿って進めますが、クや身体活動も(You tubeなどを利用)取り入れていきます。保育者として子どもの家族の健康面も管理や支援が必要になります。あなたの知識が誰かの命を救い、人生を変え、もしれないという意識をもって受講してください</p>				

授業科目	子育て支援	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	遠山 景広	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2502
授業概要	<p>社会の変化に伴い、家族や地域をはじめとする子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化している。保育現場では、子どもの保育と同時に、保護者支援や地域の子育て家庭への支援が求められている。本科目では、保育の専門性を活かした保護者に対する相談・助言・情報提供、行動見本の提示等の支援の習得にむけて、多様な相談事例を通して、実践的に学んでいく。</p>				
到達目標	<p>① 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ② 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション、子育て支援の意義と目的</p> <p>2週 子どもの権利と子育て支援</p> <p>3週 保育の専門性と子育て支援</p> <p>4週 子育て支援の展開過程</p> <p>5週 子育て支援における計画・記録・評価</p> <p>6週 職員間の連携と協働</p> <p>7週 多様な社会資源とその活用</p> <p>8週 支援における主体性の涵養</p> <p>9週 保育所の特性を生かした保護者への支援</p> <p>10週 地域の子育て家庭に対する支援</p> <p>11週 個別支援の必要が大きい家庭への支援</p> <p>12週 課題を抱える保護者への支援</p> <p>13週 諸外国の子育て支援</p> <p>14週 多様な子育て家庭への支援</p> <p>15週 まとめ、授業内試験</p>				
成績評価 方法・基準	授業内試験40%、授業に臨む姿勢(グループ討議、発表など)30%、ワークシート30%				
教科書 ソフト等	小原敏郎・橋本好市・三浦主博『演習・保育と子育て支援』みらい,2019				
参考書等					
クラスコード	y7rdktu				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、自分の考えや根拠をまとめておきましょう。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業中にコメントや課題などへのフィードバックを行います。				

授業科目	保育・教職実践演習(幼)	配当年次	2年	必修選択	選択	
		開講期	後期	講義形態	演習	
担当教員	大澤 亜里、柘植 純一、星 信子、今西 良輔、 田中 住幸、松井 亜樹、加藤 雅子、森川 由衣	単位数	2	授業回数	30	
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2601	
授業概要	本授業は教職・保育士職課程の総仕上げの演習である。これまでの学習内容と教育・保育実習の体験を踏まえて、各学生が保育・幼児保育者として身につけておくべき責任感・使命感・社会性・保育者像を形成し、子ども理解・保育内容(5領域)の指導方法を習得することが目的である。各領域の専門教員がロールプレイや討論を取り入れ、オムニバス形態で進める。					
到達目標	① 保育職の意義や保育者の役割、職務内容について理解し、説明することができる。 ② 実践からの子ども理解の方法について正しい知識を身につけている。 ③ 保育内容等の指導力を身につけている。 ④ 保育者として必要な社会性・対人関係能力を身につけている。					
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。					
授業計画	1週	オリエンテーション				
	2週 ～9週	保育者の役割、子ども理解についてのグループ討論と4つのロールプレイ 4つのグループ(①から④)に分かれて各分野の授業(A～D)に参加する。 A 子育て支援〔大澤〕 B 乳児の保育〔星〕 C 特別支援の要する子どもの保育〔今西〕 D 幼児の保育〔森川〕 毎週12人ローテーションで附属幼稚園で実習し、実習翌週はグループ討論する。	①	②	③	④
	10週 ～15週	保育内容の指導法についてのグループ討論と4つのロールプレイ 4つのグループ(①～④)に分かれて各領域の授業(E～H)に参加する。 E 表現<美術>〔加藤〕 F 自然・環境〔柘植〕 G 表現<音楽>〔松井〕 H 健康・運動〔田中〕	①	②	③	④
成績評価 方法・基準	各回のグループ討論とロールプレイへの参加・附属幼稚園での実習への参加50%、各回の課題レポート・実習の省察50%					
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。					
参考書等	なし。授業内で指示します。					
クラスコード	5vyunp6					
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無						
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	2年次前期終了までの実習や授業の成果を踏まえ、自身の補強すべき点を考察してください。授業内で配付する履修カルテにもその内容を記載してください。 1時間から2時間程度/週					
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	これまでの学習および実習を踏まえた上で行う総まとめの授業です。目前にせまった就職に向けて、保育者に必要な資質・能力・態度等を身につける上でも大事な授業ですので、各自課題を明確に持って積極的に臨んでください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。					

授業科目	保育実習指導 I	配当年次	1年	必修選択	選択																									
		開講期	通年	講義形態	演習																									
担当教員	今西 良輔、早坂 聡子	単位数	2	授業回数	30																									
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1601																									
授業概要	実習の意義・目的・心構えなどを具体的に知らせ保育所や認定子ども園、社会福祉施設などにおける実習のあり方などについて学ぶ。講義で学んできた理論を実践の場で検証し自己の課題を確認する。																													
到達目標	① 保育実習の意義・目的を理解して説明できる。 ② 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し説明できる。 ④ 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し説明できる。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。																													
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 協調性: 社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。																													
授業計画	1週 保育実習実習指導と保育実習の流れと意義 [今西]	16週 事前訪問(オリエンテーション)ガイダンス [早坂]	2週 保育所実習の意義、目的、心構え [早坂]	17週 部分実習指導案の立案(導入・展開・まとめ) [早坂]	3週 実習施設への理解(保育所・認定子ども園) [早坂]	18週 実習の具体的な進め方(0・1・2歳児の指導計画の立案) [早坂]	4週 保育所実習の一日の流れを理解する [早坂]	19週 実習の具体的な進め方(3・4・5歳児・異年齢クラスの指導計画の立案) [早坂]	5週 子どもの権利条約、個人情報保護を理解する [早坂]	20週 実習へ向けた最終確認、心得、お礼状の作成 [早坂]	6週 発達過程の理解、生活と遊びの援助(乳児) [早坂]	21週 保育実習の振り返り、課題の明確化 [早坂]	7週 発達過程の理解、生活と遊びの援助(幼児) [早坂]	22週 社会福祉実習の意義と目的 [今西]	8週 保育者の倫理、専門性への理解 [早坂]	23週 施設理解(社会的養護系、障害系)と実習前後の流れ [今西]	9週 実習課題の設定 [早坂]	24週 自己理解・自己覚知について [今西]	10週 保育日誌の書き方(課題設定と考察) [早坂]	25週 他者理解・バウンダリーの理解 [今西]	11週 0・1・2歳児の実習における観察と記録 [早坂]	26週 コミュニケーション技法について [今西]	12週 3・4・5歳児の実習における観察と記録 [早坂]	27週 社会福祉施設実習日誌の書き方 [今西]	13週 実習に活かす教材や活用方法の研究① [早坂]	28週 事前学習資料の作成、配属先施設の理解 [今西]	14週 実習に活かす教材や活用方法の研究② [早坂]	29週 事例を通じたグループ学習(児童養護・障害) [今西]	15週 実習に活かす教材や活用方法の研究・発表 [早坂]	30週 事前学習の成果発表・実習前のまとめ [今西]
成績評価 方法・基準	授業内課題50%、指導計画立案・教材研究30%、授業参加・平常点20%																													
教科書 ソフト等	久富陽子(2018)『学びつづける保育者を目指す実習の本 保育所 施設 幼稚園』萌文書林																													
参考書等	中坪史典・山下文一ら(2021)「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」ミネルヴァ書房																													
クラスコード	4jsk5pn																													
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員																													
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	実習にあたり心構えなどを学ぶことで、自ら準備状況を確認し、実習を学びの深い有意義なものとするよう、自覚を持ち臨んでください。配布資料をよく読み、理解を深めてください。 <div style="text-align: right;">1時間程度/週</div>																													
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	すべてが講義形式ではなく、実習日誌作成や指導計画立案・教材研究などの課題を示します。事前の学習準備を行ってまいります。又、課題は、授業内でフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。																													

授業科目	保育実習指導Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	早坂 聡子	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2602
授業概要	保育実習のあり方と保育実践の資質を向上させることを目的として、1年次の実習体験等から自らの理解力と実践力を振り返り、2年次の実習目的を明確に設定できるようになる。また、具体的な保育全般の知識や技術を高め実習に備えられるようになる。				
到達目標	① 保育所や認定こども園の役割や機能について具体的な実践を通して理解し説明することができる。 ② 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深め説明することができる。 ③ 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解し説明することができる。 ④ 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み理解し説明することができる。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的に実践に結びつけて理解し説明することができる。 ⑥ 自己の課題を明確化する。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	1週 ガイダンス 保育実習指導Ⅱの意義を理解する 保育実習Ⅰの振り返りと自己評価 2週 実習における自己の課題の設定 3週 保育者の社会的責任と職業倫理 4週 保育所保育における養護の理念 保育所保育における幼児教育の理念 5週 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・考察・評価・改善(PDCAサイクル)の理解 6週 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携(子育て支援) 7週 実習における観察と関わりの視点及び責任実習(一日)① 0歳児から2歳児 8週 実習における観察と関わりの視点及び責任実習(一日)② 3歳児から5歳児・異年齢クラス 9週 部分実習指導計画の立案 10週 責任実習指導計画の立案 11週 責任実習指導計画における教材の研究① 12週 責任実習指導計画における教材の研究② 13週 責任実習指導計画における教材の活用方法の研究 14週 授業内試験、課題のフィードバック 15週 まとめ(実習に向けた心構えと実習課題の確認、報告書、お礼状)				
成績評価 方法・基準	授業内試験40%、講義内提出物(小レポート、指導計画案)40%、平常点(参加態度、意欲、発表)20%				
教科書 ソフト等	横山洋子・ほいくる(監)『保育所&幼稚園 実習の記録と指導案まるごとBOOK』KADOKAWA (2021)				
参考書等	保育所保育指針解説、保育所保育指針ハンドブック、その他必要に応じて授業内で提示します				
クラスコード	aクラス 2bwy6cz bクラス auf7jx2				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、実務の経験を有する教員が実践的指導を行います。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	実習にあたり自ら準備状況を確認し、実習を学びの深い有意義なものとするよう、自覚を持ち臨んでください。また、配付資料をよく読み、理解を深めてください。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	すべてが講義形式ではなく指導計画立案と実践、教材研究などの課題を示します。 事前の学習準備を行ってまいります。また、課題は授業内でフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業で				

授業科目	保育実習指導Ⅲ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	今西 良輔	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2603
授業概要	<p>「保育実習Ⅲ」では、施設養護に携わる保育士の職務内容、役割に関するより深い理解と実践が求められます。この授業では、「保育実習ⅠB」での実習内容、各自の実習における総括から、「保育実習Ⅲ」に対する課題や認識を明確にすることを目的とします。まず1年生の時の「保育実習ⅠB」における実践の振り返りを行い、次回の実習に向けての課題を見つける作業を行います。そして、次の実習施設の概要、施設における保育実践の事例紹介等の講義を通して、各々の実習課題を達成するための方法について検討を行います。実習課題を達成するための実習計画書を作成し、実習の目的と方法を明確にします。</p>				
到達目標	<p>① 「保育実習ⅠB」で示された自身の課題を明らかにし、保育実習Ⅲに向けての実習課題を明確にする。 ② 自己の実習課題に基づいた実習計画書を作成する。 ③ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、施設養護における保育士としての自己の課題や認識を明確にする。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	<p>1週 「保育実習ⅠB」で示された自己の課題の明確化 2週 「保育実習Ⅲ」における実習課題の設定① 実習施設について知る 3週 「保育実習Ⅲ」における実習課題の設定② 実習施設に応じた課題設定 4週 施設における保育実践について事例から学ぶ① 5週 施設での観察学習① 6週 事例および施設見学学習を通して自己課題の明確化と検討 7週 施設における保育士の専門性と職業倫理の理解 8週 施設における保育実践について事例から学ぶ② 9週 施設での観察学習② 10週 施設の専門職と役割についてグループワーク 11週 実習計画書作成に向けての必要事項の整理 12週 実習計画書の作成① 施設の支援計画との整合性の理解 13週 実習計画書の作成② 必要な観察法及び記録法の学習 14週 実習計画書の作成③ 実践の自己評価と日々の課題設定の方法 15週 実習計画書の発表及び修正</p>				
成績評価 方法・基準	実習計画書等の作成40%、観察学習によるレポート30%、実習後の実習計画書の振り返りレポート30%				
教科書 ソフト等	和田上貴昭・那須信樹・原 孝成(2020)『Let's have a dialogue! ワークシートで学ぶ施設実習』同文書院				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	ivazvn7				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業後には、復習を行い、専門用語などの整理を行うこと。また、本実習を通して学びたい具体的な課題を作るようにしてください。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>実習へ向かうための事前学習と作業になります。自発的に行うことが求められます。実習へ向かう準備となる授業のため、段階的に進むことを留意して参加してください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワークの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育実習 I A	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	大澤 亜里、柘植 純一、加藤 雅子	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1602
授業概要	<p>① 認可保育所で、10日間の実習を行う。 ② 既習の保育関連科目での学びを生かして、保育現場での観察・参加実習を行う。 ③ 毎日の実習に当たっては担当保育士から指導を受け、事前準備する。 ④ 実習内容は実習日誌に整理し、担当保育士の指導を受け、自己評価を行う。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 実習生としてふさわしい態度を身につける。 ② 子どもの保育及び保護者への支援を中心に保育所の役割や機能を具体的かつ総合的に理解する。 ③ 子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めると同時に、保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 ④ 毎日の実習内容について記録及び自己評価を行い、その意義について理解する。 ⑤ 今後の学習に向けて具体的な課題を持つ。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 協調性: 社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	<p>1.保育実習の心得</p> <p>2.実習園との事前オリエンテーション(個別指導)</p> <p>3.実習内容</p> <p>1)見学・観察・参加実習</p> <p>① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。</p> <p>② 実習園の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。</p> <p>③ 担当保育士・職員の指導を受けながら、参加実習を行う。</p> <p>④ その他必要な見学・観察・参加活動を行い、保育士の業務内容等を知る。</p> <p>2)実習記録</p> <p>実習内容を日誌として記録する。</p> <p>3)専任教員による巡回指導を受ける</p> <p>4.事後指導(実習報告書の作成及び課題の整理、実習報告会への参加)</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書・報告会への参加(平常点)25%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	beyddtd				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>「保育実習指導 I」の内容をふまえてしっかりと事前の準備を行いましょう。終了後は日誌等の記録を見なおしながら報告書を作成し、次の実習に向けての課題を確認しましょう。</p> <p style="text-align: right;">実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業の中心は学外での実習となります。大学では、実習の事前準備と実習を終えての事後指導を行います。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育実習 I B	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	今西 良輔 遠山 影広	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1603
授業概要	<p>①児童福祉施設や障害児(者)施設等で10日間の実習を行う。 ②既習の保育・関連科目での学びを生かして、保育現場での観察・参加実習を行う。 ③毎日の実習に当たっては担当保育士から指導を受け、事前準備する。 ④実習内容は実習日誌に整理し、担当保育士の指導を受け、自己評価を行う。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>①実習生としてふさわしい態度を身につける。 ②子どもの保育及び保護者への支援を中心に各施設の役割や機能を具体的かつ総合的に理解する。 ③子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めると同時に、保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 ④毎日の実習内容について記録および自己評価を行い、その意義について理解する。 ⑤今後の学習に向け、具体的課題を持つ</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 協調性: 社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	<p>1.保育実習の心得</p> <p>2.実習施設との事前オリエンテーション(個別指導)</p> <p>3.実習内容</p> <p>1)見学・観察・参加実習</p> <p>① 実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る</p> <p>② 実習施設の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。</p> <p>③ 担当保育士・職員の指導を受けながら、参加実習を行う。</p> <p>④ その他必要な見学・観察・参加活動を行い、保育士の業務内容等を知る</p> <p>2)実習記録</p> <p>実習内容を日誌として記録する。</p> <p>3)専任教員による巡回指導を受ける</p> <p>4.事後指導(実習報告書の作成および課題の整理、実習報告会への参加)</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書・報告会への参加(平常点)25%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	uxjj5ez				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員(今西良輔)				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>「保育実習指導 I」の内容をふまえてしっかりと事前の準備を行いましょう。終了後は日誌などの記録を見直しながら報告書を作成し、次の実習に向けての課題を確認しましょう。</p> <p style="text-align: right;">実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>実習依頼をしている施設数に限りがあるため、希望と異なる実習施設の割り当てになる場合があります。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育実習Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	星 信子、山田 千春、早坂 聡子	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2604
授業概要	<p>① 厚生労働省が指定する認可保育所において、7月下旬～8月初旬の10日間を基本とした実習を行う。 ② 「保育実習ⅠA」で習得した保育所での体験的理解をもとに、部分実習、指導実習を中心として、指導方法・技術の深化を図る。保育計画の理論と実践、子育て支援の状況、組織内のチームワークなどを学習する。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 社会人にふさわしい態度を身につける。② 保育所の役割・機能についての理解を深める。③ 子どもの観察やかかわりの視点についての理解を深める。④ 保育者の職務を体験する中で、子どもの保育及び保護者支援について、さらに、保育士の業務内容や職業倫理について総合的に学ぶ。⑤ 指導実習を通し、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価に取り組み、理解を深める。⑥ 保育士としての自己課題を明確にする。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	<p>1. 7月下旬～8月初旬の10日間 実習協力保育所で実習する(2週間) 2. 実習指導保育所との事前オリエンテーション 3. 実習内容 1) 見学・観察・参加実習 ① 実習保育所の人的環境、物的環境、地域環境を知る ② 保育所の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。 ③ 担当保育士・職員の指導を受けながら、参加実習を行う。 ④ その他必要な見学・観察・参加活動を行う。 2) 指導実習 ① 担当保育士の指導を受け、実習保育所の指導計画に合わせて実習を行う。 ② 保育士としての業務全般を体験する。 ③ 各自課題を設定し、指導計画を立てて実践する。 3) 実習記録 実習内容を日誌として記録する。 4) 専任教員による巡回指導を受ける 4. 事後指導(課題の整理、実習報告書作成、実習報告会)</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告25%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて、資料を配付します。				
参考書等	『保育所保育指針』。その他必要に応じて、指示します。				
クラスコード	jxk63b2				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>保育実習ⅠAの振り返りをしっかりと行い、今回の実習に対する課題を明確にして臨みましょう。実習園との事前打ち合わせに基づき、保育計画や教材などの準備を行きましょう。終了後は日誌等に基づいて報告書を作成し、保育士としての自己課題を明確にしましょう。 実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>実習園との事前打ち合わせ、実習後の実習日誌受取りや園行事等に十分配慮する。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育実習Ⅲ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	今西 良輔	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2605
授業概要	<p>①「保育実習ⅠB」での実践や、関連科目で学んだ知識を踏まえ10日間の実習を行う。 ②児童福祉施設や障害児(者)施設等に携わる保育士の職務内容、役割についてより深く理解を進めるとともに、具体的な援助を通して、援助技術の深化を図る。 ③地域における施設の役割、利用者の支援、関係機関との連携の在り方などの理解を行う。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 実習施設での活動全般に参加し、保育士の役割、職務についての理解をさらに深める。 ② 子ども・利用者・保護者等への具体的な援助技術を実習を通して身につける。 ③ 地域社会との連携や家族とのコミュニケーションの方法について理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 社会の様々な問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	<p>1.保育実習の心得</p> <p>2.実習施設との事前オリエンテーション(個別指導)</p> <p>1)見学・観察・参加実習</p> <p>① 実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る</p> <p>② 実習施設の一日の生活の流れ、週間予定、月間予定を知る。</p> <p>③ 担当保育士・職員の指導を受けながら、参加実習を行う。</p> <p>④ その他必要な見学・観察・参加活動を行い、保育士の業務内容等を知る</p> <p>2)実習記録</p> <p>実習内容を日誌として記録する。</p> <p>3)専任教員による巡回指導を受ける</p> <p>3.援助実習</p> <p>①担当保育士・職員からの指導を受けながら、実習施設の援助計画に合わせて実習する。</p> <p>②保育士・他の専門職者の職務全般を実習する。</p> <p>③各自課題を設定し、実習計画に立てて実習する。</p> <p>4.事後指導(実習報告書の作成および課題の整理、実習報告会への参加)</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書・報告会への参加(平常点)25%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。				
参考書等	なし。必要に応じて指示します。				
クラスコード	wfio6ur				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>1年次での福祉施設実習(「保育実習ⅠB」)を通して学んだことの振り返り等を通して、2回目の施設実習を通して学びたい自己の課題を明確にして、実習に臨んでください。 実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>施設への実習依頼の関係上、受講を希望する学生、もしくは受講可能性のある学生は、1年次後期に必ず担当教員に相談してください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	教育実習Ⅰ	配当年次	1～2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	実習
担当教員	森川 由衣	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 1604
授業概要	<p>① 附属幼稚園において毎週、通年観察実習する。 観察視点に沿って観察・記録しその後、観察内容についての疑問点などをカンファランスする。 記録は次週に考察を加え提出する。「子どもとは…」「保育者とは…」「幼稚園とは…」「子どもとの関わり方」などの理解を深め、子ども観、保育観などを考え、築いていく基礎を学ぶ。</p> <p>② 観察の他に指導演習(学外実習事前指導・折り紙指導・わらべ歌など)を行う。</p> <p>③ 附属幼稚園において2日間の参加実習を行う。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 観察視点に沿って観察することで、子ども観、保育観などを考えていく基礎を身につける。</p> <p>② 観察記録から視点に沿った考察をすることによりレポートをまとめる力を育てる。</p> <p>③ 観察からの学びを実習につなげることが出来るようになる。</p> <p>④ 附属幼稚園の参加実習体験から自己の課題を知り、学外実習への意欲が高まるようになる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>1年生 3 協調性:社会の様々な問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>2年生 2 幼児教育・保育にかかわる理論と技術、子どもの成長・発達についての専門的知識を修得している。</p> <p>2年生 3 社会の 様々な 問題に関心に向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。</p> <p>2年生 4 各々の関心に基づく得意分野を持ち、幼児教育・保育の実践に活かすことができる。</p>				
授業計画	<p>1週 ガイダンス：授業内容、目的、計画 附属幼稚園見学</p> <p>2～30週 ・子どもを中心とした観察</p> <p>「一人の子の行動を他との関わりを中心に観察しその内容を考察しなさい」他</p> <p>・保育者を中心とした観察</p> <p>「先生の行動を観察し、子どもに配慮している点を考察しなさい」他</p> <p>・実習生を中心とした観察</p> <p>「参加実習生の行動を観察し、その役割を考察しなさい」他</p> <p>・環境構成、行事などを中心とした観察</p> <p>「運動会の練習の様子を観察し、その取組みを考察しなさい」他</p> <p>・附属幼稚園において2日間参加実習</p> <p>・折り紙指導、わらべうた演習</p> <p>・1年間の振り返りと実習事前指導</p> <p>2年次 ・「教育実習Ⅱ」の事前指導と事後指導</p> <p>事前指導：実習の心得と日誌及び指導計画の書き方等</p> <p>事後指導：実習報告会等</p> <p>・特別講義「伝承遊び」</p>				
成績評価 方法・基準	レポートの内容と提出状況80%、観察態度と授業参加態度20%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。				
参考書等	宮内克男 編著『レポート・論文のまとめ方と書き方』川島書店				
クラスコード	svbk3r5				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>事前に提示された観察テーマを理解し観察の視点を考えておくこと。</p> <p>実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>・観察、指導演習等の日程は附属幼稚園のカリキュラムにより変更することがあります。</p> <p>・授業内容から通常の講義時間帯とは異なることがあります。</p> <p>・レポートの提出は原則として次回までとします。「教育実習Ⅰ」修得の為、附属幼稚園での2日間実習は必ず参加すること。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	教育実習Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	松井 亜樹、田中 住幸、森川 由衣	単位数	3	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	EC_MS 2606
授業概要	<p>① 本学との協力幼稚園(私立)において8月～9月に3週間教育実習する。 ② 既習の保育理論・関連科目を生かして、幼稚園現場で実践学習する。 ③ 毎日の実習に当たっては指導教諭との相談を密にして、事前準備する。 ④ 実習内容は実習日誌に整理し、担当教諭の指導を受け、自己評価していく。 この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 社会人にふさわしい態度を身につける。 ② 目標を持って毎日の実習に臨める。 ③ 実習内容を実習日誌に反映して記述できる。 ④ 楽しく、元気に実習できる。幼稚園を知る。子どもから幼稚園教諭の在り方を学ぶ態度を身につける。 ⑤ 幼稚園の役割・意義・幼稚園教諭の仕事を実感として受け止め、これからの学習に向け、課題意識と具体的課題を持ち、幼稚園教諭としての仕事を理解する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 社会の 様々な 問題に関心を向け、幼児教育・保育の現場で他者と協力して対応する行動力を身につけている。				
授業計画	<p>1. 8月下旬～9月中旬(3週間)協力幼稚園で実習する。 2. 実習園との事前打ち合わせ。(教育課程、保育環境、組織体制の理解) 3. 実習内容</p> <p>1) 観察・参加実習</p> <p>① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境を知る。 ② 1日の保育の流れを知り、担当教諭の指導のもと必要な活動を行う。 ③ 保育全般についての見学・観察・参加活動を行い、子どもの実態を把握する。</p> <p>2) 部分実習、指導実習</p> <p>① 担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し実習する。 ② 担当クラスで実習生としての仕事全般を実習する。 ③ その他必要な活動を行う。具体的には各実習園の指導により行う。</p> <p>3) 実習記録</p> <p>実習内容を日誌として記録する。</p> <p>4) 専任教員による巡回指導を受ける。</p> <p>4. 事後指導(課題の整理、実習報告書作成、実習報告会)</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告・事後レポート25%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	これで安心!保育指導案の書き方—実習生・初任者からベテランまで 開 仁志著 北大路書房				
クラスコード	us5ojji				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は実務の経験を有する教員が実践的指導を行います。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>実習に入るまでに『幼稚園教育要領』を熟読しておく。</p> <p style="text-align: right;">実習前に事前確認する時間を確保してください。</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>実習園との実習事前打ち合わせ、実習後の実習日誌受取りや園行事などに十分配慮する。 事前指導については、「教育実習Ⅰ」と「幼児教育の方法と技術」の中で関連させ進める。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	発達心理学特論 I	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	星 信子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	MC-MS 1301
授業概要	<p>子どもの発達や学習の諸相について探求する際には、関連する心理学の理論を学ぶと同時に、その実証的な新しい研究成果に触れることが重要である。本講義では、子どもの発達を捉える視点及び子どもの学習と保育の関わりについて学ぶとともに、各々の学生の興味関心に基づいて最近のジャーナルより選択した論文を紹介し、それに基づいた教員の解説により理解を深める。</p>				
到達目標	<p>① 発達及び教育心理学の研究の視点について説明できる。 ② 心理学の基本的な研究の手法について知り、説明できる。 ③ 各々が子どもをとらえる際に必要な視点について自分なりの考えを持つ。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p>				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション</p> <p>2週 子どもの発達をとらえる視点</p> <p>3週 子どもの学習と保育のかかわり</p> <p>4週 心理学の研究手法</p>				
	<p>発達心理学に関する論文報告と解説 日本発達心理学会のジャーナルである『発達心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。</p> <p>5週～ 10週</p> <p>教育心理学に関する論文報告と解説 日本教育心理学会のジャーナルである『教育心理学研究』の直近10年間分から学生各自の興味に応じて論文を選択して行う報告に基づいて解説を行うため、各回で扱う内容は学生の論文の選択に応じて異なる。</p> <p>11週～ 14週</p> <p>15週 授業内試験(筆記)とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	論文の報告50%、授業内試験(筆記)40%、平常点(討論への参加の状況など)10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	『発達心理学研究』(日本発達心理学会)、『教育心理学研究』(日本教育心理学会)				
クラスコード	i67njlt				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>講義で紹介した論文を読んでみましょう。各自の講読と報告の準備をしっかりと行いましょう。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>討論の際には積極的に自分なりの意見を述べてみましょう。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	発達心理学特論Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	星 信子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	MC-MS 1302
授業概要	<p>「発達心理学特論Ⅰ」では、発達心理学の実際の研究事例について学んだ。この「発達心理学特論Ⅱ」では、その応用として、様々な調査・観察を実際に行いながら、各種研究法について詳しく学ぶ。各々の手法の特徴や、実施上の留意点を知り、保育における子ども理解に各自が活用できるようにすることが主な目的である。心理学の代表的手法である、質問紙調査・観察・検査を取り上げるが、各々の具体的内容については、参加者の希望を取り入れて選定する。</p>				
到達目標	<p>① 質問紙調査法・検査法について知り、実践できる。 ② 観察法について理解を深める。 ③ 心理学的手法の幼児理解への活用について自分なりに考える。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション 2週 質問紙調査の実際① 立案・調査用紙の準備 3週 質問紙調査の実際② 調査の実施 4週 質問紙調査の実際③ データの集計と検討 5週 コンピューターを利用した実験の実際① 立案・使用データの準備 6週 コンピューターを利用した実験の実際② 実験の実施 7週 コンピューターを利用した実験の実際③ データの集計と検討 8週 心理検査の実際① 各種の心理検査 9週 心理検査の実際② 知能検査実習① 10週 心理検査の実際③ 知能検査実習② 11週 実験的観察の実際① 立案 12週 実験的観察の実際② 実施① 対象者への説明・練習 13週 実験的観察の実際③ 実施② 本実験の実施 14週 実験的観察の実際④ データの集計と検討 15週 まとめ</p>				
成績評価 方法・基準	実施レポート60%、まとめレポート40%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	<small>小塩真司・西口利文編『心理学基礎演習Vol. 2 質問紙調査の手順』(ナカニシヤ出版)、中澤潤他編著『心理学マニュアル 観察法』(北大路書房)、坂本亨他編著『心理学マニュアル 面接法』(北大路書房)、酒井浩二他著『今すぐ体験! ハソコで認知心理学実験』(ナカニシヤ出版)</small>				
クラスコード	h4ah2wl				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>調査・観察・検査の準備をしっかりと行いましょう。参考書を講読し理解を深めましょう。 2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>「発達心理学特論Ⅰ」を受講済みであることを前提として実施します。 実施レポートへのフィードバックは授業内で行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるグループワーク、ディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	幼児教育課程特論	配当年次	1年	必修選択	必修
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	大澤 亜里	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限なし	ナンバリング	MC-MS 1603
授業概要	<p>附属幼稚園の1クラスで、4月から1年間、定期的に観察・参加・指導実習を行い、その様子を記録する。続いてこの体験と記録をもとに保育の省察を行う。カンファレンス形態を取り入れ、日々成長し、変化する幼児に対する保育方法と保育内容を、1. 人・もの・自己との関わりの側面から、2. 設定保育・自由保育・一斉保育等保育形態の側面から、3. 遊びの側面から検討し、理解を深める。1年間継続して担任教師とともに子ども達と接し、その成長の姿に関わり、感動体験を積み重ねていくことも重要な内容である。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>1年間の観察・参加・指導実習を通して、保育目標、保育内容を理解するとともに、子どもの発達過程について知る。指導実習の保育計画を作成し、実践、省察、評価する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。</p>				
授業計画	1～3週	ガイダンス(参加実習の要領等)、附属幼稚園入園式参加(科目担当教員・担任教諭との打ち合わせを含む)			
	4～13週	参加実習・指導実習(クラスの1人一人の特徴について、気になる子ども、幼児の自己中心性、幼児の自己表現、幼児の遊び、遊び方、関わり方等について)、エピソード記録について、幼稚園の行事について(幼稚園のお誕生会、幼稚園の運動会)、園外保育(遠足、地域に出る、自然に親しむ等)、実習後の省察			
	14～15週	子どもの成長(入園当初との比較など)、公立幼稚園実習に向けて			
	16～17週	公立幼稚園実習をふまえた教育課程の比較検討			
	18～19週	子どもの成長(入園当初との比較など)			
	20～21週	クラスの人間関係			
	22～23週	幼稚園の報恩講、附属幼稚園の仏教保育の実践			
	24～26週	新しい遊びへの取り組み			
	27～29週	お別れ会の保育計画の立案と実施			
	30週	1年間のクラスの成長 まとめ			
成績評価 方法・基準	平常点(実習への取り組み状況およびカンファレンスでの発言参加等)50%、レポート50%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	『保育のためのエピソード記述入門』鯨岡峻他著 ミネルヴァ書房				
クラスコード	jflzicw				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業日以外に附属幼稚園所定のクラスにローテーションで午前の空き時間に実習に入る。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>附属幼稚園の保育内容や子どもの状況によって、課題設定が変化するのでシラバスの順は多少前後する。</p>				

授業科目	障害児教育臨床	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	早坂 聡子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1404
授業概要	障がいのある子どもたちは、家庭の中で養育されていた時代から、児童福祉施設や学校教育の現場、あるいは医療現場などで個々の障がいに対応した療育・保育がなされるようになった。幼稚園や保育所等も「統合保育」が一般的になってきており、障がいのある子どもも集団生活の中で共生し生きていく力を獲得している。現場に即した理論的な学習を進め障がいのある子どもにとっても保育者にとっても、よりよい保育とは何かを学ぶ。				
到達目標	① いろいろな「障がい」への理解を深め、授業で習得した知識をもとに、説明することができる。 ② 保育現場における障がい児保育について、授業で習得した知識をもとに、説明することができる。 ③ 障がいのある子どもの親理解と支援・連携について授業で習得した知識をもとに説明することができる。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 ガイダンス 障がい児保育とは 2週 障がい児保育の歴史と変遷① 障がい児教育の義務化までの流れ 3週 障がい児保育の歴史と変遷② 障がい児のための教育と支援施設 4週 障がい児保育の対象になる障がいへの理解① 知的障がい・肢体不自由・ADHD・LD 5週 障がい児保育の対象になる障がいへの理解② 自閉症スペクトラム・視覚障がい・聴覚障がい 6週 保育現場における障がい児保育① 乳幼児期の障がい(発達検査、乳幼児健診) 7週 保育現場における障がい児保育② 障がいへの専門的指導方法 8週 保育現場における障がい児保育③ 教材教具を使った発達支援 9週 保育現場における障がい児保育④ 保育計画・個別指導計画の立案と記録 10週 保育者が協働して支援する(専門機関との連携・保幼小の連携) 11週 保護者の声に耳をかたむける(事例検討) 12週 障がい児に関する研究① 研究テーマの設定と関連文献等の検索、購読 13週 障がい児に関する研究② テーマに沿った文献等の購読と考察 14週 障がい児保育に関わる自分の関心事項のまとめと発表、議論① Aグループ発表 15週 障がい児保育に関わる自分の関心事項のまとめと発表、議論② Bグループ発表				
成績評価 方法・基準	レポート40%、プレゼンテーション(内容と発表)40%、授業への参加態度・意欲等の平常点20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	qc2ef7t				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、障害児の相談経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	参加者は文献を配付された場合は事前に読み、また自身も授業に沿った参考資料などを用意し問題関心を整理して議論に参加しましょう。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	障がい児保育に関わる関心事項のまとめと発表についてはまとめる力と課題関心の掘り下げを重視します。自らの言葉で想いを語り、表現することを求めます。				

授業科目	保育健康特論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	田中 住幸	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	—
授業概要	<p>本科目では、領域「健康」で示されているねらいや内容について、特に、運動発達に関する援助の方法、子どもと遊びの関係や保育における安全管理や安全教育について解説する。講義やディスカッションを通して、自身の領域「健康」に関する保育観を醸成させながら、保育を構想する力を身に付ける。</p>				
到達目標	<p>①幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。 ②子どもにとっての遊び(環境)とその意義や現状を理解している。 ③幼児の安全教育・安全管理に関する基本的な考え方を理解している。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p>				
授業計画	<p>1週 幼児期における運動発達と運動遊びの指導①—幼児期の運動能力、体力の捉え方— 2週 幼児期における運動発達と運動遊びの指導②—幼児期の運動発達の特徴—※フィールドワーク有 3週 幼児期における運動発達と運動遊びの指導③—遊びとしての運動の重要性—※フィールドワーク有 4週 幼児期における運動発達と運動遊びの指導④—幼児期の発達の段階に応じた運動指導— 5週 幼児期における運動発達と運動遊びの指導⑤—幼児期の運動発達の時代変化— 6週 幼児期における運動発達と運動遊びの指導⑥—運動発達に係る園環境と家庭環境— 7週 子どもとあそび①—あそびの原風景— 8週 子どもとあそび②—子どもの空間— 9週 子どもとあそび③—世界の子ども— 10週 子どもとあそび④—あそび環境の現在— 11週 子どもとあそび⑤—子どもと大人— 12週 安全な生活①—保育における安全管理・安全教育— 13週 安全な生活②—事故事例分析— 14週 安全な生活③—安全管理計画の立案— 15週 まとめ</p>				
成績評価 方法・基準	<p>期末レポート60%、授業毎の課題20%、平常点(主体性、意欲・関心)20%</p>				
教科書 ソフト等	<p>なし。授業内で適宜、資料を配付します。</p>				
参考書等	<p>幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、杉原隆・川邊貴子(2014)『幼児期における運動発達と運動遊びの指導遊びのなかで子どもは育つ』ミネルヴァ書房、仙田満(1992)『子どもとあそび』岩波新書、能條歩・田中住幸(2021)『とぎすまそう安全への感覚』北海道自然体験活動サポートセンター</p>				
クラスコード	<p>wappj5x</p>				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	<p>あり</p>				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日常的な生活習慣を通して「健康」への興味・関心・実践を心掛け、積極的に情報収集するようにすること。授業で学んだことを整理して、ノートにまとめておくこと。 1時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業では、各自で調べた乳幼児の「健康」に関する事例を発表する場を設ける。主体的に発表・発言をすること。提出された課題・レポートについては、classroom内でフィードバックを行う。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	教育相談特論	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	今西 良輔	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1403
授業概要	<p>本授業では、本科2年次「教育相談の基礎」で学んだ知識を踏まえ、より具体的な相談援助を行うために必要な視点、方法について学びます。保育所、幼稚園には、障害のある子ども、あるいは発達的に「気になる子」が在籍していますが、その子どもたちが生活の中で示す困り感様々です。保育者には、保護者の困り感を軽減させるような関わりが必要となり、日々の保育や会話の中で子どもと保護者への対応能力が要求されます。この授業では、保育者が相談スキルを用いて、子どもと保護者の行動をどのように捉え、どのように望ましい行動を形成していけばよいか力を身につけます。また、個人対応と組織対応として考えられる力を身につけます。</p>				
到達目標	<p>① 子どもがなぜそのように行動するのか理解するための枠組みを身につける。 ② 子どもに望ましい行動を教えるための基礎的技法についての知識を身につける。 ③ 保護者の相談を引き出すスキルを身につける。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 教育相談とはなにか 2週 教育相談における基本姿勢と理論 3週 課題を抱える子どもの相談のあり方 4週 課題を抱える子どもの行動の捉え方について学ぶ 5週 相談の技術について学ぶ 6週 気づきと共感力の理解 7週 相談の環境設定と準備について学ぶ 8週 相談から行動へ移行させる力について学ぶ 9週 感情と思考を踏まえた相談方法について学ぶ 10週 相談における保護者対応と子どもへの対応を学ぶ 11週 他職種との連携と対応 12週 相談体制の整備と対応 13週 課題のある子どもと保護者への個人の対応と計画 14週 課題のある子どもと保護者への組織の対応と計画 15週 まとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内課題の発表およびディスカッション40%、レポート40%、平常点20%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	xfybsih				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員が担当します。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業はテキストに基づいて行われますので、授業前にテキストの該当する章をよく読んでおいてください。また、授業後は講義内容をまとめ、復習をしっかりと行ってください。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>授業内でのディスカッションでは、積極的な意見や質問をしてください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	子育て支援特論 I	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	演習
担当教員	遠山 景広	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1401
授業概要	<p>「子育て支援」の現状や課題など諸外国との違いを学び、これからの子育て支援のあり方について考えることを目的とする。さらに、子育て支援センターなどの諸機関の機能や役割を学び、子どもを取り巻く家族・地域の問題を把握し課題について分析し、今後の子育て支援のあり方について探っていく。これらを通して、保育や教育に生かせる保育士や幼稚園教諭の役割について理解を深める。また、現場での体験を通して、子どものしぐさや言動と、それに対する周囲の反応などから、自発性に結びつくものを見出す観察力や洞察力を高めていく。</p>				
到達目標	<p>① 子育て支援について諸外国との違いを理解し、今後のあり方について自分の考えを述べることができる。 ② 子育て支援センターの役割について述べるができる。 ③ 子育てを取り巻く環境について課題を述べ、自分なりのアプローチをまとめることができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション、多胎児の会(んぐんぐまーま)の役割 2週 子育て環境について考える(ジェンダー・ライフスタイルなど) 3週 子どもと家族の現状から福祉を考える 4週 少子化の背景(諸外国の対策) 5週 子ども虐待防止について① 虐待のハイリスクシグナルなど 6週 子ども虐待防止について② 初期対応の考え方や事例から学ぶ 7週 子ども虐待の予防と対策・児童相談所の役割と機能(見学研修) 8週 子どもの貧困① 貧困と虐待の関係を学ぶ 9週 子どもの貧困② 乳幼児期の貧困と保育の役割 10週 子育て支援の課題 11週 世界の子育て支援 12週 保護者と地域の連携 13週 要保護児童連絡協議会・各関係機関(者)とのネットワーク 14週 多様なニーズを持つ保護者支援への対応 15週 まとめ</p>				
成績評価 方法・基準	授業内の発表30%、レポート課題70%				
教科書 ソフト等	亀崎美沙子『保育の専門性を活かした子育て支援』わかば社 2018				
参考書等	『保育政策の国際比較』明石書店 2018、高山静子『子育て支援の環境づくり』エイデル研究所 2018				
クラスコード	lwpryfk				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、自分の考えや根拠をまとめておきましょう。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>子育てにかかわる様々な現状と課題について、現場の職員から講義を受けます。子育て支援の現場での実践を行うことがあります。授業内の発表やレポートに対しフィードバックを行います。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	子育て支援特論Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	演習
担当教員	遠山 景広	単位数	1	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1402
授業概要	子育て支援の現状を把握した上で、保育と教育の一元化や「子ども・子育て支援制度」を含む子育てを支える社会的な仕組みについて、今後の課題を含めて考える。また、特別な支援を必要とする家庭の背景にある社会問題をとらえるとともに、子育てニーズの多様化に伴い必要となる様々な支え手の存在や支えあいの形について学んでいく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 子どもや家族を取り巻く環境(家族・地域・保育行政・経済など)について自分の考えも含めて述べるができる。 ② 認定こども園等の機能等について述べるができる。 ③ 子ども・子育てにかかわる各関係機関の役割や連携・調整について理解し、子育て支援の課題として総合的に説明することができる。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 知識理解・幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 オリエンテーション・子育て支援センターの保育者の役割 2週 各関係機関(児童相談所、社会福祉協議会、福祉事務所、医療機関など)の連携 3週 民生委員・主任児童委員の役割連携 4週 地域ネットワークの形成を学ぶ 5週 子ども・子育て支援の諸制度と関連する法律 6週 保育サービスと子育て支援の関係 7週 保育園・幼稚園と地域子育て支援の実践 8週 保育現場と地域子育て支援の課題 9週 子育て困難について考える① 困難の背景 10週 子育て困難について考える② 虐待事例 11週 子育て困難について考える③ 様々なニーズに関する事例 12週 現場のリスクとコントロール(講義編) 13週 現場のリスクとコントロール(実践編) 14週 子育て支援のあり方 15週 まとめ				
成績評価 方法・基準	授業内の発表30%、レポート課題70%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	二宮祐子『子育て支援』萌文書林 2018、田中浩二『保育現場のリスクマネジメント』中央法規 2017				
クラスコード	2sxlmo				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	日頃から子どもや保護者、子育て家庭に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、自分の考えや根拠をまとめておきましょう。 1時間から2時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業内の発表やレポートに対しフィードバックを行います。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。				

授業科目	表現法「音楽」	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	松井 亜樹、國谷 聖香	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1706																																																												
授業概要	<p>① 初見奏、弾き歌い等実践に役立つピアノ演奏技術の向上を目指します。 ② 保育現場において、子どもに豊かな音楽体験をもたらすために、より実践的な指導技術や表現力を身につけます。 ③ 授業形態は、個々のレベルに応じた個人レッスンを軸とします。 ④ 歌唱表現活動を実践しながら発声方法を学び、子どもの発達段階に即した歌唱表現と歌唱指導の方法などを学びます。</p>																																																																
到達目標	<p>① 弾き歌いのレパートリーを10曲以上習得できる。 ② 正しく弾く事にとらわれ過ぎず、豊かな音楽活動をイメージし、その楽曲を子どもと共に楽しむために演奏方法を工夫できる。 ③ コードネームによる基礎的な伴奏法ができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス課題曲の提示と練習方法</td><td>16週</td><td>弾き歌いレッスン テンポ設定</td></tr> <tr><td>2週</td><td>即時反応、オノマトペに親しもう</td><td>17週</td><td>弾き歌いレッスン 左右のバランス</td></tr> <tr><td>3週</td><td>まねっこリズム、食べ物のリズム</td><td>18週</td><td>弾き歌いレッスン 声とのバランス</td></tr> <tr><td>4週</td><td>スカーフ、フラフープを使った表現活動</td><td>19週</td><td>弾き歌いレッスン いろいろなリズム</td></tr> <tr><td>5週</td><td>手作り楽器</td><td>20週</td><td>弾き歌いレッスン ペダルの使い方</td></tr> <tr><td>6週</td><td>鑑賞</td><td>21週</td><td>弾き歌いレッスン 音色や表現</td></tr> <tr><td>7週</td><td>ひも、ゴムひもを使った表現活動</td><td>22週</td><td>弾き歌いレッスン 簡易伴奏(実践)</td></tr> <tr><td>8週</td><td>模倣遊び(動物の動き、忍者の修行)</td><td>23週</td><td>弾き歌いレッスン 簡易伴奏(応用)</td></tr> <tr><td>9週</td><td>音の高低、アクセントを感じて表す活動</td><td>24週</td><td>コードネームによる伴奏法 C-G-C</td></tr> <tr><td>10週</td><td>トーンチャイム</td><td>25週</td><td>コードネームによる伴奏法 C-F-C</td></tr> <tr><td>11週</td><td>弾き歌いレッスン 姿勢と発声</td><td>26週</td><td>コードネームによる伴奏法 G7</td></tr> <tr><td>12週</td><td>弾き歌いレッスン 歌詞の理解</td><td>27週</td><td>初見奏 拍子</td></tr> <tr><td>13週</td><td>弾き歌いレッスン 付点リズム</td><td>28週</td><td>初見奏 音符と休符</td></tr> <tr><td>14週</td><td>弾き歌いレッスン 表情</td><td>29週</td><td>初見奏 リズム</td></tr> <tr><td>15週</td><td>まとめ</td><td>30週</td><td>まとめ</td></tr> </table>					1週	ガイダンス課題曲の提示と練習方法	16週	弾き歌いレッスン テンポ設定	2週	即時反応、オノマトペに親しもう	17週	弾き歌いレッスン 左右のバランス	3週	まねっこリズム、食べ物のリズム	18週	弾き歌いレッスン 声とのバランス	4週	スカーフ、フラフープを使った表現活動	19週	弾き歌いレッスン いろいろなリズム	5週	手作り楽器	20週	弾き歌いレッスン ペダルの使い方	6週	鑑賞	21週	弾き歌いレッスン 音色や表現	7週	ひも、ゴムひもを使った表現活動	22週	弾き歌いレッスン 簡易伴奏(実践)	8週	模倣遊び(動物の動き、忍者の修行)	23週	弾き歌いレッスン 簡易伴奏(応用)	9週	音の高低、アクセントを感じて表す活動	24週	コードネームによる伴奏法 C-G-C	10週	トーンチャイム	25週	コードネームによる伴奏法 C-F-C	11週	弾き歌いレッスン 姿勢と発声	26週	コードネームによる伴奏法 G7	12週	弾き歌いレッスン 歌詞の理解	27週	初見奏 拍子	13週	弾き歌いレッスン 付点リズム	28週	初見奏 音符と休符	14週	弾き歌いレッスン 表情	29週	初見奏 リズム	15週	まとめ	30週	まとめ
1週	ガイダンス課題曲の提示と練習方法	16週	弾き歌いレッスン テンポ設定																																																														
2週	即時反応、オノマトペに親しもう	17週	弾き歌いレッスン 左右のバランス																																																														
3週	まねっこリズム、食べ物のリズム	18週	弾き歌いレッスン 声とのバランス																																																														
4週	スカーフ、フラフープを使った表現活動	19週	弾き歌いレッスン いろいろなリズム																																																														
5週	手作り楽器	20週	弾き歌いレッスン ペダルの使い方																																																														
6週	鑑賞	21週	弾き歌いレッスン 音色や表現																																																														
7週	ひも、ゴムひもを使った表現活動	22週	弾き歌いレッスン 簡易伴奏(実践)																																																														
8週	模倣遊び(動物の動き、忍者の修行)	23週	弾き歌いレッスン 簡易伴奏(応用)																																																														
9週	音の高低、アクセントを感じて表す活動	24週	コードネームによる伴奏法 C-G-C																																																														
10週	トーンチャイム	25週	コードネームによる伴奏法 C-F-C																																																														
11週	弾き歌いレッスン 姿勢と発声	26週	コードネームによる伴奏法 G7																																																														
12週	弾き歌いレッスン 歌詞の理解	27週	初見奏 拍子																																																														
13週	弾き歌いレッスン 付点リズム	28週	初見奏 音符と休符																																																														
14週	弾き歌いレッスン 表情	29週	初見奏 リズム																																																														
15週	まとめ	30週	まとめ																																																														
成績評価 方法・基準	弾き歌い取り組み状況70%、平常点(自己練習の取り組み、意欲)30%																																																																
教科書 ソフト等	小林美実編 『こどものうた200』チャイルド本社、『ピアノ曲&弾き歌い童謡曲～豊かな音楽表現のために』圭文社																																																																
参考書等	小林美実編 『続 こどものうた200』チャイルド本社、『豊かな音楽表現を育てる幼児のリトミック』(3歳児編、4歳児編、5歳児編)新宿スタジオ																																																																
クラスコード	hqhzv6m																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は音楽指導の経験を有する教員が実践的教育を行います。																																																																
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	上達の成果を実感するために、日々の自己練習を欠かさずに受講してください。 1時間から2時間程度/週																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業内でお知らせいたします。なお、授業内に実施した課題のフィードバックを行います。																																																																

授業科目	表現法「美術」	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	佐藤 あゆみ	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1705																																																												
授業概要	幼児のための遊具を制作し、適切なデザイン・材料・構造・遊び方・安全性などを考慮することで、幼児の遊びやその道具についての視点を養う。																																																																
到達目標	幼児のために作られた既製の遊具について分析し考慮すべき点を検討する。検討の結果を生かし、共同制作でオリジナルの遊具を制作する。																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス、授業のねらい、実施形態</td><td>16週</td><td>遊具制作①</td></tr> <tr><td>2週</td><td>テーマ検討① 遊具の資料や見学などから考える</td><td>17週</td><td>遊具制作②</td></tr> <tr><td>3週</td><td>テーマ検討② 遊具の資料や見学などから考える</td><td>18週</td><td>遊具制作③ 図面</td></tr> <tr><td>4週</td><td>テーマ検討③ 遊具の資料や見学などから考える</td><td>19週</td><td>遊具制作④ 模型</td></tr> <tr><td>5週</td><td>テーマ検討④ 遊具の資料や見学などから考える</td><td>20週</td><td>遊具制作⑤ 模型</td></tr> <tr><td>6週</td><td>テーマ決定・詳細検討① 遊具の機能</td><td>21週</td><td>遊具制作⑥</td></tr> <tr><td>7週</td><td>テーマ決定・詳細検討② 遊具の構造</td><td>22週</td><td>遊具制作⑦</td></tr> <tr><td>8週</td><td>テーマ決定・詳細検討③ 各部の寸法</td><td>23週</td><td>遊具制作⑧</td></tr> <tr><td>9週</td><td>テーマ決定・詳細検討④ 材料</td><td>24週</td><td>遊具制作⑨ 塗装1</td></tr> <tr><td>10週</td><td>遊具制作① 採寸 大まかな切断</td><td>25週</td><td>遊具制作⑩ 塗装2</td></tr> <tr><td>11週</td><td>遊具制作② 曲線部などの切断</td><td>26週</td><td>遊具制作⑪ 塗装3</td></tr> <tr><td>12週</td><td>水遊び制作① 構想 設計</td><td>27週</td><td>遊具制作⑫ 組立1</td></tr> <tr><td>13週</td><td>水遊び制作② 制作 部品</td><td>28週</td><td>遊具制作⑬ 組立2</td></tr> <tr><td>14週</td><td>水遊び制作③ 制作 全体構造</td><td>29週</td><td>遊具制作⑭ 組立3</td></tr> <tr><td>15週</td><td>水遊び制作④ 展示 子どもの遊び</td><td>30週</td><td>遊具 完成</td></tr> </table>					1週	ガイダンス、授業のねらい、実施形態	16週	遊具制作①	2週	テーマ検討① 遊具の資料や見学などから考える	17週	遊具制作②	3週	テーマ検討② 遊具の資料や見学などから考える	18週	遊具制作③ 図面	4週	テーマ検討③ 遊具の資料や見学などから考える	19週	遊具制作④ 模型	5週	テーマ検討④ 遊具の資料や見学などから考える	20週	遊具制作⑤ 模型	6週	テーマ決定・詳細検討① 遊具の機能	21週	遊具制作⑥	7週	テーマ決定・詳細検討② 遊具の構造	22週	遊具制作⑦	8週	テーマ決定・詳細検討③ 各部の寸法	23週	遊具制作⑧	9週	テーマ決定・詳細検討④ 材料	24週	遊具制作⑨ 塗装1	10週	遊具制作① 採寸 大まかな切断	25週	遊具制作⑩ 塗装2	11週	遊具制作② 曲線部などの切断	26週	遊具制作⑪ 塗装3	12週	水遊び制作① 構想 設計	27週	遊具制作⑫ 組立1	13週	水遊び制作② 制作 部品	28週	遊具制作⑬ 組立2	14週	水遊び制作③ 制作 全体構造	29週	遊具制作⑭ 組立3	15週	水遊び制作④ 展示 子どもの遊び	30週	遊具 完成
1週	ガイダンス、授業のねらい、実施形態	16週	遊具制作①																																																														
2週	テーマ検討① 遊具の資料や見学などから考える	17週	遊具制作②																																																														
3週	テーマ検討② 遊具の資料や見学などから考える	18週	遊具制作③ 図面																																																														
4週	テーマ検討③ 遊具の資料や見学などから考える	19週	遊具制作④ 模型																																																														
5週	テーマ検討④ 遊具の資料や見学などから考える	20週	遊具制作⑤ 模型																																																														
6週	テーマ決定・詳細検討① 遊具の機能	21週	遊具制作⑥																																																														
7週	テーマ決定・詳細検討② 遊具の構造	22週	遊具制作⑦																																																														
8週	テーマ決定・詳細検討③ 各部の寸法	23週	遊具制作⑧																																																														
9週	テーマ決定・詳細検討④ 材料	24週	遊具制作⑨ 塗装1																																																														
10週	遊具制作① 採寸 大まかな切断	25週	遊具制作⑩ 塗装2																																																														
11週	遊具制作② 曲線部などの切断	26週	遊具制作⑪ 塗装3																																																														
12週	水遊び制作① 構想 設計	27週	遊具制作⑫ 組立1																																																														
13週	水遊び制作② 制作 部品	28週	遊具制作⑬ 組立2																																																														
14週	水遊び制作③ 制作 全体構造	29週	遊具制作⑭ 組立3																																																														
15週	水遊び制作④ 展示 子どもの遊び	30週	遊具 完成																																																														
成績評価 方法・基準	作品80%、受講態度等20%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	zgtgfdi																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>日常目にする幼児の遊具が、その目的のためにどのような材料・構造・寸法になっているか意識して見てください。また安全性や遊びの発展などの遊具と子どもとの関係で、工夫の余地が無いかも考えてください。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。																																																																

授業科目	子どもと自然環境	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	柘植 純一	単位数	2	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1501
授業概要	<p>本科で学んだ特別研究「自然」および野外研究をさらに発展させ実践力を身につける。保育者自身が自然に対する感性を豊かにし、興味や関心を深めるため、随時野外における自然環境(昆虫、野鳥、植物等)を行う。自然の中での様々な遊びを体験することにより、自然の中で時を過ごすことの素晴らしさを知る。微生物発酵を伴う食品などの加工を体験することにより、食べ物が自然の恵みであり、私たち人間は全ての面で自然の恩恵によって生かされていることを体感する。</p>				
到達目標	<p>① 保育者としての自覚を持ち主体的に自然観察を行うことができる。 ② 自然の中で時間を過ごすことが楽しいと実感できる。 ③ 身近な動植物を識別できる。 ④ 食品を手作りすることにより、食と自然との繋がりについて考えることができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。				
授業計画	<p>1週(1コマ) ガイダンス 2週(2コマ) 早春の森林での自然観察(スプリング・エフェメラルを見る)① 3週(2コマ) 早春の森林での自然観察(スプリング・エフェメラルを見る)② 4週(2コマ) オタマジャクシの飼育 5週(2コマ) よもぎを使った食育 6週(2コマ) 北海道大学附属植物園の見学 7週(2コマ) 初夏の身近な植物観察と食べることでできる野生植物の加工 8週(2コマ) 水辺環境での自然観察(西岡水源池) 9週(2コマ) ホタルの観察(西岡水源池) 10週(1コマ) 発酵食品加工のガイダンス 11週(2コマ) 麹カビの培養 12週(2コマ) 米麹作り 13週(3コマ) 味噌の仕込み、甘酒とべったら漬け作り 14週(1コマ) パン用の酵母培養 15週(4コマ) 培養した酵母でパン作り</p>				
成績評価 方法・基準	レポート70%、授業への取り組み方30%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	onepaxd				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>授業ごとに体験したことをまとめ、自分でも調べてレポートとして提出する。 1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>何でも簡単に手に入る、便利で物質的に豊かな現代社会で、何故孤独を感じる人が多いのか、人間らしさ、本当の豊かさについて考えてください。提出したレポートはコメントをつけて返却する。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるフィールドワークの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育内容研究「音楽」	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	浅沼 恵輔	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1702																																																												
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コード進行や指揮法の基礎を学び、それらを使って簡易な伴奏付けや楽曲作り、演奏の指揮などを行います。 ・リミットの鑑賞や体験授業を通し、リミットの基礎を学びます。 ・楽曲制作や楽譜作成を通して、様々な音楽表現の仕方について学びます。 																																																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①コード進行の基礎を知り、簡易な伴奏付けや楽曲作成ができる。 ②楽曲に合わせて基礎的な指揮を振ることができる。 ③リミットの基礎を学び、保育現場の実践に役立てることができる。 ④音楽を通して様々な表現活動ができる。 																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>ガイダンス 授業内容、授業のねらいの説明</td> <td>16週</td> <td>サウンドスケープ① サウンドスケープとは何か</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>コードネーム① 基本的なコードネームの学習</td> <td>17週</td> <td>サウンドスケープ② 身近な音風景を探す</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>コードネーム② コードを使って伴奏を作る</td> <td>18週</td> <td>簡単な指揮法① 2拍子、4拍子</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>コードネーム③ コードを使って曲を作る</td> <td>19週</td> <td>簡単な指揮法② 3拍子、6拍子</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>音楽と物語① 音楽を聴いて物語を考える</td> <td>20週</td> <td>手遊び歌動画① グループ分け、曲決め</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>リミット鑑賞</td> <td>21週</td> <td>手遊び歌動画② 役割分担、楽器決め</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>リミット体験① リミットの基礎</td> <td>22週</td> <td>手遊び歌動画③ 楽曲の練習、撮影</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>リミット体験② リミットの応用</td> <td>23週</td> <td>手遊び歌動画④ 発表</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>音楽と物語② ミュージカル鑑賞</td> <td>24週</td> <td>音楽と物語③ 音楽絵本鑑賞</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>図形楽譜① 音楽を聴いて個人で図形楽譜を描く</td> <td>25週</td> <td>音楽絵本① グループ分け、題材決め</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>図形楽譜② グループ分け、テーマ決め</td> <td>26週</td> <td>音楽絵本② 役割分担、楽器決め</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>図形楽譜③ 楽曲作成</td> <td>27週</td> <td>音楽絵本③ 楽曲作成</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>図形楽譜④ 図形楽譜作成</td> <td>28週</td> <td>音楽絵本④ 部分練習</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>図形楽譜⑤ 楽曲と図形楽譜の修正</td> <td>29週</td> <td>音楽絵本⑤ 全体練習</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>図形楽譜⑥ 発表とまとめ</td> <td>30週</td> <td>音楽絵本⑥ 発表、一年の振り返り</td> </tr> </table>					1週	ガイダンス 授業内容、授業のねらいの説明	16週	サウンドスケープ① サウンドスケープとは何か	2週	コードネーム① 基本的なコードネームの学習	17週	サウンドスケープ② 身近な音風景を探す	3週	コードネーム② コードを使って伴奏を作る	18週	簡単な指揮法① 2拍子、4拍子	4週	コードネーム③ コードを使って曲を作る	19週	簡単な指揮法② 3拍子、6拍子	5週	音楽と物語① 音楽を聴いて物語を考える	20週	手遊び歌動画① グループ分け、曲決め	6週	リミット鑑賞	21週	手遊び歌動画② 役割分担、楽器決め	7週	リミット体験① リミットの基礎	22週	手遊び歌動画③ 楽曲の練習、撮影	8週	リミット体験② リミットの応用	23週	手遊び歌動画④ 発表	9週	音楽と物語② ミュージカル鑑賞	24週	音楽と物語③ 音楽絵本鑑賞	10週	図形楽譜① 音楽を聴いて個人で図形楽譜を描く	25週	音楽絵本① グループ分け、題材決め	11週	図形楽譜② グループ分け、テーマ決め	26週	音楽絵本② 役割分担、楽器決め	12週	図形楽譜③ 楽曲作成	27週	音楽絵本③ 楽曲作成	13週	図形楽譜④ 図形楽譜作成	28週	音楽絵本④ 部分練習	14週	図形楽譜⑤ 楽曲と図形楽譜の修正	29週	音楽絵本⑤ 全体練習	15週	図形楽譜⑥ 発表とまとめ	30週	音楽絵本⑥ 発表、一年の振り返り
1週	ガイダンス 授業内容、授業のねらいの説明	16週	サウンドスケープ① サウンドスケープとは何か																																																														
2週	コードネーム① 基本的なコードネームの学習	17週	サウンドスケープ② 身近な音風景を探す																																																														
3週	コードネーム② コードを使って伴奏を作る	18週	簡単な指揮法① 2拍子、4拍子																																																														
4週	コードネーム③ コードを使って曲を作る	19週	簡単な指揮法② 3拍子、6拍子																																																														
5週	音楽と物語① 音楽を聴いて物語を考える	20週	手遊び歌動画① グループ分け、曲決め																																																														
6週	リミット鑑賞	21週	手遊び歌動画② 役割分担、楽器決め																																																														
7週	リミット体験① リミットの基礎	22週	手遊び歌動画③ 楽曲の練習、撮影																																																														
8週	リミット体験② リミットの応用	23週	手遊び歌動画④ 発表																																																														
9週	音楽と物語② ミュージカル鑑賞	24週	音楽と物語③ 音楽絵本鑑賞																																																														
10週	図形楽譜① 音楽を聴いて個人で図形楽譜を描く	25週	音楽絵本① グループ分け、題材決め																																																														
11週	図形楽譜② グループ分け、テーマ決め	26週	音楽絵本② 役割分担、楽器決め																																																														
12週	図形楽譜③ 楽曲作成	27週	音楽絵本③ 楽曲作成																																																														
13週	図形楽譜④ 図形楽譜作成	28週	音楽絵本④ 部分練習																																																														
14週	図形楽譜⑤ 楽曲と図形楽譜の修正	29週	音楽絵本⑤ 全体練習																																																														
15週	図形楽譜⑥ 発表とまとめ	30週	音楽絵本⑥ 発表、一年の振り返り																																																														
成績評価 方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加、取り組み姿勢30% ・発表40% ・授業内レポート、課題提出30% 																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	2undqzt																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>普段から色々な音楽を聴いたりし、音楽の様々な表現方法を自分で発見していただきます。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>様々な音楽表現に興味を持ち、積極的に個人作業やグループワークに参加してください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>																																																																

授業科目	保育内容研究「美術」	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	加藤 雅子	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2702																																																												
授業概要	<p>保育における美術の持つ役割を、実習などで経験した子どもの活動からイメージし、再確認する。美術と物語の要素を併せ持った作品を子ども向けに制作する。様々な身近な材料を使い、子どもの想像力と作る楽しさが高まる制作を実践する。多様な表現方法を組み合わせた表現としてミュージカルを製作し発表する。</p>																																																																
到達目標	<p>① 保育における美術・表現の役割を理解し、適切な知識・技術・指導法で、子どもに美術の楽しさを伝えることができる。 ② 美術表現を生かすために、ストーリーや世界観などの設定を考え、子どもの意欲や想像力を高めることができる。 ③ 音や光、動きなどを組み合わせて、美しさや舞台表現を楽しむことができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス(授業のねらい・概要)</td><td>16週</td><td>物語表現の制作⑩</td></tr> <tr><td>2週</td><td>幼稚園教育要領における表現美術の位置づけ</td><td>17週</td><td>舞台演出 確認</td></tr> <tr><td>3週</td><td>美しさとは？色・形・構成・質感・自然物・人工物</td><td>18週</td><td>舞台演出・仮置き</td></tr> <tr><td>4週</td><td>領域「表現」について 児童文化の中に見る表現</td><td>19週</td><td>舞台演出・仮置き修正①</td></tr> <tr><td>5週</td><td>物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇</td><td>20週</td><td>舞台演出・仮置き修正②</td></tr> <tr><td>6週</td><td>物語表現の構想</td><td>21週</td><td>舞台演出設置①</td></tr> <tr><td>7週</td><td>物語表現の計画 ストーリー考案</td><td>22週</td><td>舞台演出設置②</td></tr> <tr><td>8週</td><td>物語表現の材料集め 土台の準備</td><td>23週</td><td>舞台演出設置③</td></tr> <tr><td>9週</td><td>物語表現の制作①</td><td>24週</td><td>リハーサル①</td></tr> <tr><td>10週</td><td>物語表現の制作②</td><td>25週</td><td>リハーサル②</td></tr> <tr><td>11週</td><td>物語表現の制作③</td><td>26週</td><td>リハーサル③</td></tr> <tr><td>12週</td><td>物語表現の制作④</td><td>27週</td><td>発表会①</td></tr> <tr><td>13週</td><td>物語表現の制作⑤</td><td>28週</td><td>発表会②</td></tr> <tr><td>14週</td><td>物語表現の制作⑥</td><td>29週</td><td>完成作品フィードバック①</td></tr> <tr><td>15週</td><td>物語表現の制作⑦</td><td>30週</td><td>完成作品フィードバック②</td></tr> </table>					1週	ガイダンス(授業のねらい・概要)	16週	物語表現の制作⑩	2週	幼稚園教育要領における表現美術の位置づけ	17週	舞台演出 確認	3週	美しさとは？色・形・構成・質感・自然物・人工物	18週	舞台演出・仮置き	4週	領域「表現」について 児童文化の中に見る表現	19週	舞台演出・仮置き修正①	5週	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇	20週	舞台演出・仮置き修正②	6週	物語表現の構想	21週	舞台演出設置①	7週	物語表現の計画 ストーリー考案	22週	舞台演出設置②	8週	物語表現の材料集め 土台の準備	23週	舞台演出設置③	9週	物語表現の制作①	24週	リハーサル①	10週	物語表現の制作②	25週	リハーサル②	11週	物語表現の制作③	26週	リハーサル③	12週	物語表現の制作④	27週	発表会①	13週	物語表現の制作⑤	28週	発表会②	14週	物語表現の制作⑥	29週	完成作品フィードバック①	15週	物語表現の制作⑦	30週	完成作品フィードバック②
1週	ガイダンス(授業のねらい・概要)	16週	物語表現の制作⑩																																																														
2週	幼稚園教育要領における表現美術の位置づけ	17週	舞台演出 確認																																																														
3週	美しさとは？色・形・構成・質感・自然物・人工物	18週	舞台演出・仮置き																																																														
4週	領域「表現」について 児童文化の中に見る表現	19週	舞台演出・仮置き修正①																																																														
5週	物語性を伴った表現 絵本、紙芝居、人形劇	20週	舞台演出・仮置き修正②																																																														
6週	物語表現の構想	21週	舞台演出設置①																																																														
7週	物語表現の計画 ストーリー考案	22週	舞台演出設置②																																																														
8週	物語表現の材料集め 土台の準備	23週	舞台演出設置③																																																														
9週	物語表現の制作①	24週	リハーサル①																																																														
10週	物語表現の制作②	25週	リハーサル②																																																														
11週	物語表現の制作③	26週	リハーサル③																																																														
12週	物語表現の制作④	27週	発表会①																																																														
13週	物語表現の制作⑤	28週	発表会②																																																														
14週	物語表現の制作⑥	29週	完成作品フィードバック①																																																														
15週	物語表現の制作⑦	30週	完成作品フィードバック②																																																														
成績評価 方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加、取り組み姿勢70% ・レポート30% 																																																																
教科書 ソフト等	なし。必要に応じ資料を配布します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	mqwwky6																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>メディアからの情報だけではなく、自然から感じたり、自ら表現したりして日頃から感受性や創造力を豊かに保つことが大事である。自然の中で思考したり、アイデアを練ったりする時間を取る。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>物語表現、ごっこ遊びなどの考案に際し、受講者の発想力が重要な要素になります。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>																																																																

授業科目	保育内容研究「健康」	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	田中 住幸	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	MC-MS 1703
授業概要	<p>本科目では、本科1、2年生及び専攻科1年生で履修した領域「健康」に関する科目で学んだことを基礎に、乳幼児の健康に関する様々な課題について、理論的な裏付けを背景に取り組んでいけるようになることを目指す。特に、乳幼児の健康をテーマにした研究論文の輪読を行い、学術的な視点からの理解を深めると共に、簡易な実験、調査を実施し、研究実践力を高める。</p>				
到達目標	<p>①乳幼児の健康に関する現代的な課題を説明できる。 ②乳幼児の健康に関する最近の研究動向を理解している。 ③乳幼児の健康をテーマにした研究方法について理解している。</p>				
学科のディプロマ・ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。				
授業計画	<p>1週 乳幼児の健康に関する問題の整理①～乳幼児期の基本的な生活習慣について～ 2週 乳幼児の健康に関する問題の整理②～乳幼児の運動発達と遊びについて～ 3週 乳幼児の健康に関する問題の整理③～保育の安全管理・教育について～ 4週 乳幼児の健康に関する論文報告と解説①～乳幼児の基本的な生活習慣について～ 5週 乳幼児の健康に関する論文報告と解説②～乳幼児の運動発達について～ 6週 乳幼児の健康に関する論文報告と解説③～幼児の遊びについて～ 7週 乳幼児の健康に関する論文報告と解説④～保育の安全管理・教育について～ 8週 乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)①—研究計画— 9週 乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)②—実験・調査の準備— 10週 乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)③—実験・調査の実施1—※フィールドワーク有 11週 乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)④—実験・調査の実施2—※フィールドワーク有 12週 乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)⑤—データの整理、分析— 13週 乳幼児の健康に関する研究の実際(量的研究)⑥—結果の考察— 14週 乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)①—参与観察—※フィールドワーク有 15週 乳幼児の健康に関する研究の実際(質的研究)②—インタビュー調査—※フィールドワーク有</p>				
成績評価方法・基準	期末レポート60%、論文の報告20%、平常点(主体性、意欲・関心)20%				
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省)、保育所保育指針解説(厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)、乳幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)				
クラスコード	uptyd4i				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	論文の講読・報告の準備、簡易実験・調査の準備など 1時間から2時間程度/週				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	<p>論文報告の際のディスカッションでは、主体的に発表・発言をすること。また、簡易実験・調査の実施などにも積極的に関わる。提出された課題・レポートについては、classroom内でフィードバックを行う。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッション及びフィールドワークの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	保育内容研究「造形」	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	梅田 真紀	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1704																																																												
授業概要	<p>幼児の美術で大切なことは造形活動のおもしろさを伝えることである。手でふれて表面感覚を「みる・知る」ことは、こどもにとっておもしろさを知る源泉とも言える。この講義では造形活動の中でも平面(絵画他)実践を中心に五感(見る・きく・かぐ・触れる・味わう)を使い広義での「みる」ことの大切さを学びながら「主体性・能動性」を培う。平面造形が持ちうる可能性を認識し、その意義と展開の多様性に触れながら各々の感性を育む事を目的とする。</p>																																																																
到達目標	<p>① 五感で描くことの大切さとたのしさを理解して身につけられる。 ② 絵画表現における基礎美術からの応用を学び平面造形活動に対する理解を深める。 ③ 受講希望学生それぞれが「目的意識」を以って主体的に取り組める。 ④ 平面造形活動の楽しさを感じられるように取り組み、作品等実践・制作を通して様々なアイデア提言ができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>ガイダンス:講義のねらい、実施形態説明</td> <td>16週</td> <td>イメージを描く:聴覚</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>紙と色彩:紙製ステンドグラス:歴史</td> <td>17週</td> <td>絵画表現:聴覚のイメージ</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>紙製ステンドグラス:アイデアから下書きへ</td> <td>18週</td> <td>絵画表現:聴覚のイメージ・発展</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>紙製ステンドグラス:切り取り:全体を見る</td> <td>19週</td> <td>イメージを描く:嗅覚</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>紙製ステンドグラス:切り取り:細部加工</td> <td>20週</td> <td>絵画表現:嗅覚のイメージ</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>紙製ステンドグラス:セロファン貼付け:全体バランス</td> <td>21週</td> <td>美術館鑑賞(予定:2コマ)</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>紙製ステンドグラス:セロファン貼付け:細部加工</td> <td>22週</td> <td>美術館鑑賞(予定)</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>紙製ステンドグラス:貼付け:完成</td> <td>23週</td> <td>レポートのフィードバック、グループ制作:中型作品のねらい</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>DVD鑑賞:レτζョ・エミリア市の幼児教育</td> <td>24週</td> <td>グループ制作:中型作品:テーマ選択</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>創作紙芝居制作:アイデアから下書きへ</td> <td>25週</td> <td>グループ制作:中型作品:実践(1)</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>創作紙芝居制作:全体を見る:着色(1)</td> <td>26週</td> <td>グループ制作:中型作品:全体をみる視座:実践(2)</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>創作紙芝居制作:着色(2)</td> <td>27週</td> <td>グループ制作:中型作品:実践(3)</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>創作紙芝居制作:着色(3)</td> <td>28週</td> <td>グループ制作:中型作品:問題点のチェック:実践(3)</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>創作紙芝居制作:全体を見直す:着色(4)</td> <td>29週</td> <td>グループ制作:中型作品:完成へ向けて:実践(5)</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>創作紙芝居制作:着色(5):作品講評</td> <td>30週</td> <td>グループ制作:中型作品:完成/作品講評:まとめ</td> </tr> </table>					1週	ガイダンス:講義のねらい、実施形態説明	16週	イメージを描く:聴覚	2週	紙と色彩:紙製ステンドグラス:歴史	17週	絵画表現:聴覚のイメージ	3週	紙製ステンドグラス:アイデアから下書きへ	18週	絵画表現:聴覚のイメージ・発展	4週	紙製ステンドグラス:切り取り:全体を見る	19週	イメージを描く:嗅覚	5週	紙製ステンドグラス:切り取り:細部加工	20週	絵画表現:嗅覚のイメージ	6週	紙製ステンドグラス:セロファン貼付け:全体バランス	21週	美術館鑑賞(予定:2コマ)	7週	紙製ステンドグラス:セロファン貼付け:細部加工	22週	美術館鑑賞(予定)	8週	紙製ステンドグラス:貼付け:完成	23週	レポートのフィードバック、グループ制作:中型作品のねらい	9週	DVD鑑賞:レτζョ・エミリア市の幼児教育	24週	グループ制作:中型作品:テーマ選択	10週	創作紙芝居制作:アイデアから下書きへ	25週	グループ制作:中型作品:実践(1)	11週	創作紙芝居制作:全体を見る:着色(1)	26週	グループ制作:中型作品:全体をみる視座:実践(2)	12週	創作紙芝居制作:着色(2)	27週	グループ制作:中型作品:実践(3)	13週	創作紙芝居制作:着色(3)	28週	グループ制作:中型作品:問題点のチェック:実践(3)	14週	創作紙芝居制作:全体を見直す:着色(4)	29週	グループ制作:中型作品:完成へ向けて:実践(5)	15週	創作紙芝居制作:着色(5):作品講評	30週	グループ制作:中型作品:完成/作品講評:まとめ
1週	ガイダンス:講義のねらい、実施形態説明	16週	イメージを描く:聴覚																																																														
2週	紙と色彩:紙製ステンドグラス:歴史	17週	絵画表現:聴覚のイメージ																																																														
3週	紙製ステンドグラス:アイデアから下書きへ	18週	絵画表現:聴覚のイメージ・発展																																																														
4週	紙製ステンドグラス:切り取り:全体を見る	19週	イメージを描く:嗅覚																																																														
5週	紙製ステンドグラス:切り取り:細部加工	20週	絵画表現:嗅覚のイメージ																																																														
6週	紙製ステンドグラス:セロファン貼付け:全体バランス	21週	美術館鑑賞(予定:2コマ)																																																														
7週	紙製ステンドグラス:セロファン貼付け:細部加工	22週	美術館鑑賞(予定)																																																														
8週	紙製ステンドグラス:貼付け:完成	23週	レポートのフィードバック、グループ制作:中型作品のねらい																																																														
9週	DVD鑑賞:レτζョ・エミリア市の幼児教育	24週	グループ制作:中型作品:テーマ選択																																																														
10週	創作紙芝居制作:アイデアから下書きへ	25週	グループ制作:中型作品:実践(1)																																																														
11週	創作紙芝居制作:全体を見る:着色(1)	26週	グループ制作:中型作品:全体をみる視座:実践(2)																																																														
12週	創作紙芝居制作:着色(2)	27週	グループ制作:中型作品:実践(3)																																																														
13週	創作紙芝居制作:着色(3)	28週	グループ制作:中型作品:問題点のチェック:実践(3)																																																														
14週	創作紙芝居制作:全体を見直す:着色(4)	29週	グループ制作:中型作品:完成へ向けて:実践(5)																																																														
15週	創作紙芝居制作:着色(5):作品講評	30週	グループ制作:中型作品:完成/作品講評:まとめ																																																														
成績評価 方法・基準	授業参加度30%(忘れ物厳禁、技法アイデアの提案などの主体性他)、レポート20%(美術館鑑賞)、作品50%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	nmtjbyx																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、高等学校で美術教諭として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。																																																																
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>配布プリントは必ずファイリングすること。また授業内に必ず次回内容と事前調査等必要な場合は指示を出すので、その際は考えて授業にくること。</p> <p style="text-align: right;">2時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	主体的な構えでシラバスをよく読み、絵画実践に於いては基礎から応用習得を主眼として取り組み、要所で積極的な意見交換に参加する気持ちのある学生の受講を希望する。作品制作に適した服装で受講すること(エプロン、ジャージ等)。使用道具類は開講後に伝える。																																																																

授業科目	保育内容研究「言葉」	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	山田 千春	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1701
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の領域「言葉」では自己表現の側面だけでなく、聞く力を養って相互にやりとりする会話の豊かさ、思考を深める観点が意図されている。保育現場における保育者の言語活動や環境づくりの大切さも含め乳幼児期の「言葉」は人との関わりや「遊び」を通して発達することの理解を深める。				
到達目標	① 「遊び」と「言葉」の発達が、なぜ関連するのかについて授業で習得した知識をもとに説明することができる。 ② 子どもの「言葉」の発達過程について授業で習得した知識をもとに説明することができる。 ③ 「遊びと言葉」に関する文献等の講読や研究を通して、現場での実践力を身につける。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 知識活用:各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。				
授業計画	1週 領域「言葉」の理解、「言葉の獲得」、「言葉の機能」 2週 前言語期のコミュニケーションの発達、幼児期の言葉の発達 3週 幼児期の書き言葉の発達、小学校への流れ 4週 うたや触れ合いを楽しむ遊び① わらべうた 5週 うたや触れ合いを楽しむ遊び② 手遊び 6週 絵と言葉の豊かな世界を楽しむ遊び①(絵本) 7週 絵と言葉の豊かな世界を楽しむ遊び②(紙芝居) 8週 劇や物語を楽しむ遊び 9週 劇や物語・絵と言葉を楽しむ教材研究 10週 「遊びと言葉」に関する研究① 自己の研究テーマの設定 11週 「遊びと言葉」に関する研究② テーマに沿った文献等の講読 12週 「遊びと言葉」に関する研究③ 文献等の考察 13週 「遊びと言葉」に関する研究④ まとめ 14週 遊びと言葉に関わる自分の研究事項の発表と議論① Aグループ発表 15週 遊びと言葉に関わる自分の研究事項の発表と議論② Bグループ発表				
成績評価 方法・基準	遊びと言葉に関わる自分の関心事項のまとめと発表50%、提出物40%、議論への参加態度10%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	幼稚園教育要領(文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	vgzk7rg				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	参加者は文献を配付された場合は事前に読み、また自身も授業に沿った参考資料や保育教材など を用意し関心事項を整理して議論に参加しましょう。 <div style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</div>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	遊びと言葉に関わる自分の関心事項のまとめと発表についてはまとめる力と課題関心の掘り下げを重視します。				

授業科目	教育原理特論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	大澤 亜里	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2301
授業概要	現在の幼児教育・保育に影響を与えている教育思想について、その時代背景とともに理解します。授業では近代から現代に至るまでの西洋と日本の主要な教育思想を取り上げ、それら教育思想が生まれた時代の人々がどのような社会を生き、どのような社会のあり方を望んでいたのか、またどのような子ども観、人間観を持ち、どのような教育を行おうとしたのかという観点から学んでいきます。それと同時に、子どもたちはそれぞれの時代をどのように生き、どのような教育を受けていたのかという視点を持ちながら各時代の特徴を捉えます。また文献講読を通して理解を深めながら、現代の日本における幼児教育・保育の課題や、子ども・家族を取り巻く問題について議論します。				
到達目標	①教育の基本的概念を理解し、説明することができる。 ②教育思想を、その時代の社会的状況との関わりの中で理解し説明することができる。 ③現在の日本が抱える教育課題や子ども・家族を取り巻く社会的問題について自分の意見を述べるができる。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。				
授業計画	1週 ガイダンス、教育とは 2週 近代社会の子ども観と教育(西洋) 3週 近代教育制度の成立と子どもたち(西洋) 4週 近代の教育思想家とその実践(西洋) 5週 新教育の子ども観と教育思想 6週 新教育運動とコルチャックの実践(西洋) 7週 現代の教育思想の潮流(西洋) 8週 現代の幼児教育・保育の思想と実践(主に西洋) 9週 近代教育制度の成立と子どもたち(日本) 10週 幼児教育・保育の先駆者とその思想および実践(日本) 11週 大正教育運動の思想と実践(日本) 12週 戦時下の子どもと教育(日本) 13週 現代社会の子どもと教育(日本) 14週 現代の子ども・家族・社会をとりまく諸問題(日本) 15週 授業全体のまとめ				
成績評価 方法・基準	文献の報告30%、授業内でのディスカッション20%、レポート50%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	石村華代・軽部勝一郎編著(2013)『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、藤井千春編著(2016)『時代背景から読み解く西洋教育思想』ミネルヴァ書房、小針誠(2007)『教育と子どもの社会史』梓出版社、汐見稔幸・松本園子・高田文子・矢治夕起・森川敬子(2017)『日本の保育の歴史—子ども観と保育の歴史150年』萌文書林				
クラスコード	ticjc3i				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	毎回、授業の最後に予習・復習内容を提示します。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業は文献講読、ディスカッションを取り入れながら進めていきます。授業の予習・復習を行いディスカッションに積極的に参加して下さい。				

授業科目	日本語表現法	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	講義
担当教員	山田 千春	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2201
授業概要	① 文章表現力を高めるための基礎基本的能力を身につける。 ② 資料を活用して、論理性と説得力のある文章を書けるようにする。 ③ 説得力のあるスピーチの仕方を理解し、討論やパブリックスピーキングができるようにする。 ④ 聞く人に理解してもらえるプレゼンテーションの工夫をする。				
到達目標	① 練習問題等を通して、文章表現のための基礎基本的能力を高める。 ② 資料を活用して、論理性と説得力のある文章を書くことができる。 ③ 論理的に自分の主張を組み立て、説得力のあるスピーチの仕方を理解し、自分の主張を効果的に伝えるプレゼンテーションができる。				
学科の ディプロマ・ ポリシー	4 各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。				
授業計画	1週	ガイダンス	16週	論文作成の手順、自分の論文の作成計画を立てる	
	2週	悪文の修正練習①、文体、書き言葉と話し言葉	17週	課題レポートの書き方の実際① 課題の提示、資料調査	
	3週	新聞記事を読んで感想を書く(提出1)	18週	課題レポートの書き方の実際② 作成、資料検索方法	
	4週	論理的文章の書き方①	19週	課題レポートの書き方の実際③ (提出6)	
	5週	論理的文章の書き方②	20週	討論・ディベート・会議の相違点	
	6週	資料を読みとく。表やグラフを読む。	21週	討論の実際①	
	7週	鑑賞文を書く。(ぶりてい劇場鑑賞)	22週	討論の実際②	
	8週	資料を読んで意見文を書く(提出2)	23週	討論をもとに主張文を書く(提出7)	
	9週	主張文を書く(提出3) 異なる主張から自分の考えを表現	24週	話したい出来事(スピーチ)	
	10週	小論文を書く① 課題文から小論文を書く	25週	話したい映画・本(スピーチ)	
	11週	小論文を書く② 課題文から小論文を書く(提出4)	26週	プレゼンテーションの方法	
	12週	ブックレポート① 説明、課題図書の提示	27週	プレゼンテーションの実際① 研究発表に向けて	
	13週	ブックレポート②	28週	プレゼンテーションの実際②	
	14週	ブックレポート③ (提出5)	29週	プレゼンテーション発表、相互評価	
	15週	小テスト、論文作成	30週	まとめ	
	成績評価 方法・基準	提出物(各レポート、小論文)60%、スピーチ、プレゼンテーション20%、小テスト10%、参加態度10%			
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	ykd3r3o				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	日常的に、社会の動きに注意し、思考を深める努力をしてください。さまざまな文章を読むことを心がけてください。 <div style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</div>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	基礎・基本事項から、実践的な演習を具体的に行います。積極的な授業参加を望みます。 国語辞典を準備してください。授業内課題のフィードバックを行う。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディベートの要素を含む授業です。				

授業科目	保育人間関係特論 I	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	星 信子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1301
授業概要	<p>様々な年齢段階の子どもの人間関係について詳しく学び、子どもの人との関わりを育む保育についての知見を広げる。さらに園での子どもとの関わり事例を基にした討論等を通して、遊びの中での人との関わりやその発達を支える保育者の役割について学びを深めるとともに、領域人間関係をめぐる現代の諸課題に触れ、その問題点や改善方を考える。</p>				
到達目標	<p>①子どもの様々な年齢段階における人間関係に関する知識を身につける。 ②遊びの中での人との関わりとそれを支える保育者の役割について説明できる。 ③領域人間関係をめぐる現代的諸課題に触れ、自分なりの考えを持つ。</p>				
学科のディプロマ・ポリシー	<p>2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>				
授業計画	<p>1週 オリエンテーション 人間関係形成の基礎 2週 人間関係と生涯発達 3週 子どもの人間関係 親子の関係 4週 子どもの人間関係 きょうだい関係 5週 子どもの人間関係 仲間関係 6週 子どもの人間関係 保育者との関係 7週 子どもの人間関係 子どもの集団 8週 子どもの人間関係 学校への移行 9週 人との関わりを見る視点 10週 遊びの中の人との関わり・保育者の役割 事例の検討(遊び相手から) 11週 遊びの中の人との関わり・保育者の役割 事例の検討(遊びの分類から) 12週 遊びの中の人との関わり・保育者の役割 事例の検討(遊びの発達の变化から) 13週 領域人間関係をめぐる現代的諸課題 現代社会の特徴 14週 領域人間関係をめぐる現代的諸課題 親の生き方の変化 15週 まとめ</p>				
成績評価方法・基準	定期試験90%、平常点10%				
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
クラスコード	ysfqff				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	<p>授業の後はノートや資料を見なおして内容を確認しましょう。専門的な用語を自分の言葉で説明できるように、取り組んでみましょう。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	<p>講義を受けた内容をもとに、自分なりの考え方を持つことが大切です。討論の際にはそれを積極的に交換し、より理解を深めていきましょう。</p>				

授業科目	保育人間関係特論Ⅱ	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	星 信子	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限なし	ナンバリング	MC-MS 1302
授業概要	望ましい愛着関係の形成は、発達初期の人間関係形成における最も重要な発達課題であるだけでなく、その人の生涯に渡る対人関係の基礎となる信頼関係の形成を支える大切なものである。愛着関係の発達にかかわる知識は、発達の最初期の子どもに対応する保育者として、特に乳児にかかわる専門家として必須の知識であるといっても過言ではない。本講義では、基本的な愛着の理論に加えて、臨床場面での応用、実践での応用も含め、愛着関係について総合的に学ぶ。				
到達目標	①愛着関係の形成の理論に関する基本的な知識を身につける。 ②愛着関係の形成の理論の応用について知る。 ③保育の現場における愛着関係の形成の意義を自分なりに考える。				
学科のディプロマ・ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。				
授業計画	1週 オリエンテーション 2週 アタッチメントの理論 3週 内的作業モデル 4週 アタッチメントの個人差 5週 子どものアタッチメント 6週 保育者・教師へのアタッチメント 7週 青年期以降のアタッチメント 8週 アタッチメントの世代間伝達 9週 アタッチメントと文化 10週 発達障がいとアタッチメント 11週 アタッチメントと児童虐待 12週 児童福祉ケアとアタッチメント 13週 不登校とアタッチメント 14週 DV被害者支援への応用 15週 まとめ				
成績評価方法・基準	レポート:50% 報告:40% 平常点:10%				
教科書ソフト等	なし:授業内で適宜資料を配布します。				
参考書等	数井みゆき・遠藤利彦編著『アタッチメント 生涯にわたる絆』(ミネルヴァ書房)、数井みゆき・遠藤利彦編著『アタッチメントと臨床領域』(ミネルヴァ書房)				
クラスコード	4bog7ix				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	本講義は、基本的に購読と発表を中心に行います。事前に提示された資料に基づき報告の準備をしっかりと行いましょう。				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	発表においては、主体的に討議に参加しましょう。				

授業科目	子どもの特別支援と精神保健	配当年次	2年	必修選択	選択																									
		開講期	通年	講義形態	講義																									
担当教員	今西 良輔	単位数	4	授業回数	30																									
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2401																									
授業概要	近年、子育てを取り巻く様々なところの問題への理解が深まるとともに、保育においても、子どもだけでなく保護者も含めた、一体的な保育の重要性が認識されるに至っています。本授業では、本科「子どもの保健」「特別支援教育と保育」「保育相談支援」等での学習を基盤に、子どもや保護者のところの問題や支援に関する学びを、講義、文献講読及びディスカッションを通して深めます。																													
到達目標	① 児童期に見られるところの問題と支援に関する知識や考えを深める。 ② 保護者のところの問題と支援に関する知識や考えを深める。 ③ 保育者自身のメンタルヘルスに関する知識や考えを深める。																													
学科の ディプロマ・ ポリシー	2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。																													
授業計画	1週 障害の理解と歴史(特別支援教育)	16週 精神疾患の理解① 統合失調症	2週 様々な障害の理解と支援(知的障害、聴覚障害、視覚障害、肢体不自由等)	17週 精神疾患の理解② 人格障害、境界性人格障害	3週 発達障害の理解と支援について(自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害等)	18週 精神疾患の理解③ 感情障害	4週 特別支援および合理的配慮を必要とする子どもの理解	19週 精神疾患の理解④ 不安障害	5週 特別な支援を必要とする子どもへの指導計画の理解	20週 精神疾患の理解⑤ アディクション	6週 特別な支援を必要とする子どもへの指導計画の作成と立案	21週 精神疾患の理解⑥ 認知症	7週 専門職者による子どもの支援と連携	22週 精神疾患への対応と関係機関との連携	8週 支援の必要な子どもの理解	23週 保護者のメンタルヘルス① ライフサイクルと健康	9週 支援を必要とする子どもの地域活動と社会資源	24週 保護者のメンタルヘルス② 労働と健康	10週 障害のある人達と共生する地域の創造	25週 保護者のメンタルヘルス③ 子育てと健康	11週 特別な支援を必要とする保護者の理解と現状	26週 児童虐待と家族への支援① 虐待の構造	12週 障害のある子どもの保護者の意識(障害受容、障害告知)	27週 児童虐待と家族への支援② 子どもの状況	13週 障害のある子どもの保護者への支援(自立支援と専門職者の役割)	28週 児童虐待と家族への支援③ 家族の背景	14週 中間試験とまとめ	29週 児童虐待と家族への支援④ 専門機関との連携	15週 精神障害の理解と歴史	30週 授業内試験とまとめ
成績評価 方法・基準	授業内試験50%、ディスカッションへの参加状況50%																													
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																													
参考書等	近藤直司・田中康雄・本田秀夫(2017)「こころの医学入門 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために」中央法規																													
クラスコード	hkgwx7																													
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	実務経験のある教員が担当します。																													
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業後に講義内容をまとめ、復習をしっかりと行ってください。また、次の授業の予習についても示します。																													
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	この授業では、配付資料の講読やグループディスカッションを取り入れながら進めていきます。この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業となっています。																													

授業科目	保育環境特論	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	柘植 純一	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2501																																																												
授業概要	<p>本科在学中に学んだ「幼児と環境」をさらに深めて、保育環境としての自然に関して実体験を通して学び、より深く考えることを目的とする。持続可能な社会を構築するための環境問題、必要な生活スタイルについて考察する。特に都市に居住する幼児にとっての身近な自然について、実際に大学周辺の環境を通して学習する。また、子どもの遊び場となる身近な環境の調査、保育施設等の衛生状態の検査等も行う。さらに幼児教育における食育のあり方・食品の安全性についても考察する。Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書購読を通して子どもとともに自然に向き合う保育者に必要な感性、姿勢について考える。</p>																																																																
到達目標	<p>①常に子どもの視点に立った保育環境について考えを述べるができる。②子どもを細菌性食中毒の危険から守るために必要なことを説明できる。④レイチェル・カーソンが「センスオブワンダー」で述べていることについて保育者として子どもと向き合うときの姿勢について考えを述べるができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1週</td><td>ガイダンス</td><td>16週</td><td>保育における環境教育①身の回りの環境問題</td></tr> <tr><td>2週</td><td>幼稚園・保育所における食育①解説</td><td>17週</td><td>保育における環境教育②環境配慮した行動についての考察</td></tr> <tr><td>3週</td><td>幼稚園・保育所における食育②動画視聴</td><td>18週</td><td>保育における環境教育③こども環境管理士試験の過去問題(2018年)</td></tr> <tr><td>4週</td><td>チンパンジーの子育てに人間の子育ての原点を見る①解説</td><td>19週</td><td>保育における環境教育④こども環境管理士試験の過去問題(2022年)</td></tr> <tr><td>5週</td><td>チンパンジーの子育てに人間の子育ての原点を見る②動画視聴</td><td>20週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読①p15～p17</td></tr> <tr><td>6週</td><td>保育環境における電磁波の調査①電磁波についての概論</td><td>21週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読②p22～p30</td></tr> <tr><td>7週</td><td>保育環境における電磁波の調査②電磁波測定の体験</td><td>22週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読③p31～p44</td></tr> <tr><td>8週</td><td>黄色ブドウ球菌の増殖①培養</td><td>23週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読④p45～p55</td></tr> <tr><td>9週</td><td>黄色ブドウ球菌の増殖②菌数の測定</td><td>24週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑤p56～p67</td></tr> <tr><td>10週</td><td>家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査①培養1</td><td>25週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑥p67～p76</td></tr> <tr><td>11週</td><td>家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査②培養1(培養)1の続き</td><td>26週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑦p77～p85</td></tr> <tr><td>12週</td><td>児童公園の砂場の細菌検査①試料採取</td><td>27週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑧p90～p92</td></tr> <tr><td>13週</td><td>児童公園の砂場の細菌検査②培養</td><td>28週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑨p92～p94</td></tr> <tr><td>14週</td><td>外来生物</td><td>29週</td><td>Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑩p100～p106</td></tr> <tr><td>15週</td><td>大学周辺の外来生物調査</td><td>30週</td><td>映画「レイチェル・カーソンの感性の森」</td></tr> </table>					1週	ガイダンス	16週	保育における環境教育①身の回りの環境問題	2週	幼稚園・保育所における食育①解説	17週	保育における環境教育②環境配慮した行動についての考察	3週	幼稚園・保育所における食育②動画視聴	18週	保育における環境教育③こども環境管理士試験の過去問題(2018年)	4週	チンパンジーの子育てに人間の子育ての原点を見る①解説	19週	保育における環境教育④こども環境管理士試験の過去問題(2022年)	5週	チンパンジーの子育てに人間の子育ての原点を見る②動画視聴	20週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読①p15～p17	6週	保育環境における電磁波の調査①電磁波についての概論	21週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読②p22～p30	7週	保育環境における電磁波の調査②電磁波測定の体験	22週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読③p31～p44	8週	黄色ブドウ球菌の増殖①培養	23週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読④p45～p55	9週	黄色ブドウ球菌の増殖②菌数の測定	24週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑤p56～p67	10週	家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査①培養1	25週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑥p67～p76	11週	家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査②培養1(培養)1の続き	26週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑦p77～p85	12週	児童公園の砂場の細菌検査①試料採取	27週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑧p90～p92	13週	児童公園の砂場の細菌検査②培養	28週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑨p92～p94	14週	外来生物	29週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑩p100～p106	15週	大学周辺の外来生物調査	30週	映画「レイチェル・カーソンの感性の森」
1週	ガイダンス	16週	保育における環境教育①身の回りの環境問題																																																														
2週	幼稚園・保育所における食育①解説	17週	保育における環境教育②環境配慮した行動についての考察																																																														
3週	幼稚園・保育所における食育②動画視聴	18週	保育における環境教育③こども環境管理士試験の過去問題(2018年)																																																														
4週	チンパンジーの子育てに人間の子育ての原点を見る①解説	19週	保育における環境教育④こども環境管理士試験の過去問題(2022年)																																																														
5週	チンパンジーの子育てに人間の子育ての原点を見る②動画視聴	20週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読①p15～p17																																																														
6週	保育環境における電磁波の調査①電磁波についての概論	21週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読②p22～p30																																																														
7週	保育環境における電磁波の調査②電磁波測定の体験	22週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読③p31～p44																																																														
8週	黄色ブドウ球菌の増殖①培養	23週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読④p45～p55																																																														
9週	黄色ブドウ球菌の増殖②菌数の測定	24週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑤p56～p67																																																														
10週	家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査①培養1	25週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑥p67～p76																																																														
11週	家庭内における大腸菌群による汚染状況の検査②培養1(培養)1の続き	26週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑦p77～p85																																																														
12週	児童公園の砂場の細菌検査①試料採取	27週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑧p90～p92																																																														
13週	児童公園の砂場の細菌検査②培養	28週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑨p92～p94																																																														
14週	外来生物	29週	Rachel Carson著“The Sense of Wonder”の原書講読⑩p100～p106																																																														
15週	大学周辺の外来生物調査	30週	映画「レイチェル・カーソンの感性の森」																																																														
成績評価 方法・基準	授業内でのレポート70%, 平常点30%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	34e33mp																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	授業で学習したこと、実験したことを保育者としてどう活かすかを常に考える。																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	常に子どもの目の高さになり、子どもにとって最適な環境について考えることを心がける。																																																																

授業科目	保育音楽特論	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	浅沼 恵輔	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2703																																																												
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器制作やサウンドスケープの学習、リトミック体験を通し、様々な音楽表現について学習します ・本科で習得したピアノ演奏技術を活かし、弾き歌い曲や連弾曲を学習します。 ・弾き歌いの学習により、子どもの表現力育成のための伴奏技術や歌唱技術を習得します。 ・連弾の学習により、より高度な演奏技術や他の人と演奏を合わせる技術を習得します。 																																																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 楽器制作を通し、音階の仕組みを知り、自分の表現活動に活かすことができる。 ② リトミック体験を通し、音楽表現と音楽教育についての見識を深めることができる。 ③ 身近な音に興味を持ち、自分たちの生活との関わりを考察し相手に伝えることができる。 ④ 曲に応じたピアノ技術、歌唱技術を習得し、より豊かな表現のために演奏の工夫をすることができる。 																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>ガイダンス(授業内容とねらい) 楽器製作① バンジーチャイムについて学ぶ</td> <td>16週</td> <td>連弾の楽しみ① 連弾曲に親しむ</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>楽器制作② グループ分け、作業</td> <td>17週</td> <td>連弾の楽しみ② グループ分け、選曲</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>楽器制作③ バンジーチャイムの完成、発表</td> <td>18週</td> <td>連弾の楽しみ③ 個人での譜読み</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>リトミック体験① リトミックの知識を深める</td> <td>19週</td> <td>連弾の楽しみ④ 二人で合わせて練習</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>リトミック体験② リトミックの模擬授業</td> <td>20週</td> <td>連弾の楽しみ⑤ 二人の表現を合わせる</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>サウンドスケープ① 身近な音を見つける</td> <td>21週</td> <td>連弾の楽しみ⑥ 表現の工夫を考える</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>サウンドスケープ② 身近な音の採集</td> <td>22週</td> <td>連弾の楽しみ⑦ 発表に向けての仕上げ</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>サウンドスケープ③ サウンドスケープマップを作る</td> <td>23週</td> <td>連弾の楽しみ⑧ 発表</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>季節の歌① 選曲、譜読み</td> <td>24週</td> <td>行事の歌① 選曲、譜読み</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>季節の歌② 伴奏の練習</td> <td>25週</td> <td>行事の歌② 伴奏の練習</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>季節の歌③ 伴奏の表現を工夫する</td> <td>26週</td> <td>行事の歌③ 伴奏の表現を工夫する</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>季節の歌④ 歌の練習</td> <td>27週</td> <td>行事の歌④ 歌の練習</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>季節の歌⑤ 歌の表現を工夫する</td> <td>28週</td> <td>行事の歌⑤ 歌の表現を工夫する</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>季節の歌⑥ 発表に向けての仕上げ</td> <td>29週</td> <td>行事の歌⑥ 発表に向けての仕上げ</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>季節の歌⑦ 発表とまとめ</td> <td>30週</td> <td>行事の歌⑦ 発表、1年間のまとめ</td> </tr> </table>					1週	ガイダンス(授業内容とねらい) 楽器製作① バンジーチャイムについて学ぶ	16週	連弾の楽しみ① 連弾曲に親しむ	2週	楽器制作② グループ分け、作業	17週	連弾の楽しみ② グループ分け、選曲	3週	楽器制作③ バンジーチャイムの完成、発表	18週	連弾の楽しみ③ 個人での譜読み	4週	リトミック体験① リトミックの知識を深める	19週	連弾の楽しみ④ 二人で合わせて練習	5週	リトミック体験② リトミックの模擬授業	20週	連弾の楽しみ⑤ 二人の表現を合わせる	6週	サウンドスケープ① 身近な音を見つける	21週	連弾の楽しみ⑥ 表現の工夫を考える	7週	サウンドスケープ② 身近な音の採集	22週	連弾の楽しみ⑦ 発表に向けての仕上げ	8週	サウンドスケープ③ サウンドスケープマップを作る	23週	連弾の楽しみ⑧ 発表	9週	季節の歌① 選曲、譜読み	24週	行事の歌① 選曲、譜読み	10週	季節の歌② 伴奏の練習	25週	行事の歌② 伴奏の練習	11週	季節の歌③ 伴奏の表現を工夫する	26週	行事の歌③ 伴奏の表現を工夫する	12週	季節の歌④ 歌の練習	27週	行事の歌④ 歌の練習	13週	季節の歌⑤ 歌の表現を工夫する	28週	行事の歌⑤ 歌の表現を工夫する	14週	季節の歌⑥ 発表に向けての仕上げ	29週	行事の歌⑥ 発表に向けての仕上げ	15週	季節の歌⑦ 発表とまとめ	30週	行事の歌⑦ 発表、1年間のまとめ
1週	ガイダンス(授業内容とねらい) 楽器製作① バンジーチャイムについて学ぶ	16週	連弾の楽しみ① 連弾曲に親しむ																																																														
2週	楽器制作② グループ分け、作業	17週	連弾の楽しみ② グループ分け、選曲																																																														
3週	楽器制作③ バンジーチャイムの完成、発表	18週	連弾の楽しみ③ 個人での譜読み																																																														
4週	リトミック体験① リトミックの知識を深める	19週	連弾の楽しみ④ 二人で合わせて練習																																																														
5週	リトミック体験② リトミックの模擬授業	20週	連弾の楽しみ⑤ 二人の表現を合わせる																																																														
6週	サウンドスケープ① 身近な音を見つける	21週	連弾の楽しみ⑥ 表現の工夫を考える																																																														
7週	サウンドスケープ② 身近な音の採集	22週	連弾の楽しみ⑦ 発表に向けての仕上げ																																																														
8週	サウンドスケープ③ サウンドスケープマップを作る	23週	連弾の楽しみ⑧ 発表																																																														
9週	季節の歌① 選曲、譜読み	24週	行事の歌① 選曲、譜読み																																																														
10週	季節の歌② 伴奏の練習	25週	行事の歌② 伴奏の練習																																																														
11週	季節の歌③ 伴奏の表現を工夫する	26週	行事の歌③ 伴奏の表現を工夫する																																																														
12週	季節の歌④ 歌の練習	27週	行事の歌④ 歌の練習																																																														
13週	季節の歌⑤ 歌の表現を工夫する	28週	行事の歌⑤ 歌の表現を工夫する																																																														
14週	季節の歌⑥ 発表に向けての仕上げ	29週	行事の歌⑥ 発表に向けての仕上げ																																																														
15週	季節の歌⑦ 発表とまとめ	30週	行事の歌⑦ 発表、1年間のまとめ																																																														
成績評価 方法・基準	発表60% 授業への意欲40%																																																																
教科書 ソフト等	小林美実編『こどものうた200』『続 こどものうた200』チャイルド本社、『ほどよいレベルで弾ける保育者のためのピアノ&童謡曲60』圭文社																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	yce5kk5																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	弾き歌いや連弾の際はしっかりと自己練習を行ってください。 1時間から2時間程度/週																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。																																																																

授業科目	保育美術特論	配当年次	2年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	山崎 正明	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2701																																																												
授業概要	<p>幼児の遊びや生活の中で、美術に関わることに広く目を向けることを目的に、主に遊具の制作に取り組む。文献資料や実物の見学により、遊具の持つ要素を分析し理解する。個人制作により、子どもの発展性のある遊びを考慮した遊具を設計し、制作する。完成した遊具で遊ぶ子どもの観察から作品を検証し、保育美術に対する考え方や感性を高める。</p>																																																																
到達目標	<p>幼児を取り巻く環境の中で美術の役割を広く捉えることができる。子どもの遊びや文化的な環境に対する適切な考えや知識・技術を身につけ、実践に生かすことができる。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>ガイダンス(ねらい・年間予定)</td> <td>16週</td> <td>造形制作-① 構想 設計</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>子どもの遊具とは(種類、機能、安全性)</td> <td>17週</td> <td>造形制作-② 制作 部品</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>遊具の調査 見学</td> <td>18週</td> <td>造形制作-③ 制作 全体構造</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>遊具制作1-① 構想</td> <td>19週</td> <td>造形制作-④ 仕上げ 完成</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>遊具制作1-② アイディアスケッチ、大きさ検討</td> <td>20週</td> <td>子どもの遊び、生活(道具、機能、個性)</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>遊具制作1-③ 詳細検討</td> <td>21週</td> <td>遊具制作2-① アイディアスケッチ、大きさ検討</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>遊具制作1-④ 寸法決定</td> <td>22週</td> <td>遊具制作2-② 詳細検討</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>遊具制作1-⑤ 材料墨入れ</td> <td>23週</td> <td>遊具制作2-③ 寸法決定</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>遊具制作1-⑥ 材料切断</td> <td>24週</td> <td>遊具制作2-④ 材料切断</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>遊具制作1-⑦ 部品墨入れ</td> <td>25週</td> <td>遊具制作2-⑤ 部品加工</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>遊具制作1-⑧ 部品加工</td> <td>26週</td> <td>遊具制作2-⑥ 表面仕上げ</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>遊具制作1-⑨ 研磨</td> <td>27週</td> <td>遊具制作2-⑦ 着色</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>遊具制作1-⑩ 塗装</td> <td>28週</td> <td>遊具制作2-⑧ 塗装</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>遊具制作1-⑪ 塗装(2度塗り)</td> <td>29週</td> <td>遊具制作2-⑨ 組立</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>遊具制作1-⑫ 組立 完成</td> <td>30週</td> <td>遊具制作2-⑩ 完成</td> </tr> </table>					1週	ガイダンス(ねらい・年間予定)	16週	造形制作-① 構想 設計	2週	子どもの遊具とは(種類、機能、安全性)	17週	造形制作-② 制作 部品	3週	遊具の調査 見学	18週	造形制作-③ 制作 全体構造	4週	遊具制作1-① 構想	19週	造形制作-④ 仕上げ 完成	5週	遊具制作1-② アイディアスケッチ、大きさ検討	20週	子どもの遊び、生活(道具、機能、個性)	6週	遊具制作1-③ 詳細検討	21週	遊具制作2-① アイディアスケッチ、大きさ検討	7週	遊具制作1-④ 寸法決定	22週	遊具制作2-② 詳細検討	8週	遊具制作1-⑤ 材料墨入れ	23週	遊具制作2-③ 寸法決定	9週	遊具制作1-⑥ 材料切断	24週	遊具制作2-④ 材料切断	10週	遊具制作1-⑦ 部品墨入れ	25週	遊具制作2-⑤ 部品加工	11週	遊具制作1-⑧ 部品加工	26週	遊具制作2-⑥ 表面仕上げ	12週	遊具制作1-⑨ 研磨	27週	遊具制作2-⑦ 着色	13週	遊具制作1-⑩ 塗装	28週	遊具制作2-⑧ 塗装	14週	遊具制作1-⑪ 塗装(2度塗り)	29週	遊具制作2-⑨ 組立	15週	遊具制作1-⑫ 組立 完成	30週	遊具制作2-⑩ 完成
1週	ガイダンス(ねらい・年間予定)	16週	造形制作-① 構想 設計																																																														
2週	子どもの遊具とは(種類、機能、安全性)	17週	造形制作-② 制作 部品																																																														
3週	遊具の調査 見学	18週	造形制作-③ 制作 全体構造																																																														
4週	遊具制作1-① 構想	19週	造形制作-④ 仕上げ 完成																																																														
5週	遊具制作1-② アイディアスケッチ、大きさ検討	20週	子どもの遊び、生活(道具、機能、個性)																																																														
6週	遊具制作1-③ 詳細検討	21週	遊具制作2-① アイディアスケッチ、大きさ検討																																																														
7週	遊具制作1-④ 寸法決定	22週	遊具制作2-② 詳細検討																																																														
8週	遊具制作1-⑤ 材料墨入れ	23週	遊具制作2-③ 寸法決定																																																														
9週	遊具制作1-⑥ 材料切断	24週	遊具制作2-④ 材料切断																																																														
10週	遊具制作1-⑦ 部品墨入れ	25週	遊具制作2-⑤ 部品加工																																																														
11週	遊具制作1-⑧ 部品加工	26週	遊具制作2-⑥ 表面仕上げ																																																														
12週	遊具制作1-⑨ 研磨	27週	遊具制作2-⑦ 着色																																																														
13週	遊具制作1-⑩ 塗装	28週	遊具制作2-⑧ 塗装																																																														
14週	遊具制作1-⑪ 塗装(2度塗り)	29週	遊具制作2-⑨ 組立																																																														
15週	遊具制作1-⑫ 組立 完成	30週	遊具制作2-⑩ 完成																																																														
成績評価 方法・基準	作品80%、受講態度等20%																																																																
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	nfadpym																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>絵本(ほかストーリー性のある物)・おもちゃ・日用品などの子どもと美術の関係を改めて見直し、「ここがもう少しこうだったらいい、こんなものがあつたらいい」ということを考えてください。 1時間から2時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	作業に応じてジャージやエプロンを用意してください。																																																																

授業科目	基礎ゼミナール		配当年次	1年	必修選択	選択
			開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	田中 住幸、柘植 純一、星 信子、松井 亜樹、 山田 千春、加藤雅子、今西 良輔、大澤 亜里、遠山 景広		単位数	2	授業回数	30
			履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1801
授業概要	授業は、2年生の修了研究と同様、保育内容「健康・環境」系、保育内容「表現」系、基礎理論系の3つの講座に分かれ、ゼミナール形式で実施する。修了研究のゼミナールに参加する他、保育に関する研究の論文を読んで発表し、検討を行う中で、研究の方法を学ぶ。広範囲にわたる保育の研究の中から、自分の関心のある領域を選び、2年生の修了研究に向けて、テーマの選定などを行う。					
到達目標	① 保育に関わる様々な研究の方法を理解する。 ② 保育に関わる文献を読み、理解できる。 ③ 自分なりに関心のある保育の領域・研究テーマを選定する。					
学科の ディプロマ・ ポリシー	5 論理的思考力:一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。					
授業計画	1～3週 (3週)	ガイダンス 3つの講座を順にまわりそれぞれの分野 の研究テーマについて知る				
	4～13週 (10週)	文献の講読・修了研究のゼミナールへの 参加		16～28週 文献の講読・修了研究のゼミナールへの (13週) 参加		
	14週	修了研究経過報告会への参加		29週	修了研究成果発表会への参加	
	15週	修了研究経過報告会の振り返り		30週	修了研究成果発表会の振り返り	
	成績評価 方法・基準	文献講読の発表の内容50%、研究テーマの選定の状況50%				
教科書 ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。					
参考書等	なし。授業内で指示します。					
クラスコード	7z7kvtf					
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無						
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	教員の指導に基づいて講読などを進めますが、その内容は各自の学習意欲に負うところが大きいです。自分なりにしっかりと考え、自発的に取り組みましょう。 1時間から2時間程度/週					
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	関心のある領域、テーマの選定に向けて、図書館や論文検索システム等を利用し、多くの文献にふれましょう。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。					

授業科目	修了研究(基礎理論系)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	星 信子、大澤 亜里、今西 良輔、遠山 景広	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2802
授業概要	<p>受講学生は、保育の基礎理論に関連して、これまでの授業、実習等を通して生じた興味・関心を基に、各自の研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究に取り組む。テーマとしては、子どもの心理発達に関わるもの、特別な支援を要する子どもの発達支援に関するもの、保育の中で子ども理解とその援助に関わるもの、保護者支援に関わるものなどを扱う。研究の経過については、授業内で随時発表し、複数の教員からの指導と学生同士の質疑応答を通して、随時省察を行う。研究を通しての学修成果については、研究経過発表会、研究成果発表会を経て、論文として提出する。</p>				
到達目標	<p>① 教育学または心理学の方法に基き調査・研究を行った上で、客観的に結果を把握し、論考することができる。 ② 自らの研究成果を他者に伝えるためのプレゼンテーション能力を身につける。 ③ 調査・研究の実践の中で、教育学または心理学の理論に基づいた子ども理解の方法を身につける。 ④ 保育における子どもの発達支援・保護者支援の在り方について自分なりの考えをもつことができる。</p>				
学科のディプロマ・ポリシー	<p>1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4 各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。</p>				
授業計画	<p>1～6週 (6週) 「先行研究の検討」 各自が興味あるテーマに関する先行研究をレビューし、全体でディスカッションを行う。</p> <p>7～15週 (9週) 「研究の立案と中間発表」 先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。</p> <p>16～23週 (8週) 「研究の実施と報告」 各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。</p> <p>24～30週 (7週) 「論文の作成とプレゼンテーション」 各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。</p> <p>※上記のゼミナールと並行して、指導教員による研究の個別指導を行う。 個別指導では、研究テーマの決定、実施方法の検討、結果の考察および論文作成、プレゼンテーションの準備等を行います。</p>				
成績評価方法・基準	<p>論文の構成(1. 問題と目的、2. 方法、3. 結果、4. 考察、5. 引用・参考文献)の全てを満たして執筆していること 論文にまとめられた内容(40%)・経過報告会および成果報告会での口頭発表と質疑応答(30%)・学修の過程での取り組み(30%)</p>				
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	lqbc6xq				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	<p>教員の指導に基づいて研究及び論文作成を進めるが、内容の深度は各自の学修意欲に負うところが大きい。研究テーマに関して自分なりにしっかりと考え、自発的に研究に取り組むこと。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	<p>基礎ゼミナールでの学習をふまえて実施します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	修了研究(保育内容「環境」「健康」系)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	柘植 純一、田中 住幸	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2802
授業概要	<p>「幼児の自然と触れ合う遊びの実態」「幼児が身近な自然と触れ合える保育環境」「保育現場における食農教育」等に関する研究論文を収集し、専攻科1年生科目「基礎ゼミナール」と同時開催するゼミで発表する。これまでの学習を基に研究テーマを決定し、指導教員のアドバイスの下に実験・調査を行い、得られた結果について科学的に考察し修了研究発表会でプレゼンテーションを行うとともに、論文としてまとめる。また研究遂行の過程において上記「基礎ゼミナール」と同時開催されるゼミナールで経過報告を行いディスカッションをする。</p>				
到達目標	<p>① 自分で行った調査・実験結果から科学的根拠に基づいて客観的に何が言えるかを導き出すことができる。 ② 先行研究ですでに明らかになっていることと自分の研究結果から導き出されたことを比較し、研究の意義および今後の課題について批判的な見地にも立ち客観的に考察することができる。 ③ 自分が行った研究の背景、目的および結果をプレゼンテーションにより他者に伝えることができる。</p>				
学科のディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4 各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。 				
授業計画	<p>1～14週 1-①「文献購読ゼミ」 のうち8週 自分の研究テーマや興味のある分野についての先行研究を紹介し、全員で討議します。</p> <hr/> <p>1～14週 1-②「リサーチゼミ」 のうち6週 自分が取り組んでいる研究の経過および展開について紹介し、全員で討議します。 1-①の「文献購読ゼミ」と1-②の「リサーチゼミ」は、研究の進捗状況により随時組み合わせ実施します。</p> <hr/> <p>15週 1.プレゼンテーションリハーサル 7月の経過報告会の直前にリハーサルを行い、全員で討議します。</p> <hr/> <p>16～29週 2-①「文献購読ゼミ」 のうち8週 自分の研究テーマや興味のある分野についての先行研究を紹介し、全員で討議します。</p> <hr/> <p>16～29週 2-②「リサーチゼミ」 のうち6週 自分が取り組んでいる研究の経過および展開について紹介し、全員で討議します。 2-①の「文献購読ゼミ」と2-②の「リサーチゼミ」は、研究の進捗状況により随時組み合わせ実施します。</p> <hr/> <p>30週 2.プレゼンテーションリハーサル 1月の研究成果報告会の直前にリハーサルを行い、全員で討議します。</p> <hr/> <p>※上記のゼミナールと並行して、指導教員による研究の個別指導を行う。 個別指導では、研究テーマの決定、実施方法の検討、結果の考察および論文作成、プレゼンテーションの準備</p>				
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・論文にまとめられた内容(40%) ・経過報告会および成果報告会での口頭発表と質疑応答(30%) ・最終の過程での取り組み(30%) 				
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	日本食育学会誌、こどもの環境学研究、環境教育、幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)				
クラスコード	ozc7ld3				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	<p>毎回配付する資料を読み直して復習しておく。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	<p>保育内容「環境」に興味をもち、真理の探究意欲的に取り組みたい人の履修を希望します。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	修了研究(保育内容「表現」系)	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	通年	講義形態	演習
担当教員	松井 亜樹、山田 千春、加藤 雅子	単位数	4	授業回数	30
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 2802
授業概要	受講学生は、保育内容「表現」や「言葉」に関する研究の中で、各自が設定する目標や幼児に関わる美術・音楽・言語・文化などの具体的なテーマを定め、その関心を学問的な問題意識へと発展させるために、専門文献を解説する方法を学び、研究に取り組む。また、フィールドワークを行ったり、調査を行いながら考察を行う。研究を通しての学修成果については、研究経過発表会、研究成果発表会を経て、修了研究レポートとして提出する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 領域「表現(音楽・美術)」や「言葉」に関する活動の保育における役割をこれまでの学習と先行研究により総合的に理解する。 ② 前述の内容をもとに自ら研究テーマを持ち、より具体的に保育現場に即した視点を持つ。 ③ 研究テーマについて明らかにするための適切な研究方法を設定する。 ④ 研究データを分析・考察するための正しい情報処理と分析ができる。 ⑤ 自らの考察を客観的に他者に伝えることのできる表現力を身につける。 				
学科のディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。 2 幼児教育・保育にかかわる理論を自分なりに理解するとともに、子どもの成長・発達についての幅広い専門的知識を修得している。 3 社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。 4 各々の得意分野をさらに磨き、幼児教育・保育の実践に必要な高い技術を持っている。 5 一定のテーマについて根拠に基づいて論理的に考察し、的確に表現することができる。 				
授業計画	<p>1～6週 (6週) 「先行研究の検討」 自分の研究対象や研究の視角に関わって、すでに行われてきた研究や調査・評論などを個々に収集し、その内容を同領域内受講者とディスカッションすることで自分の研究課題がどのような意義があるのかを確認する。</p> <p>7～15週 (9週) 「研究の立案と中間発表」 先行研究の検討結果をふまえて、各自の研究の目的、方法等を検討して立てた研究計画について、ディスカッションを行う。さらに、その立案内容を履修計画書にまとめ、研究経過発表会で発表する。経過発表後は、より質の高い論文作成に向け、研究計画を再考する。</p> <p>16～23週 (8週) 「研究の実施と報告」 各自が研究計画に基づいて研究を実施するとともに、フィールドで得たデータを分析した結果について発表し、全体でディスカッションを行う。</p> <p>24～30週 (7週) 「論文の作成とプレゼンテーション」 各自で研究結果を論文にまとめる経過を報告し、全体でディスカッションを行う。さらに研究成果発表会で質の高いプレゼンテーションを行えるよう準備する。</p> <p>※上記のゼミナールと並行して、指導教員による研究の個別指導を行う。 個別指導では、研究テーマの決定、実施方法の検討、結果の考察および論文作成、プレゼンテーションの準備等を行います。</p>				
成績評価方法・基準	論文の構成(1. 問題と目的、2. 方法、3. 結果、4. 考察、5. 引用・参考文献)の全てを満たして執筆していること ・論文にまとめられた内容(40%)・経過報告会および成果報告会での口頭発表と質疑応答(30%)・学修の過程での取り組み(30%)				
教科書ソフト等	なし。授業内で適宜、資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	xjsuqwa				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は実務の経験を有する教員が実践的教育を行います。				
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	教員の指導に基づいて論文の作成を進めますが、自己の研究に対して主体的に取り組ましましょう。 2時間から3時間程度/週				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	文章およびデータはパソコンで処理、管理します。文章作成やデータ処理がスムーズに行えるように作業の基本を学んでおいてください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるプレゼンテーションの要素を含む授業です。				

授業科目	幼稚園実習	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	実習
担当教員	大澤 亜里	単位数	3	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1604
授業概要	主に札幌市立幼稚園において実習を行い、本科での学びや経験を通して築いた保育観をさらに深めます。実習は8月後半から9月前半までの3週間行い、その内容は実習園に委ねます。事前指導では、札幌市立幼稚園の特色(自由保育的保育形態や障害児の積極的な受け入れなど)について学び、そこでの教師の保育観や子ども観、教育課程や指導計画、環境構成等について実習を通して学び取ることができるように準備をします。実習後は自身の課題の整理や考察を行います。この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの自発性を引き出す教師の関わり方について自分の意見を述べるができる。 ② チーム保育の在り方について自分の意見を述べるができる。 ③ 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本がどのように実践されているか理解し、説明することができる。 ④ 自身の課題を発見し、その解決に向けての道筋を立てることができる。 				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導(札幌市立幼稚園の特色と実習の心得) 2. 実習園との事前打ち合わせ 3. 札幌市立幼稚園等での実習(8月後半から9月前半の3週間) 4. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 見学・観察・参加実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 実習園の人的環境、物的環境、地域環境などを把握する ② 観察、参加、記録、反省を通して、子ども理解や教師の関わり方について実習する ③ その他担当教諭の指導のもと必要な事項について見学・観察・参加活動をする 2) 部分実習・全日実習 <ol style="list-style-type: none"> ① 担当教諭の指導のもとに指導計画を作成し指導実習を行う ② 保育後は指導計画に沿った評価・反省をし、記録をとる ③ その他各実習園の指導に従い必要な活動を行う 5. 保育科教員による研究保育日の巡回指導 6. 事後指導 実習報告書の作成及び課題の整理、実習報告会への参加 				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書・報告会への参加(平常点)25%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	nqrwaf3				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	本科での実習の振り返りや事前指導から自己の課題を明確にして実習に臨んでください。また実習後はその課題に対する反省を行ってください。 実習前に事前確認する時間を確保してください				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	授業計画の実施に当たっては、幼児教育課程特論との連携で実施します。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。				

授業科目	保育所実習	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	大澤 亜里	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1601
授業概要	<p>実習は保育者になるための実践的学習の場である。これまで学んだ保育の理論が実際の子どもの関わりや現場の指導者を通して、より理解が深まるように意欲的な取り組みが求められる。実習目的が達成できるように各自が課題を探り実習に備えた上で、より実践的な保育者としての素養を身に付ける。</p> <p>この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 保育所や認定こども園の役割を理解できる。 ② 実習計画、課題を明確にし、理解・説明できる。 ③ 保育者の役割を理解し、自分なりに実践することができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。				
授業計画	<p>1. 理解 ① 保育所・認定こども園の目的と役割の理解 ② 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解</p> <hr/> <p>2. 今までの実習の評価、反省を踏まえて実習計画を作成</p> <hr/> <p>3. 実習にあたって自らの研究課題を決める</p> <hr/> <p>4. 保育所での実習(2週間) ①参加実習 ②指導実習 ③実習記録</p> <hr/> <p>5. 事後指導およびフィードバック</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書25%				
教科書 ソフト等	なし。事前・事後指導で適宜、資料を配付する。				
参考書等	なし。事前・事後指導で指示する。				
クラスコード	5wz3lz7				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	今までの実習を振り返り、自身の課題を整理しておくこと。				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	各自で実習課題を立案し、実習園の保育方針に合わせて検討を行っていく。選択する学生は実習に対する目的意識を持つように準備をすること。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。				

授業科目	施設実習	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	実習
担当教員	今西 良輔	単位数	2	授業回数	—
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-MS 1602
授業概要	<p>本科での保育実習や関連科目で学習した知識と経験を活かし、さらなる実践力を磨くことを目的とします。受講生は各自、実習における課題を事前指導の中で設定し、課題に基づいて実習に取り組みます。そして、実習課題に基づいた実践と結果の関連性を考察し、自分の実践の意味をより深く考えることで、実践力を向上させることを目指します。</p> <p>この科目は、実習を中心に位置づけている実践的教育を行っています。</p>				
到達目標	<p>① 課題を踏まえた実習を通して、自己の実践の意味に関してより深く理解する。 ② 利用者個々のニーズに応じた援助方法について実践を通してより深く理解する。 ③ 課題を踏まえた実習を通して、保育者としての自己の課題をより明確化する。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	3 協調性:社会の問題を多角的に捉え、客観的に把握するとともに、他の専門職と協働して解決に向けて行動するリーダーシップを身につけている。				
授業計画	<p>1. 事前指導 これまでの実習の振り返り、実習を行う施設の概要についての学習 実習課題の設定 実習計画書の作成と検討</p> <p>2. 事前打ち合わせ</p> <p>3. 実習内容 1)見学・観察・参加実習 ① 実習施設の人的環境、物的環境、地域環境を知る ② 利用者の一日の生活の流れを知り、利用者の活動と職員の援助を観察する。 ③ 実習担当職員の指導を受けながら、利用者とは活動を共にし、利用者へ援助補助をする。 2)援助実習 ① 担当職員の指導を受けながら、実習施設の援助計画に合わせて実習する。 ② 各自課題を設定し、援助計画を立てて実習する。 ③ その他、必要な活動を行う。</p> <p>4. 事後指導 実習前後の課題の整理と検討、実習報告会</p>				
成績評価 方法・基準	実習園の評価50%、実習日誌25%、実習報告書25%				
教科書 ソフト等	なし。必要に応じて資料を配付します。				
参考書等	なし。授業内で指示します。				
クラスコード	ruxgb3p				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無					
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>受講生は、本科での実習の振り返りを通して、さらに学びたい課題を明確にして、事前指導及び実習に臨むようにしてください。</p> <p style="text-align: right;">実習前に事前確認する時間を確保してください</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>各自で実習課題を立案し、実習施設の形態に合わせて検討を行っていきます。選択する学生は実習に対する目的意識を持つようになしてください。</p> <p>この科目は、アクティブ・ラーニングにおける実習の要素を含む授業です。</p>				

授業科目	仏教思想史特論Ⅰ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	宮本 浩尊	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-IE 1101
授業概要	<p>文化を構成する要素に「ことば」があります。「ことば」は、他者と意思疎通するために必須の道具ですが、使い方を誤れば争いの原因にもなる双刃の刃です。</p> <p>仏教は、その最初期から「ことば」を大切に扱ってきました。仏教はインドで誕生した宗教ですが、アジア全域の文化に強い影響を与えました。このことは、仏教の思想が、地域性や時代性、そして「ことば」の壁を超えて人間にとって大切なことを伝える思想であることを証明しています。</p> <p>この授業では「ことば」という概念を手がかりとして仏教思想を学び、「ことば」の持つ可能性を考えます。</p>				
到達目標	<p>① 古典を読むことを通して、人類の叡智に直接的に触れることができる。</p> <p>② 仏教思想の内容と、仏教がどのように伝播していったのかを知ることができる。</p> <p>③ 「情操教育」についての知見を持つことができる。</p>				
学科のディプロマ・ポリシー	1 人間性:建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス(授業内容、目的、計画、評価方法の確認等)</p> <p>2週 釈尊の生涯①</p> <p>3週 釈尊の生涯②</p> <p>4週 釈尊の思想①</p> <p>5週 釈尊の思想②</p> <p>6週 釈尊の思想③</p> <p>7週 仏弟子たちの時代</p> <p>8週 大乘仏教の思想①</p> <p>9週 大乘仏教の思想②</p> <p>10週 大乘仏教の思想③</p> <p>11週 中国への仏教伝来</p> <p>12週 中国仏教思想史</p> <p>13週 日本への仏教伝来</p> <p>14週 まとめ</p> <p>15週 授業内試験</p>				
成績評価方法・基準	平常点(出席・課題の提出等)50%、授業内試験50%				
教科書ソフト等	なし。適宜、プリントやスライドで対応する。				
参考書等	なし。適宜、授業内で指示する。				
クラスコード	lvpwxtv				
授業科目に関連した実務経験のある教員の配置の有無	この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間	<p>講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。</p> <p style="text-align: right;">2時間から3時間程度/週</p>				
受講時の注意事項とアクティブ・ラーニング情報	考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。				

授業科目	仏教思想史特論Ⅱ	配当年次	1年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	宮本 浩尊	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-IE 1102
授業概要	<p>仏教思想史特論Ⅰから継続して、仏教の思想について学ぶ。この授業では、特に日本仏教の特徴と、親鸞聖人の思想を学ぶ。そして、具体的に釈尊と親鸞聖人の遺した「言葉」に触れることを通して、「人間」という存在についての理解を深めます。</p> <p>*この授業は、「仏教思想史特論Ⅰ」を受講したことを前提として講義を行います。そのため、受講者は前期の「仏教思想史特論Ⅰ」を受講しておくことが望ましい。</p>				
到達目標	<p>① 古典を読むことを通して、人類の叡智に直接的に触れることができる。 ② 親鸞聖人の教えに基づいて、自分自身の生き方について考えることができる。 ③ 保育者として他者と関わる際のひとつの指標を持つことができる。 ④ 「情操教育」についての知見を持つことができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性:建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス(授業内容、目的、計画、評価方法の確認等)</p> <p>2週 飛鳥時代から奈良時代の仏教</p> <p>3週 平安時代の仏教</p> <p>4週 親鸞聖人の生涯</p> <p>5週 親鸞聖人の思想①</p> <p>6週 親鸞聖人の思想②</p> <p>7週 釈尊の言葉に触れる①</p> <p>8週 釈尊の言葉に触れる②</p> <p>9週 釈尊の言葉に触れる③</p> <p>10週 釈尊の言葉に触れる④</p> <p>11週 親鸞聖人の言葉に触れる①</p> <p>12週 親鸞聖人の言葉に触れる②</p> <p>13週 親鸞聖人の言葉に触れる③</p> <p>14週 まとめ</p> <p>15週 授業内試験</p>				
成績評価 方法・基準	平常点(出席・課題の提出等)50%、授業内試験50%				
教科書 ソフト等	なし。適宜、プリントやスライドで対応する。				
参考書等	なし。適宜、授業内で指示する。				
クラスコード	uh7spyz				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。 1時間から2時間程度/週				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。				

授業科目	実用英語	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	クリストファー・ブレイン・サイモンズ	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-IE 1201																																																												
授業概要	基本語彙や表現を復習しながら、日常生活で必要とされる英語の語彙・表現とそれを使う英語文化圏の背景を学習する。自己表現力の幅を広げ、基本的な表現をアウトプットできるように英語の4技能全般に渡り授業を展開する。																																																																
到達目標	① 日常生活に関する基本的な語彙・表現を使って簡単な英会話ができる。 ② 英語を繰り返し練習し、正確な発音、イントネーションなどを身につけることができる。 ③ 児童向けの絵本や歌に親しみ、英語圏の社会や文化の理解を深めることができる。																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 人間性:建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>ホームステイ初日① 挨拶をする</td> <td>16週</td> <td>インターネットを調べて① 誘う</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>ホームステイ初日② 自己紹介をする</td> <td>17週</td> <td>インターネットを調べて② 誘いを受ける</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>キャンパスで① 感想を言う</td> <td>18週</td> <td>食料品店で① 誘いを断る</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>キャンパスで② 道を尋ねる</td> <td>19週</td> <td>食料品店で② 料理を説明する</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>カフェで① 注文をする</td> <td>20週</td> <td>週末の予定① 聞きなおす</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>カフェで② 勧める</td> <td>21週</td> <td>週末の予定② 丁寧に尋ねる</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>ベンチで① お願いする</td> <td>22週</td> <td>独立記念日に① 予定を尋ねる</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>ベンチで② 丁寧な依頼をする</td> <td>23週</td> <td>独立記念日に② 予定を述べる</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>街で① 場所を説明する</td> <td>24週</td> <td>広場で① 提案をする</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>街で② 所要時間を聞く</td> <td>25週</td> <td>広場で② 覚えていることを言う</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>授業の前に① 人を描写する</td> <td>26週</td> <td>二人きりで① 会話を切り出す</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>授業の前に② 出来事を話す</td> <td>27週</td> <td>二人きりで② どちらが好きかを言う</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>体調が悪い日① 体調を言う</td> <td>28週</td> <td>帰国の日① 確かめる</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>体調が悪い日② 回復の助言をする</td> <td>29週</td> <td>帰国の日② 今していることを述べる</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>授業内試験(復習テスト)と前期のまとめ</td> <td>30週</td> <td>授業内試験(復習テスト)と後期のまとめ</td> </tr> </table>					1週	ホームステイ初日① 挨拶をする	16週	インターネットを調べて① 誘う	2週	ホームステイ初日② 自己紹介をする	17週	インターネットを調べて② 誘いを受ける	3週	キャンパスで① 感想を言う	18週	食料品店で① 誘いを断る	4週	キャンパスで② 道を尋ねる	19週	食料品店で② 料理を説明する	5週	カフェで① 注文をする	20週	週末の予定① 聞きなおす	6週	カフェで② 勧める	21週	週末の予定② 丁寧に尋ねる	7週	ベンチで① お願いする	22週	独立記念日に① 予定を尋ねる	8週	ベンチで② 丁寧な依頼をする	23週	独立記念日に② 予定を述べる	9週	街で① 場所を説明する	24週	広場で① 提案をする	10週	街で② 所要時間を聞く	25週	広場で② 覚えていることを言う	11週	授業の前に① 人を描写する	26週	二人きりで① 会話を切り出す	12週	授業の前に② 出来事を話す	27週	二人きりで② どちらが好きかを言う	13週	体調が悪い日① 体調を言う	28週	帰国の日① 確かめる	14週	体調が悪い日② 回復の助言をする	29週	帰国の日② 今していることを述べる	15週	授業内試験(復習テスト)と前期のまとめ	30週	授業内試験(復習テスト)と後期のまとめ
1週	ホームステイ初日① 挨拶をする	16週	インターネットを調べて① 誘う																																																														
2週	ホームステイ初日② 自己紹介をする	17週	インターネットを調べて② 誘いを受ける																																																														
3週	キャンパスで① 感想を言う	18週	食料品店で① 誘いを断る																																																														
4週	キャンパスで② 道を尋ねる	19週	食料品店で② 料理を説明する																																																														
5週	カフェで① 注文をする	20週	週末の予定① 聞きなおす																																																														
6週	カフェで② 勧める	21週	週末の予定② 丁寧に尋ねる																																																														
7週	ベンチで① お願いする	22週	独立記念日に① 予定を尋ねる																																																														
8週	ベンチで② 丁寧な依頼をする	23週	独立記念日に② 予定を述べる																																																														
9週	街で① 場所を説明する	24週	広場で① 提案をする																																																														
10週	街で② 所要時間を聞く	25週	広場で② 覚えていることを言う																																																														
11週	授業の前に① 人を描写する	26週	二人きりで① 会話を切り出す																																																														
12週	授業の前に② 出来事を話す	27週	二人きりで② どちらが好きかを言う																																																														
13週	体調が悪い日① 体調を言う	28週	帰国の日① 確かめる																																																														
14週	体調が悪い日② 回復の助言をする	29週	帰国の日② 今していることを述べる																																																														
15週	授業内試験(復習テスト)と前期のまとめ	30週	授業内試験(復習テスト)と後期のまとめ																																																														
成績評価 方法・基準	授業内試験40%、小テスト20%、グループ活動20%、平常点(授業参加度)20%																																																																
教科書 ソフト等	Kazuko Morita 『新 保育の英語』 SANSYUSHA 2018.2.10 第3版																																																																
参考書等	アルクキッズ英語編集部編 『英語の歌&アクティビティ集』 アルク 2005年																																																																
クラスコード	4da4y3r																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無																																																																	
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	予復習に一定の時間をかけ、重要事項と表現を何度も反復すること。 1時間から2時間/週																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	必ず教科書を購入し、辞書・A4判ファイル等とともに毎回持参すること。グループ活動のフィードバックは前後期のまとめ時間に行う。																																																																

授業科目	情報処理演習	配当年次	1年	必修選択	選択																																																												
		開講期	通年	講義形態	演習																																																												
担当教員	常見 裕子	単位数	2	授業回数	30																																																												
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-IE 1202																																																												
授業概要	<p>短期大学部保育科共通科目である「情報処理」の応用授業。Wordの応用演習の他、「Microsoft Excel」の基礎から応用、さらにはWordやExcelで作成した文書やデータを元に「Microsoft PowerPoint」でのプレゼンテーションなどを学習する。また、それぞれのソフトの操作方法を理解するだけでなく、学習したソフトを1つのツールとして活用し、調べたこと、自分の考えを表現することができるようになることを目標としている。</p>																																																																
到達目標	<p>① 文書デザイン・ワープロ検定試験上級資格取得を目指す。 ② Excel表計算検定試験取得を目指す。 ③ 卒業論文に必要なパソコンの知識(Excelでのデータ統計、PowerPointでの発表など)を習得する。</p>																																																																
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>1 人間性:建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1週</td> <td>Word機能の確認と練習課題①</td> <td>16週</td> <td>ふりがな機能 行列の編集</td> </tr> <tr> <td>2週</td> <td>Word機能の確認と練習課題②</td> <td>17週</td> <td>絶対参照と相対参照、様々な書式設定</td> </tr> <tr> <td>3週</td> <td>Word機能の確認と練習課題③</td> <td>18週</td> <td>関数Ⅱ (ROUND・INTなど)</td> </tr> <tr> <td>4週</td> <td>レポート・論文などで必要な様々な機能</td> <td>19週</td> <td>データベース機能① 並べ替え、抽出</td> </tr> <tr> <td>5週</td> <td>ビジネス文書作成① 基本的知識含む</td> <td>20週</td> <td>データベース機能② 抽出の応用</td> </tr> <tr> <td>6週</td> <td>ビジネス文書作成② 地図・表入り</td> <td>21週</td> <td>関数Ⅲ (IF、VLOOKUP関数他)</td> </tr> <tr> <td>7週</td> <td>ワープロ・文書デザイン検定試験対策①</td> <td>22週</td> <td>グラフの作成</td> </tr> <tr> <td>8週</td> <td>ワープロ・文書デザイン検定試験対策②</td> <td>23週</td> <td>データベース集計① ピボットテーブル、集計作業他</td> </tr> <tr> <td>9週</td> <td>ワープロ・文書デザイン検定試験対策③</td> <td>24週</td> <td>データベース集計② ピボットテーブル、印刷の設定</td> </tr> <tr> <td>10週</td> <td>パソコンメールのマナーと形式 PDFファイル変換など</td> <td>25週</td> <td>Word & Excel 複合文書作成①</td> </tr> <tr> <td>11週</td> <td>Power Pointでプレゼンテーション①</td> <td>26週</td> <td>Word & Excel 複合文書作成②</td> </tr> <tr> <td>12週</td> <td>Power Pointでプレゼンテーション②</td> <td>27週</td> <td>実務練習課題と検定試験対策①</td> </tr> <tr> <td>13週</td> <td>Power Pointでプレゼンテーション③</td> <td>28週</td> <td>実務練習課題と検定試験対策②</td> </tr> <tr> <td>14週</td> <td>Excelの基本操作① 四則演算</td> <td>29週</td> <td>実務練習課題と検定試験対策③</td> </tr> <tr> <td>15週</td> <td>Excelの基本操作② 関数Ⅰ</td> <td>30週</td> <td>実務練習課題と検定試験対策④</td> </tr> </table>					1週	Word機能の確認と練習課題①	16週	ふりがな機能 行列の編集	2週	Word機能の確認と練習課題②	17週	絶対参照と相対参照、様々な書式設定	3週	Word機能の確認と練習課題③	18週	関数Ⅱ (ROUND・INTなど)	4週	レポート・論文などで必要な様々な機能	19週	データベース機能① 並べ替え、抽出	5週	ビジネス文書作成① 基本的知識含む	20週	データベース機能② 抽出の応用	6週	ビジネス文書作成② 地図・表入り	21週	関数Ⅲ (IF、VLOOKUP関数他)	7週	ワープロ・文書デザイン検定試験対策①	22週	グラフの作成	8週	ワープロ・文書デザイン検定試験対策②	23週	データベース集計① ピボットテーブル、集計作業他	9週	ワープロ・文書デザイン検定試験対策③	24週	データベース集計② ピボットテーブル、印刷の設定	10週	パソコンメールのマナーと形式 PDFファイル変換など	25週	Word & Excel 複合文書作成①	11週	Power Pointでプレゼンテーション①	26週	Word & Excel 複合文書作成②	12週	Power Pointでプレゼンテーション②	27週	実務練習課題と検定試験対策①	13週	Power Pointでプレゼンテーション③	28週	実務練習課題と検定試験対策②	14週	Excelの基本操作① 四則演算	29週	実務練習課題と検定試験対策③	15週	Excelの基本操作② 関数Ⅰ	30週	実務練習課題と検定試験対策④
1週	Word機能の確認と練習課題①	16週	ふりがな機能 行列の編集																																																														
2週	Word機能の確認と練習課題②	17週	絶対参照と相対参照、様々な書式設定																																																														
3週	Word機能の確認と練習課題③	18週	関数Ⅱ (ROUND・INTなど)																																																														
4週	レポート・論文などで必要な様々な機能	19週	データベース機能① 並べ替え、抽出																																																														
5週	ビジネス文書作成① 基本的知識含む	20週	データベース機能② 抽出の応用																																																														
6週	ビジネス文書作成② 地図・表入り	21週	関数Ⅲ (IF、VLOOKUP関数他)																																																														
7週	ワープロ・文書デザイン検定試験対策①	22週	グラフの作成																																																														
8週	ワープロ・文書デザイン検定試験対策②	23週	データベース集計① ピボットテーブル、集計作業他																																																														
9週	ワープロ・文書デザイン検定試験対策③	24週	データベース集計② ピボットテーブル、印刷の設定																																																														
10週	パソコンメールのマナーと形式 PDFファイル変換など	25週	Word & Excel 複合文書作成①																																																														
11週	Power Pointでプレゼンテーション①	26週	Word & Excel 複合文書作成②																																																														
12週	Power Pointでプレゼンテーション②	27週	実務練習課題と検定試験対策①																																																														
13週	Power Pointでプレゼンテーション③	28週	実務練習課題と検定試験対策②																																																														
14週	Excelの基本操作① 四則演算	29週	実務練習課題と検定試験対策③																																																														
15週	Excelの基本操作② 関数Ⅰ	30週	実務練習課題と検定試験対策④																																																														
成績評価 方法・基準	<p>平常点30%、課題提出50%、検定試験結果(またはその取り組み姿勢)20% 課題の提出・返却に、Classroomを使用する。課題の評価結果は、Classroomにより知らせる。</p>																																																																
教科書 ソフト等	『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算(第4版)』発行:日経BP社 発売:日経BPマーケティング																																																																
参考書等	なし。授業内で指示します。																																																																
クラスコード	qqkqp3k																																																																
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	会社内でのPC業務など実務経験有り、幼稚園教諭対象のPCセミナーなど担当経験有り																																																																
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。 入力速度をあげるため、タイピング練習(ブラインドタッチ)を継続練習する。</p> <p style="text-align: right;">1時間程度/週</p>																																																																
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	短期大学部保育科共通科目である「情報処理」で学習した「Microsoft Word」の基本操作が概ね理解できていることを前提としています																																																																

授業科目	職業論	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	前期	講義形態	講義
担当教員	藪 淳一	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-IE 2202
授業概要	<p>最近の若い保育者は、「社会人としての自覚が欠けている」と指摘されることが少なくありません。学生と社会人の違いは何だろう？「働く」とはどういうことだろう？このようなテーマを常に問い続けながら、幼稚園・保育所・認定こども園等の労働条件や勤務実態について学ぶと同時に、職場での実践力を身につけます。また、保育者としての生き方を設計し、社会人に向けた準備を整えることを目的とします。</p>				
到達目標	<p>① 「働くこと」について考え、保育という専門職に対する視野を広げる。 ② 「社会人になること」への意識を高め、就業力を向上させる。 ③ 社会人として適切なふるまいができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	<p>1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。</p>				
授業計画	<p>1週 ガイダンス 2週 自分を知る 3週 働くことの意味と価値観 4週 プロフェッショナル 5週 労働時間と賃金 6週 コミュニケーション 7週 マナーと言葉づかい 8週 チームワークとリーダーシップ 9週 問題解決能力と論理的思考力 10週 学外授業(園見学) 11週 保育の魅力 12週 就職活動の現状と採用試験 13週 キャリアデザイン 14週 進路選択に向けて 15週 授業内試験(筆記)とまとめ</p>				
成績評価 方法・基準	<p>授業内試験30%、授業課題30%、授業内での発言20%、授業への態度20%</p>				
教科書 ソフト等	<p>なし。授業内で適宜、資料を配付します。</p>				
参考書等	<p>なし。授業内で指示します。</p>				
クラスコード	<p>4dlescl</p>				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	<p>この科目は、幼稚園理事長・園長として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。</p>				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>何事においても、「考える」習慣を身につけておくこと。幼稚園や保育所の実態、保育者の仕事内容について、積極的に情報収集すること。 1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	<p>主に対話型の授業を行います。思いや考えを伝え合い、課題を解決していくプロセスを大切にしますので、主体的に授業に参加してください。 この科目は、アクティブ・ラーニングにおけるディスカッションの要素を含む授業です。</p>				

授業科目	仏教文化史	配当年次	2年	必修選択	選択
		開講期	後期	講義形態	講義
担当教員	宮本 浩尊	単位数	2	授業回数	15
		履修人数	制限あり	ナンバリング	MC-IE 2101
授業概要	<p>文化を構成する要素に「ことば」があります。「ことば」は、他者と意思疎通するために必須の道具ですが、使い方を誤れば争いの原因にもなる双刃の刃です。</p> <p>仏教は、その最初期から「ことば」を大切に扱ってきました。仏教はインドで誕生した宗教ですが、アジア全域の文化に強い影響を与えました。このことは、仏教の思想が、地域性や時代性、そして「ことば」の壁を超えて人間にとって大切なことを伝える思想であることを証明しています。この授業では「ことば」という概念を手がかりとして仏教思想を学び、「ことば」の持つ可能性を考えます。</p>				
到達目標	<p>① 仏教が示す人間像を学ぶことを通して、人間存在について考えることができる。</p> <p>② 釈尊のことばに直接触れることによって、現代社会にどのように応用できるか考えることができる。</p> <p>③ 「ことば」を大切に扱うことの意義を知ることができる。</p>				
学科の ディプロマ・ ポリシー	1 建学の精神に基づいた豊かな人間性と、学びの成果を活用して社会に貢献しようとする使命感を持ち、社会人としての教養を身につけている。				
授業計画	<p>1週 ガイダンス(授業内容、目的、計画、評価方法の確認等)</p> <p>2週 仏教思想概論①</p> <p>3週 仏教思想概論②</p> <p>4週 仏教思想概論③</p> <p>5週 仏教思想概論④</p> <p>6週 ジャータカ物語を読み、議論する①</p> <p>7週 ジャータカ物語を読み、議論する②</p> <p>8週 ジャータカ物語を読み、議論する③</p> <p>9週 ジャータカ物語を読み、議論する④</p> <p>10週 ダンマパダを読み、議論する①</p> <p>11週 ダンマパダを読み、議論する②</p> <p>12週 ダンマパダを読み、議論する③</p> <p>13週 ダンマパダを読み、議論する④</p> <p>14週 まとめ</p> <p>15週 授業内試験</p>				
成績評価 方法・基準	平常点(出席・課題の提出等)50%、授業内試験50%				
教科書 ソフト等	なし。適宜、プリントやスライドで対応する。				
参考書等	なし。適宜、授業内で指示する。				
クラスコード	tj7bjtg				
授業科目に関連した実務経験 のある教員の配置の有無	この科目は、真宗大谷派僧侶として実務経験のある教員が実践的教育を行っています。				
予習・復習の具体的な内容 とそれに必要な時間	<p>講義ノートの内容を整理して、復習ノートを作成する。</p> <p style="text-align: right;">1時間から2時間程度/週</p>				
受講時の注意事項と アクティブ・ラーニング情報	考える姿勢を身につける。単に「わからない」で終わらせるのではなく「何がわからないのか」を考える習慣を身につけ、それを表現できるようになってほしい。				